

令和 7 年度第 3 回文京区地域福祉推進協議会障害者部会次第

令和 7 年 1 月 13 日（火）午後 1 時から午後 3 まで
障害者会館会議室 A・B（文京シビックセンター 3 階）

1 開会

2 議題

障害者（児）実態・意向調査結果の報告について
【資料第 1-1 号、資料第 1-2 号】

3 その他

次年度の障害者部会について

障害者（児）実態・意向調査の結果について

1 目的

令和 9 年度から令和 11 年度までの 3 年間を計画期間とした障害者・児計画を策定するに当たり、その基礎資料を得るとともに、障害者・児のサービス利用状況・希望及び障害福祉サービス等事業所の現状を把握するため、令和 7 年度に実態調査を実施した。

2 調査対象者及び調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、障害児、区内障害福祉サービス等事業所及び都内・都外長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）と、区内等の障害福祉サービス等事業所を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）を実施した。

3 調査の内容

(1) 量的調査（アンケート調査）

以下の対象ごとに調査票を郵送（回収は郵送またはインターネット）

- ①在宅の方 ②18 歳未満の方 ③施設に入所している方
- ④サービス事業所 ⑤長期入院施設

(2) 質的調査（インタビュー調査）

属性、日中及び施設での活動、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、地域との交流、将来の希望等をグループ・インタビューによって聞き取り

4 実施時期

(1) 量的調査（アンケート調査）

令和 7 年 10 月 1 日～令和 7 年 10 月 31 日

(2) 質的調査（インタビュー調査）

令和 7 年 8 月～令和 7 年 12 月

5 実施結果

(1) 量的調査（アンケート調査）回収状況

① 区民向け調査

調査の種類	配布数	有効回収票数 (インターネット回答数)	有効回収率 (インターネット回収率)
在宅の方	5, 850	2, 493 (883)	42.6% (15.1%)
18 歳未満の方	1, 084	465 (287)	42.9% (26.5%)
施設に入所している方	139	82 (16)	59.0% (11.5%)
計	7, 073	3, 040 (1186)	

② サービス等事業所向け調査

調査の種類	配布数	有効回収票数 (インターネット回答数)	有効回収率 (インターネット回収率)
サービス事業所	106	83 (48)	78.3% (45.3%)

③ 長期入院施設向け調査

調査の種類	配布数	有効回収票数 (インターネット回答数)	有効回収率 (インターネット回収率)
長期入院施設	167	149 (8)	89.2% (4.8%)

(2) 質的調査（インタビュー調査）

施設（22か所）の利用者に対して実施

6 調査結果

別紙のとおり

文京区障害者（児）実態・意向調査結果の報告

目 次

◆ 調査の概要	1
◆ 量的調査（アンケート調査）	
○ 在宅の方を対象にした調査	3
○ 18 歳未満の方を対象にした調査	36
○ 施設に入所している方を対象にした調査	53
○ サービス事業所を対象にした調査	59
○ 長期入院施設を対象にした調査	69
◆ 質的調査（インタビュー調査）	73

令和 7 年度
文 京 区

1 調査の概要

1 調査の目的

文京区では障害者及び障害児がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文の京 ハートフルプラン 文京区地域福祉保健計画 障害者・児計画」に基づき、障害福祉施策を推進しています。

令和8年度に次期障害者・児計画（令和9年度～令和11年度）を策定するに当たり、障害者・児の方々の日常生活の実態、サービスの利用状況や希望等を把握して基礎資料とするため、実態・意向調査を実施しました。

また、区内の障害福祉サービス等事業所を対象に事業所の運営状況や福祉人材の現状を把握するとともに、都内・都外の医療機関における区民の長期入院患者の状況を把握することで、今後の障害福祉サービス等の基盤整備に資するための基礎資料とします。

2 調査の対象と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、18歳未満の障害児、区内障害福祉サービス等事業所及び都内・都外長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）並びに区内施設等を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の2種類を実施しました。

2 量的調査（アンケート調査）

1 調査の種類

調査の種類	対象者
在宅の方	<p>文京区内に居住し、以下に該当する方</p> <ul style="list-style-type: none">・身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方 (肢体不自由、内部障害は無作為抽出、その他の障害は全数)・愛の手帳をお持ちの18歳以上の方(全数)・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの18歳以上の方(全数)・難病医療券をお持ちの18歳以上の方(全数)
18歳未満の方	<p>文京区内に居住し、以下に該当する方(全数)</p> <ul style="list-style-type: none">・身体障害者手帳をお持ちの18歳未満の方・愛の手帳をお持ちの18歳未満の方・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの18歳未満の方・難病医療券をお持ちの18歳未満の方・障害児通所支援受給者証をお持ちの18歳未満の方
施設に入所している方	<ul style="list-style-type: none">・身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスを利用中の18歳以上の方
サービス事業所	<ul style="list-style-type: none">・文京区内の指定障害福祉サービス等事業所
長期入院施設	<ul style="list-style-type: none">・都内及び都外の長期入院施設(医療機関)

※対象者の年齢は、令和7年4月1日を基準日としています。

2 調査方法

調査票を郵送配布し、郵送又はインターネットにより回収する方式で実施しました。

3 調査期間

令和7年10月1日～10月31日

4 配布・回収状況

調査の種類	配布数	有効回収票数 (インターネット回答数)	有効回収率 (インターネット回収率)
在宅の方	5, 850	2, 493 (883)	42.6% (15.1%)
18歳未満の方	1, 084	465 (287)	42.9% (26.5%)
施設に入所している方	139	82 (16)	59.0% (11.5%)
サービス事業所	106	83 (48)	78.3% (45.3%)
長期入院施設	167	149 (8)	89.2% (4.8%)
合計	7, 346	3, 272	44.5% (16.9%)

(注)

- 各設問のnは、回答者の総数を表しています。
- 設問数が多いため本資料には、一部の設問を抜粋して掲載しております。
- 各調査の身体障害、知的障害、精神障害、難病（特定疾病）の回答者数の合計は、重複障害者が含まれているため全体の数と一致しません。
- 「施設入所の方の調査」では、精神障害、難病（特定疾病）の回答者がいないため、分析はありません。
- 「長期入院施設用の調査」については、167か所の病院に対して、調査票を配付し、149か所の病院から調査票の回答がきています。分析では、長期入院者がいない病院を除き、53人の長期入院患者の情報を集計しています。

3 在宅の方を対象にした調査

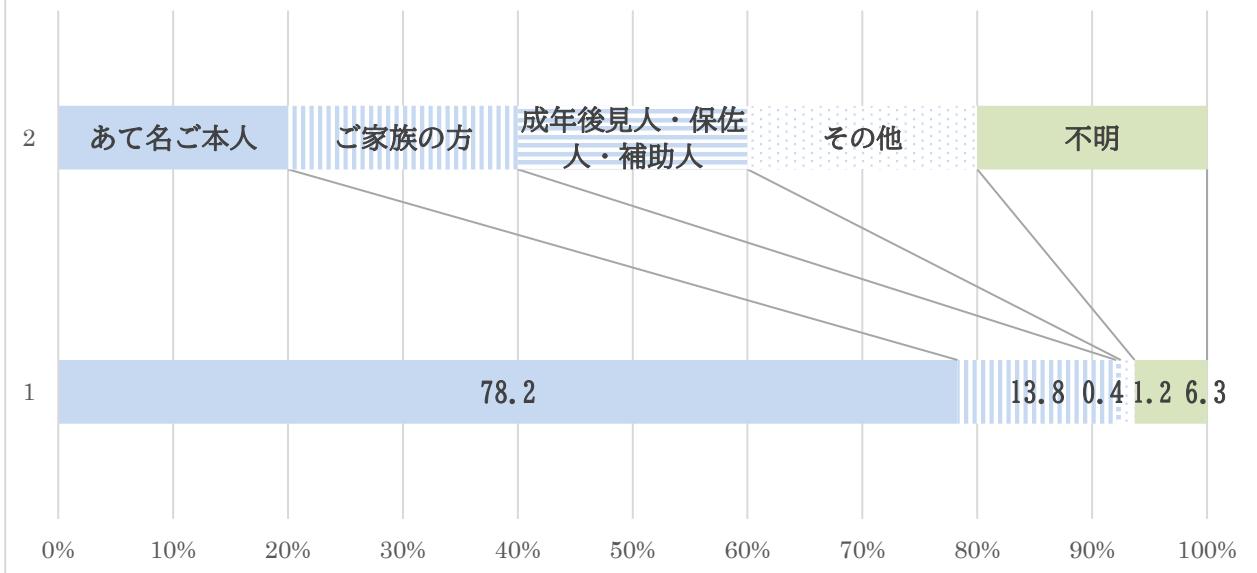
1 対象者特性

(1-1) 回答者（問1）

《全体》

(%)

n=2,493



回答者については、「あて名ご本人」が78.2%、「ご家族の方」が13.8%となっています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	あて名ご本人	ご家族の方	成年後見人等	その他	不明
肢体不自由	320	61.6	25.0	0.9	0.9	11.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	54.0	36.8	1.1	1.1	6.9
視覚障害	163	67.5	21.5	0.6	0.6	9.8
聴覚・平衡機能障害	153	82.4	13.1	0.0	0.0	4.6
内部障害	324	82.1	10.5	0.3	0.0	7.1
知的障害	256	32.8	49.2	1.6	9.4	7.0
発達障害	263	75.7	18.6	0.0	0.8	4.9
精神障害	626	82.7	6.7	0.5	0.3	4.8
高次脳機能障害	40	60.0	30.0	5.0	0.0	5.0
難病（特定疾病）	817	86.4	8.8	0.1	0.1	4.5
その他	42	76.2	19.0	0.0	2.4	2.4

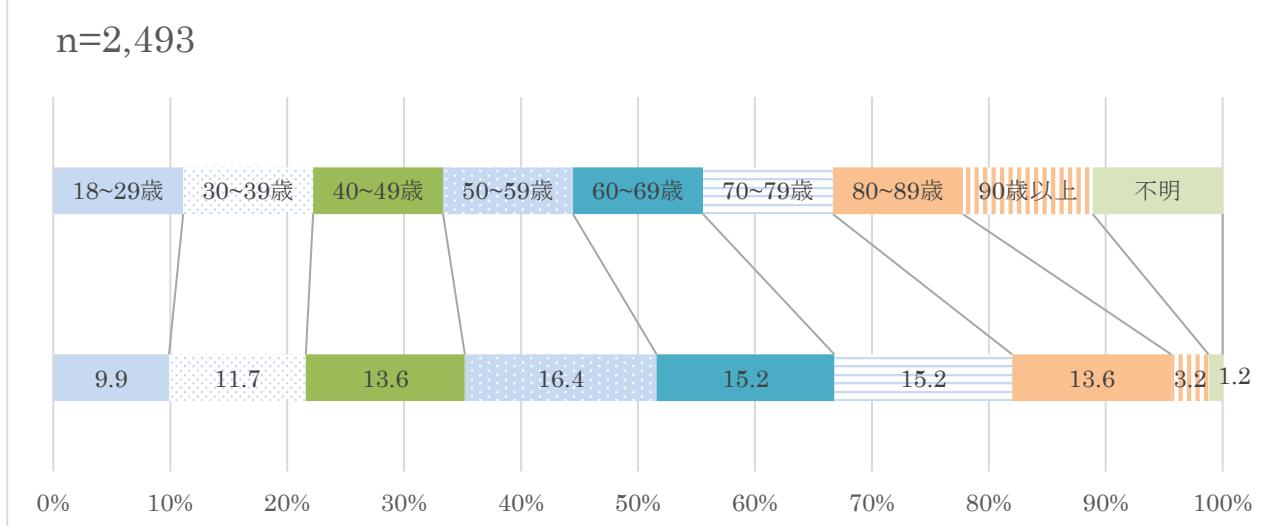
障害別の回答者は、「知的障害」のみ「ご家族の方」が49.2%と最も多く、それ以外は、「あて名ご本人」が最も多くなっています。

(1-2) 年齢（問2）

《全体》

(%)

n=2,493



年齢については、「50~59歳」が16.4%と最も多くなっており、次いで「60~69歳」、「70~79歳」が15.2%、「40~49歳」、「80~89歳」が13.6%となっています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	18~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80~89 歳	90 歳 以上	不明
肢体不自由	320	4.7	4.4	8.4	10.0	16.9	22.5	26.6	4.4	2.2
音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	4.6	4.6	13.8	11.5	25.3	25.3	3.4	0.0
視覚障害	163	6.1	3.7	10.4	17.8	8.0	20.9	24.5	8.0	0.6
聴覚・平衡機能障害	153	5.2	2.6	10.5	3.9	9.2	17.0	34.6	16.3	0.7
内部障害	324	2.2	3.7	7.7	13.3	15.1	25.6	25.3	5.2	1.9
知的障害	256	37.5	24.2	14.8	12.1	8.2	0.4	1.2	0.0	1.6
発達障害	263	35.7	31.2	12.9	11.0	4.9	1.5	2.7	0.0	0.0
精神障害	626	11.3	18.5	22.0	25.7	15.8	3.8	1.1	0.5	1.1
高次脳機能障害	40	5.0	7.5	20.0	25.0	17.5	15.0	7.5	0.0	2.5
難病(特定疾病)	817	5.4	8.1	14.9	17.6	19.5	19.7	12.6	1.7	0.5
その他	42	9.5	7.1	4.8	23.8	14.3	4.8	33.3	2.4	0.0

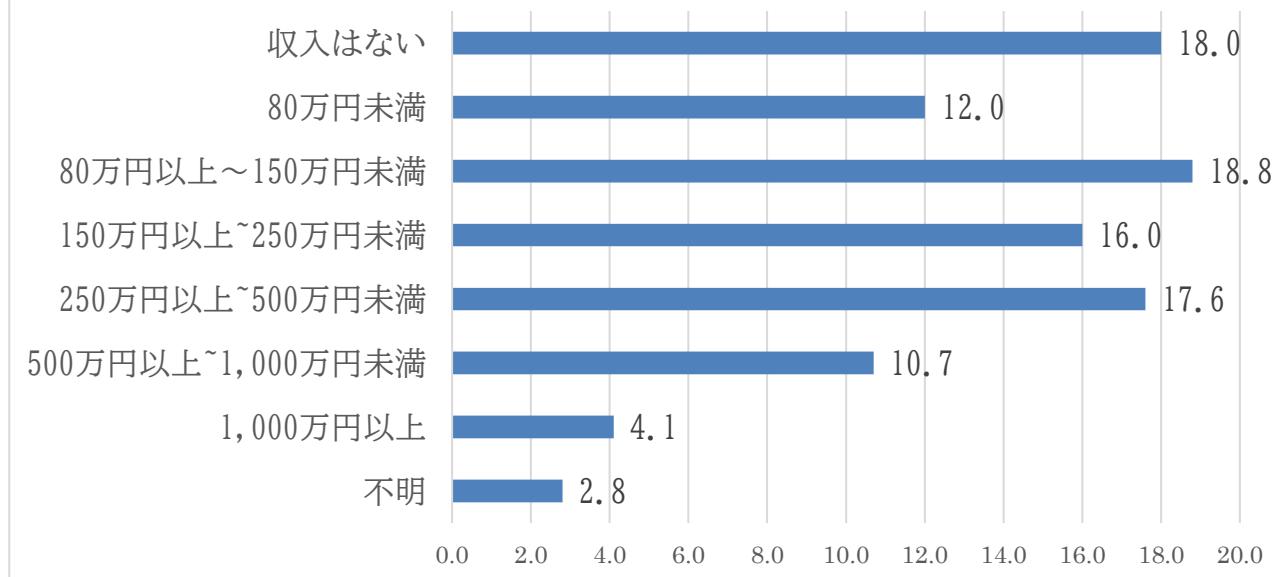
障害別の年齢は、「知的障害」と「発達障害」は「18~29歳」、「精神障害」、「高次脳機能障害」は「50~59歳」、それ以外は「70~79歳」、「80~89歳」が最も多くなっています。

(1-3) 年収（問3）

《全体》

(%)

n=2,493



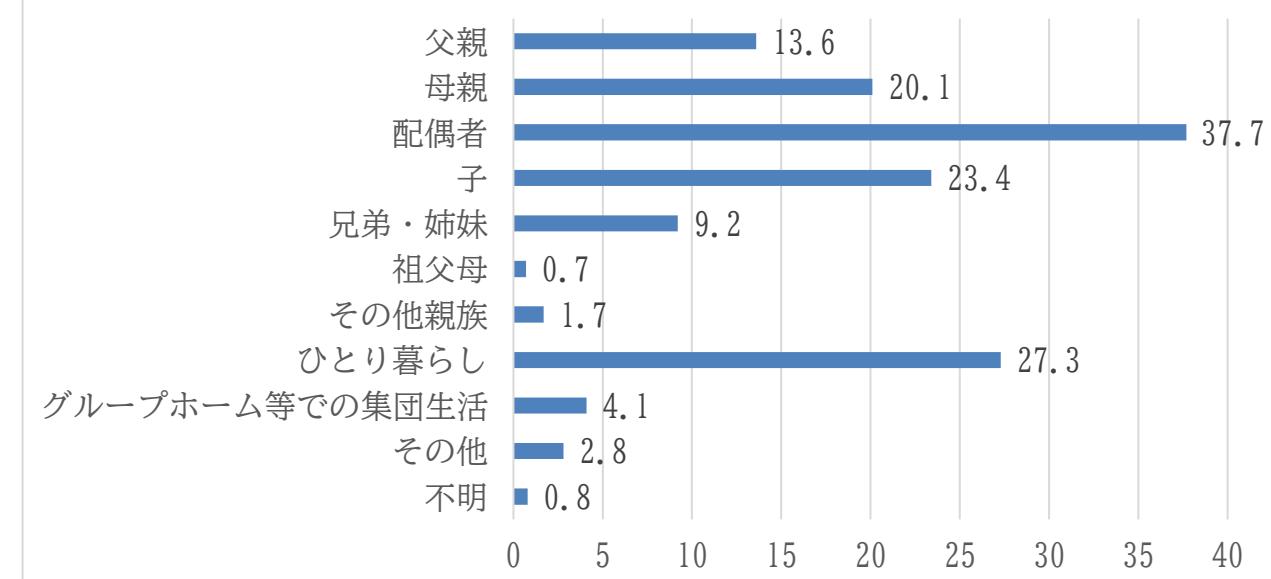
本人の収入については、「80万円以上～150万円未満」が最も多く、150万円未満が全体の半数近くとなっています。

(1-4) 同居家族（問5）

《全体》

(%)

n=2,493



同居家族については、「配偶者」が37.7%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が27.3%、「子」が23.4%と続いています。

《障害の種類別》

(%)

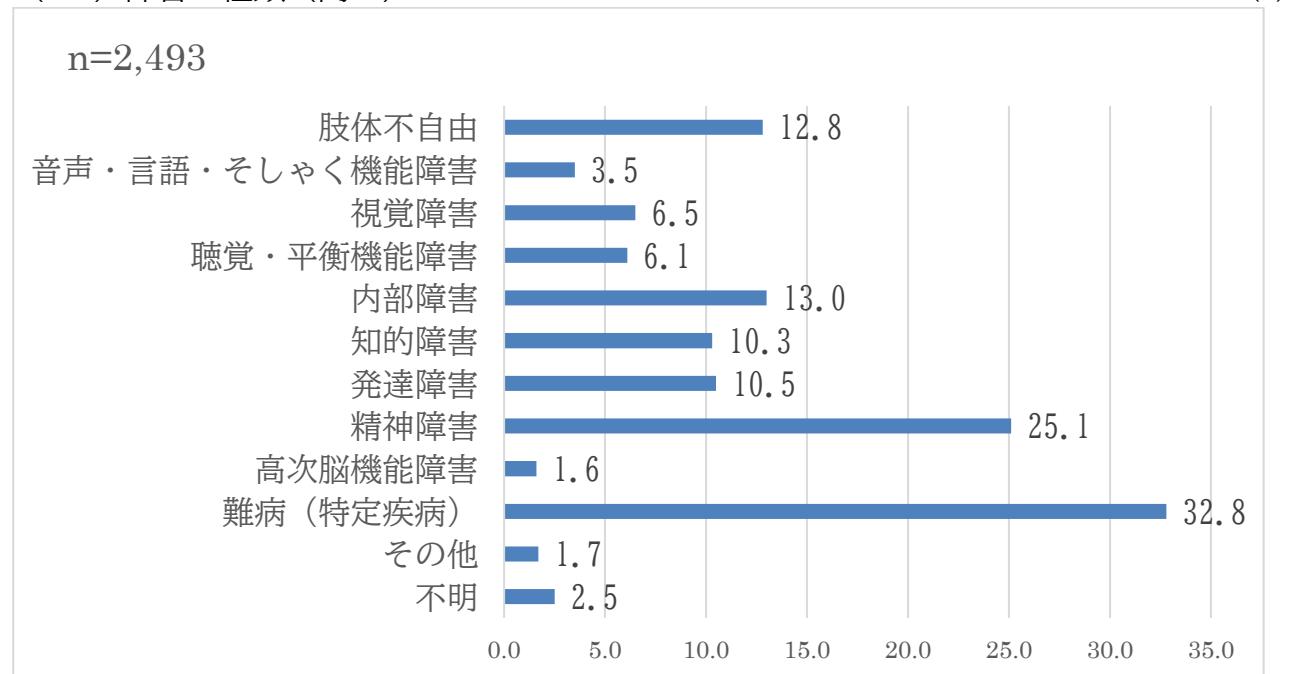
	合計 (人)	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹
肢体不自由	320	10.9	15.3	41.9	29.1	5.0
音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	23.0	47.1	25.3	10.3
視覚障害	163	8.0	11.7	35.6	21.5	6.7
聴覚・平衡機能障害	153	4.6	7.8	43.8	28.1	4.6
内部障害	324	4.0	7.7	50.6	29.9	2.8
知的障害	256	59.4	75.4	1.2	0.0	34.8
発達障害	263	35.0	46.4	14.1	8.4	22.8
精神障害	626	17.6	28.0	21.6	15.7	11.3
高次脳機能障害	40	12.5	20.0	50.0	30.0	5.0
難病(特定疾病)	817	5.0	8.0	54.2	32.2	4.0
その他	42	7.1	21.4	19.0	21.4	4.8

	合計 (人)	祖父母	その他親族	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活
肢体不自由	320	0.3	1.9	21.9	5.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	4.6	14.9	5.7
視覚障害	163	1.2	1.2	39.3	3.7
聴覚・平衡機能障害	153	0.0	2.0	27.5	2.6
内部障害	324	0.3	2.5	25.0	1.5
知的障害	256	2.0	1.6	4.3	21.1
発達障害	263	1.9	1.9	27.4	3.0
精神障害	626	1.6	1.3	35.9	3.5
高次脳機能障害	40	0.0	0.0	17.5	5.0
難病(特定疾病)	817	0.1	1.5	26.9	1.1
その他	42	0.0	2.4	31.0	9.5

障害別の同居家族は、「知的障害」と「発達障害」では、「母親」、「精神障害」、「視覚障害」では、「ひとり暮らし」、それ以外では「配偶者」が最も多いとなっています。

2 障害と健康について

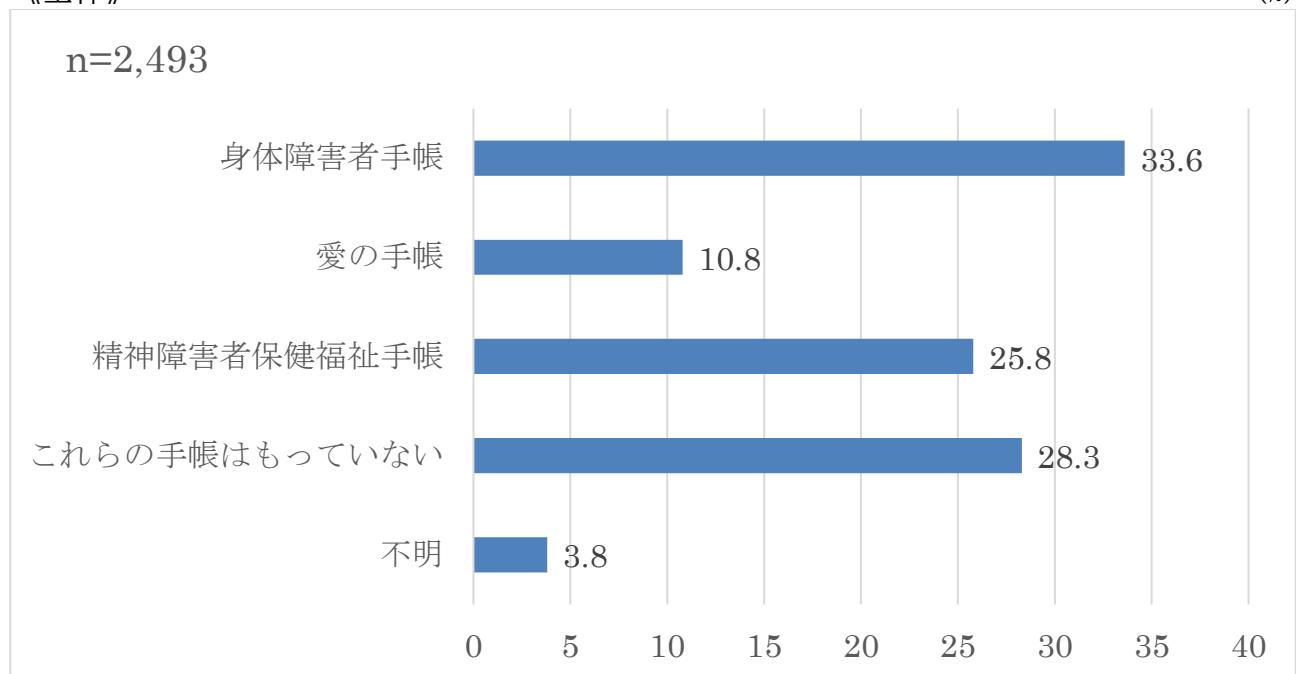
(2-1) 障害の種類（問6）



障害の種類については、「難病」が32.8%と最も多く、次いで「精神障害」が25.1%、「内部障害」が13.0%と続いています。

(2-2) 手帳の所持状況（問7）

《全体》 (%)



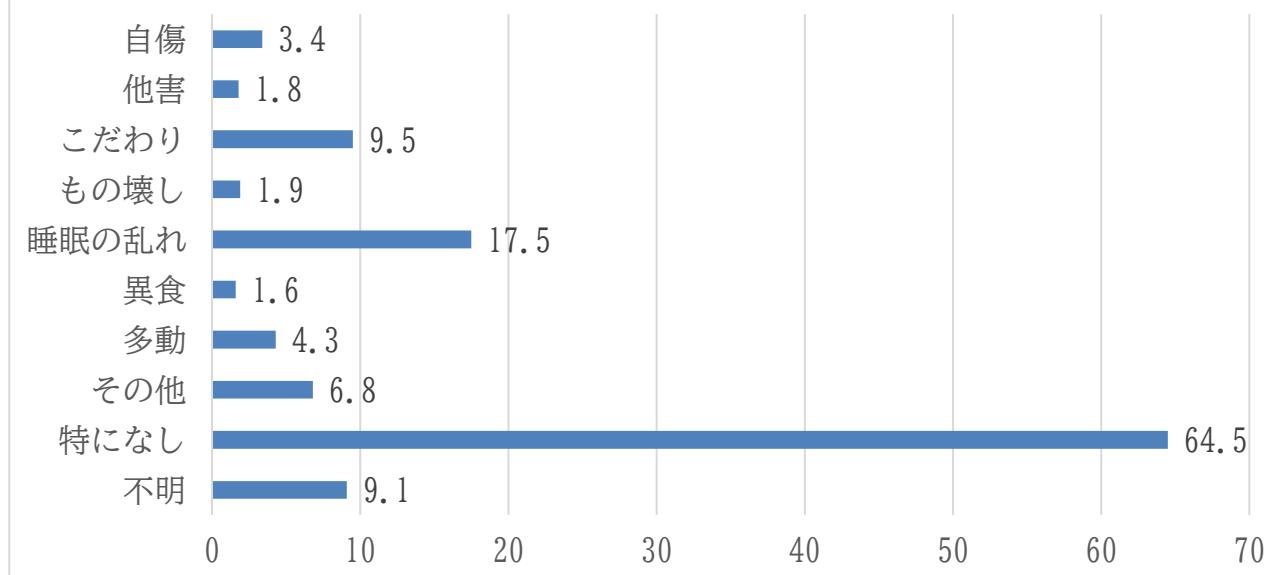
手帳の所持状況については、「身体障害者手帳」が33.6%と最も多く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が25.8%、「愛の手帳」が10.8%となっています。一方、「これらの手帳は持っていない」は28.3%となっています。

(2-3) 日常生活で必要な特別な支援や配慮（問12）

《全体》

(%)

n=2,493



特別な支援や配慮については、「睡眠の乱れ」(17.5%)と最も多く、続いて「こだわり」(9.5%)となっています。また、「特になし」は(64.5%)となっており、何かしらの特別な支援や配慮を必要とするとの回答は、全体の26.4%となっています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	自傷	他害	こだわ り	もの壊 し	睡眠の乱れ	異食	多動	特になし
肢体不自由	320	1.3	0.6	3.8	0.3	7.2	0.0	2.2	74.1
音声・言語・そしゃく機能障害	87	4.6	3.4	8.0	0.0	12.6	0.0	4.6	60.9
視覚障害	163	1.8	1.2	3.7	0.6	7.4	0.0	4.9	72.4
聴覚・平衡機能障害	153	0.7	0.7	3.3	0.0	7.2	0.7	1.3	68.0
内部障害	324	0.9	0.0	1.5	0.3	7.1	0.6	0.9	77.8
知的障害	256	10.9	8.6	32.0	7.0	16.0	1.6	9.4	46.1
発達障害	263	13.3	6.8	39.5	8.0	43.0	6.8	21.3	31.6
精神障害	626	8.3	3.5	19.2	3.4	45.4	4.8	7.8	37.7
高次脳機能障害	40	7.5	5.0	7.5	5.0	12.5	2.5	10.0	65.0
難病(特定疾病)	817	0.2	0.2	1.5	0.2	7.0	0.2	1.1	82.9
その他	42	4.8	4.8	23.8	2.4	28.6	7.1	7.1	45.2

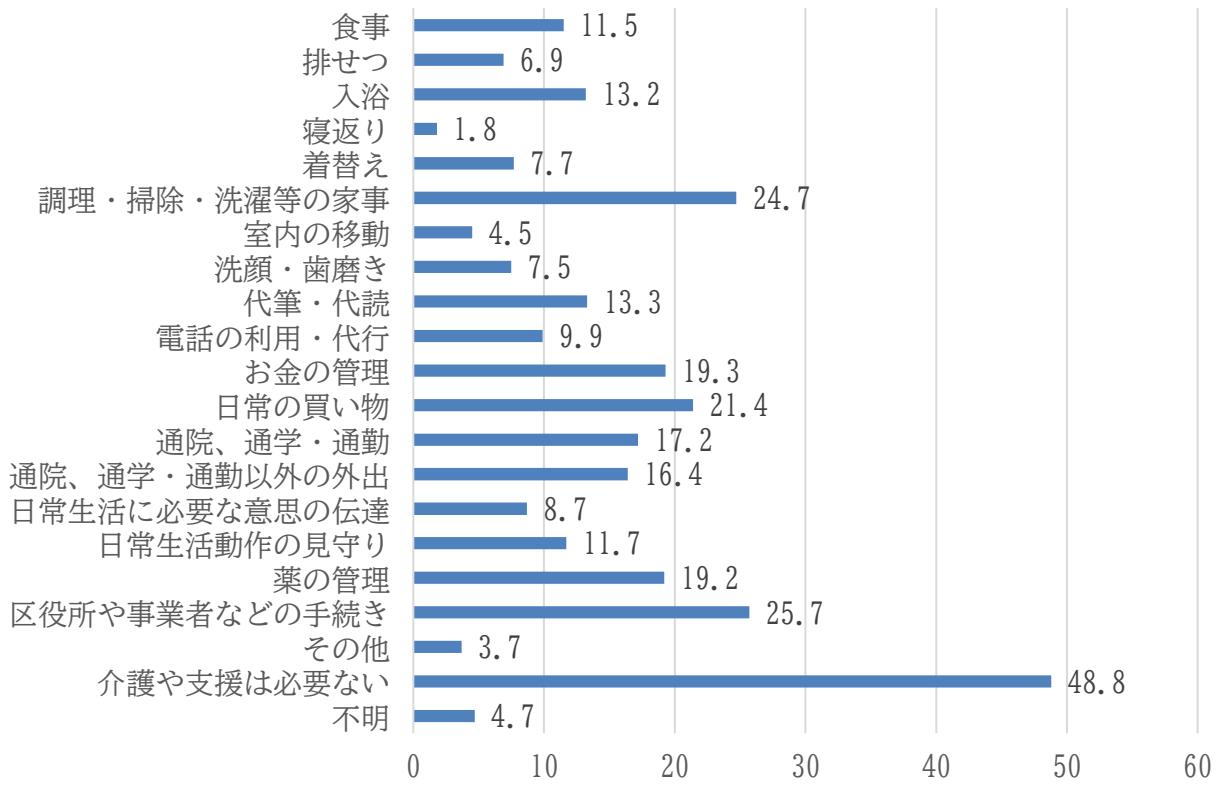
障害別では、「発達障害」、「精神障害」では、「睡眠の乱れ」が最も多く、それ以外の障害では、特になしが最も多くなっています。また、「知的障害」では「自傷」や「こだわり」の割合がほかの障害と比べ多く、「発達障害」では、「自傷」や「こだわり」、「多動」がほかの障害と比べ多くなっています。

(2-4) 日常生活で必要な介助・支援（問13）

《全体》

(%)

n=2,493



日常生活で必要な介助・支援については、「区役所や事業者などの手続き」が25.7%で最も多く、「調理・掃除・洗濯等の家事」が24.7%でこれに次いでいます。一方、「介護や支援は必要ない」は48.8%となっています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

	合計 (人)	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	調理・掃除・洗濯等の家事	室内的移動
肢体不自由	320	26.9	23.4	35.9	9.4	26.9	41.3	18.1
音声・言語・そしゃく機能障害	87	33.3	32.2	46.0	13.8	39.1	50.6	28.7
視覚障害	163	16.6	8.6	16.6	1.8	8.6	33.1	7.4
聴覚・平衡機能障害	153	7.8	2.6	11.8	1.3	5.2	17.0	3.3
内部障害	324	8.3	5.9	11.4	1.2	6.8	17.0	4.9
知的障害	256	32.0	23.0	35.5	1.6	21.9	63.3	6.3
発達障害	263	15.6	7.2	14.8	1.5	8.4	39.2	1.5
精神障害	626	10.9	3.4	8.0	0.6	3.8	29.1	1.8
高次脳機能障害	40	32.5	20.0	32.5	7.5	27.5	55.0	22.5
難病(特定疾病)	817	8.6	5.6	10.6	1.7	6.7	15.7	5.8
その他	42	14.3	11.9	19.0	4.8	14.3	35.7	7.1

	合計 (人)	洗顔・歯 磨き	代筆・代 読	電話の利 用・代行	お金の管理	日常の 買い物	通院、通 学・通勤	通院、通 学・通勤 以外の外 出
肢体不自由	320	20.0	25.0	16.6	25.6	36.3	31.3	31.9
音声・言 語・そしゃ く機能障害	87	32.2	43.7	43.7	42.5	48.3	41.4	43.7
視覚障害	163	6.1	47.9	16.6	22.7	42.9	38.0	33.7
聴覚・平衡 機能障害	153	2.0	15.0	19.0	11.1	20.3	20.9	12.4
内部障害	324	4.9	5.6	5.6	8.3	16.7	14.8	11.7
知的障害	256	32.4	52.0	41.4	73.8	56.6	47.3	54.7
発達障害	263	12.2	16.0	15.2	41.4	28.5	23.6	20.2
精神障害	626	5.3	6.1	5.6	21.4	17.4	11.8	12.3
高次脳機能 障害	40	15.0	47.5	30.0	52.5	37.5	37.5	30.0
難病 (特定疾病)	817	5.3	7.3	5.1	9.2	16.2	11.9	10.0
その他	42	14.3	21.4	19.0	31.0	33.3	28.6	21.4

	合計 (人)	日常生活 に必要な 意思伝達	日常生活動 作の見守り	薬の管理	区役所や事業 者などの手續	介助や支 援は必要 ない
肢体不自由	320	12.5	20.9	30.6	38.8	32.5
音声・言語・ そしゃく機能 障害	87	32.2	33.3	43.7	55.2	16.1
視覚障害	163	4.9	13.5	19.6	46.0	27.6
聴覚・平衡 機能障害	153	9.2	11.1	13.1	28.1	42.5
内部障害	324	5.9	7.7	12.7	16.7	62.3
知的障害	256	43.8	43.4	56.3	73.0	10.9
発達障害	263	23.6	20.2	31.9	37.6	30.4
精神障害	626	7.3	10.9	20.8	24.4	37.4
高次脳機能障 害	40	22.5	37.5	47.5	62.5	17.5
難病 (特定疾病)	817	3.2	6.6	11.1	14.7	70.3
その他	42	28.6	26.2	31.0	38.1	28.6

障害別の日常生活に必要な介助や支援については、「知的障害」や「発達障害」では「お金の管理」が最も多く、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「高次脳機能障害」では、「区役所や事業所などの手続き」が一番多くなっています。また、「視覚障害」では「代筆・代読」、「肢体不自由」では「調理・掃除・洗濯等の家事」が最も多くなっています。

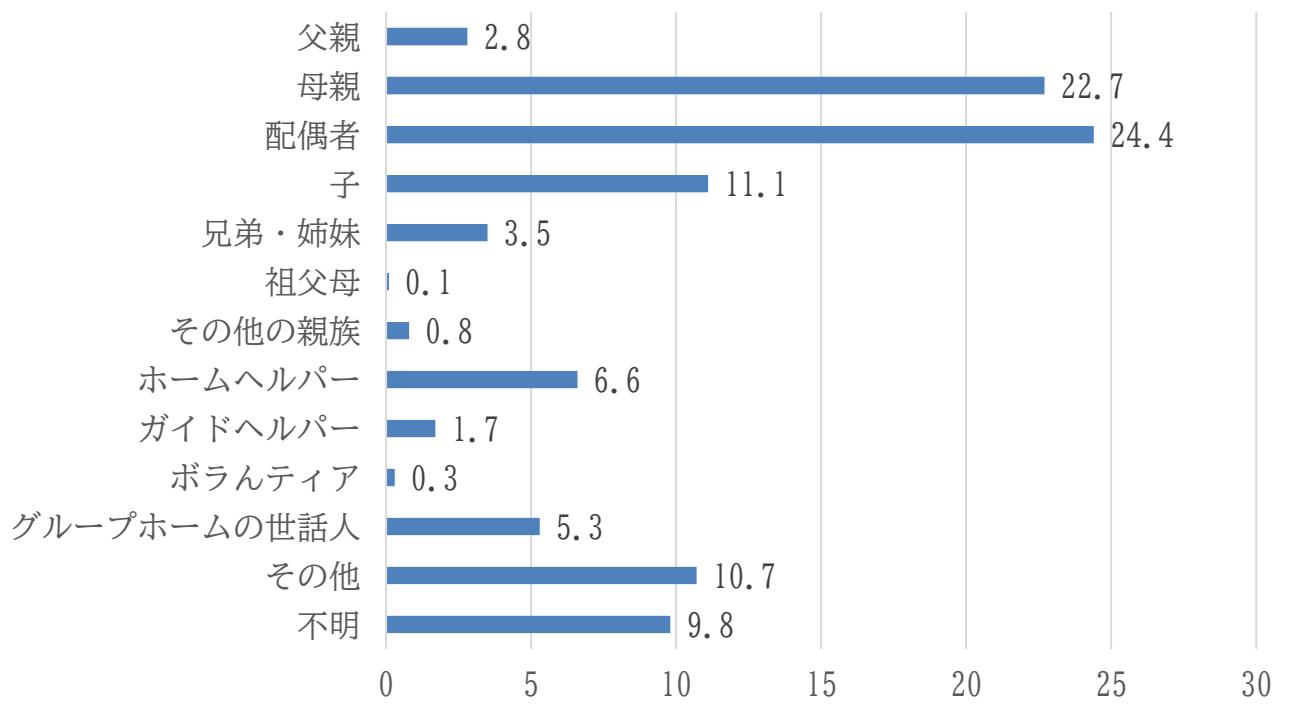
一方、「聴覚・平衡機能障害」や「内部障害」、「精神障害」、「難病」では、「介助や支援は必要ない」が最も多くなっています。

(2-5) 主な介助者（問14）

《全体》

(%)

n=1,159



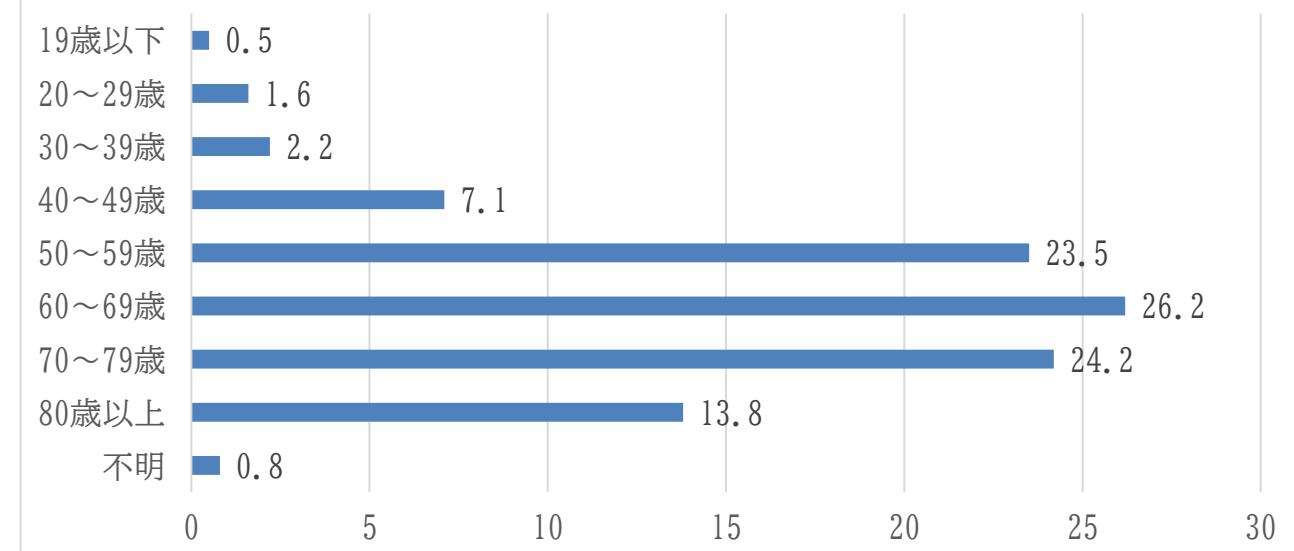
主な介助者については、「配偶者」が24.4%で最も多く、次いで「母親」が22.7%、「子」が11.1%となっています。

(2-6) 主な介助者の年齢（問14-1）

《全体》

(%)

n=759



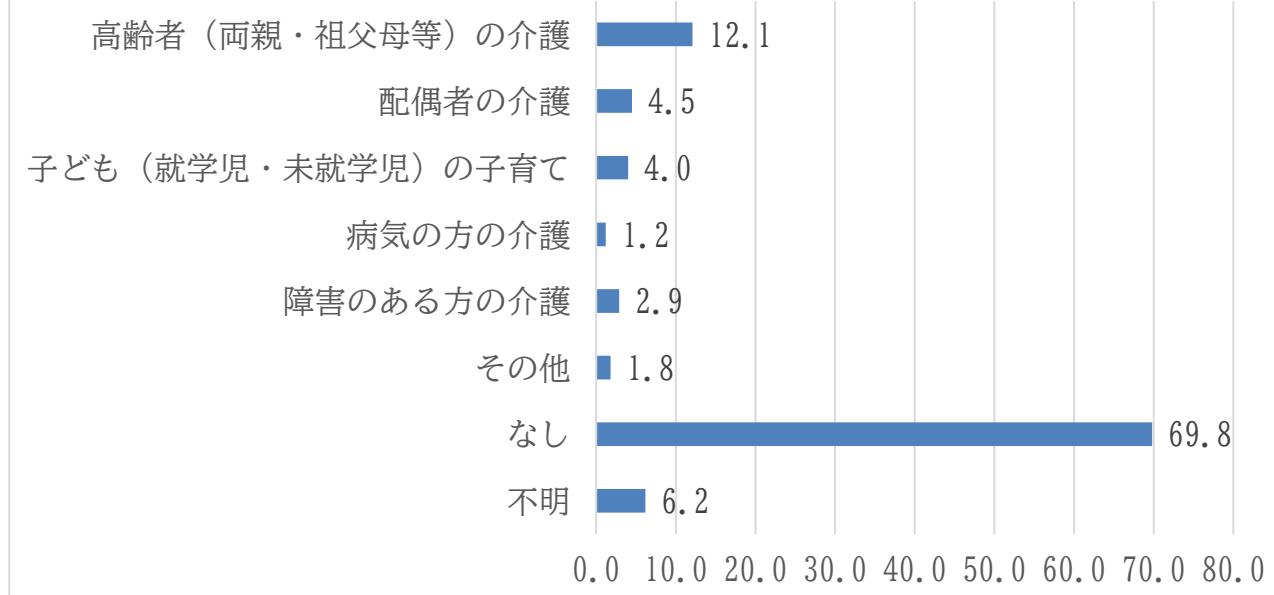
主な介助者・支援者の年齢は、「60～69歳」が26.2%で最も多く、次いで「70～79歳」が24.2%、「50～59歳」が23.5%となっています。

(2-7) 主な介助者による他の方の介助状況（問15）

《全体》

(%)

n=2,493



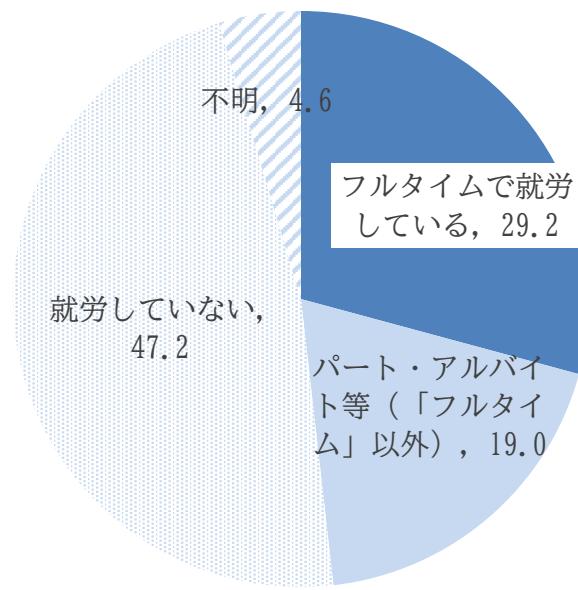
主な介助者による対象者以外の介助状況については、「なし」が69.8%と最も多く、次いで「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が12.1%、「配偶者の介護」が4.5%となっています。

(2-8) 主な介助者の就労状況（問16）

《全体》

(%)

n=759



主な介助者の就労状況については、「就労していない」が47.2%と最も多く、次いで「フルタイムで就労している」が29.2%となっています。

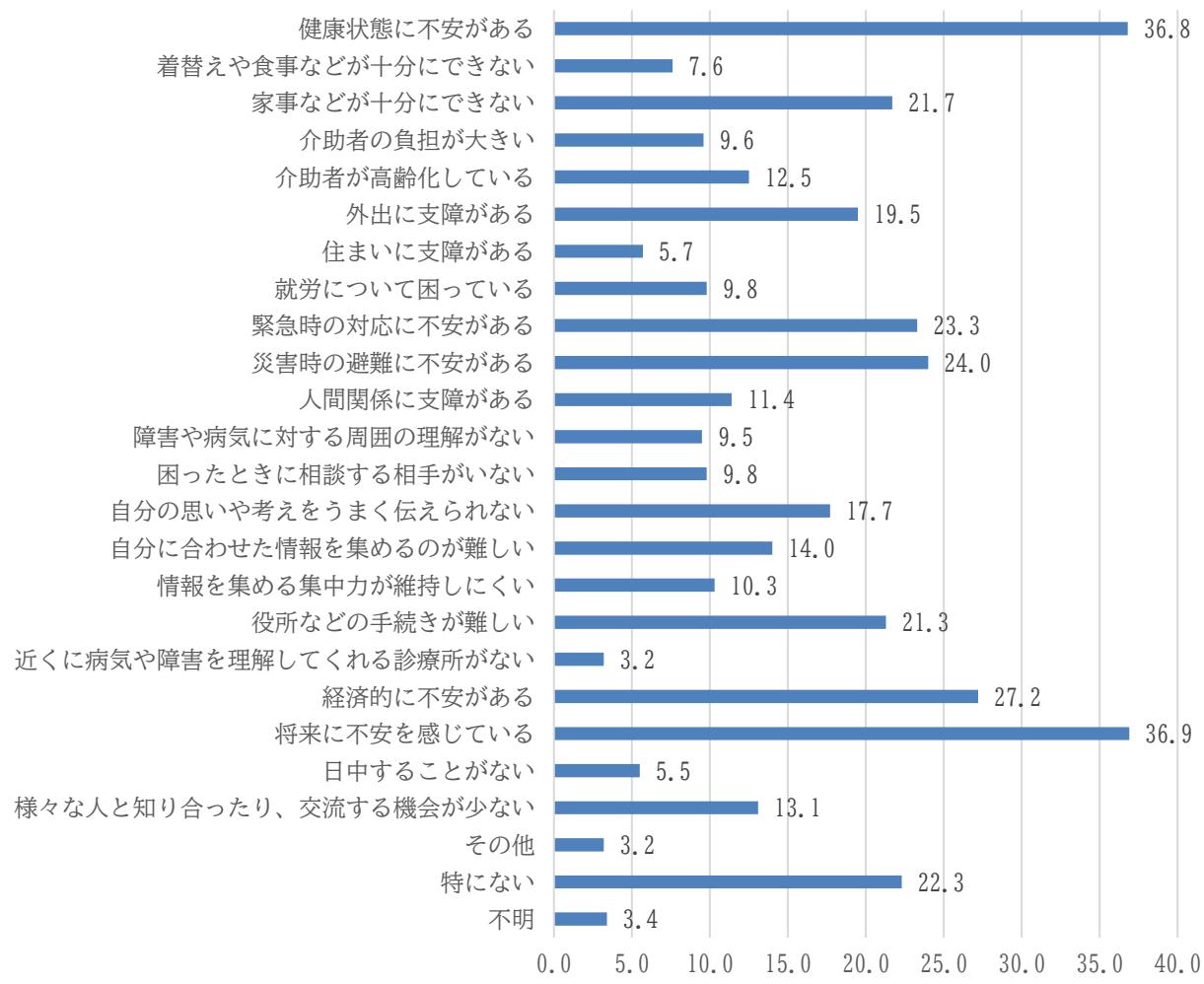
3 相談や福祉の情報について

(3-1) 日常生活で困っていること（問 18）

《全体》

(%)

n=2,493



日常生活で困っていることをみると、「将来に不安を感じている」(36.9%)、「健康状態に不安がある」(36.8%)とともに4割近くと、特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	健康状態 に不安が ある	着替えや 食事など が十分に できない	家事など が十分に できない	介助者の 負担が大 きい	介助者が 高齢化し ている	外出に支 障がある	住まいに 支障があ る
肢体不自由	320	33.1	15.9	28.8	21.6	20.3	30.3	6.3
音声・言語・ そしゃく機能 障害	87	39.1	19.5	32.2	27.6	26.4	34.5	6.9
視覚障害	163	31.9	7.4	29.4	10.4	16.0	43.6	3.7
聴覚・平衡 機能障害	153	22.2	7.2	13.7	9.2	11.1	19.0	3.9
内部障害	324	41.0	5.6	14.8	6.8	8.6	19.1	5.6
知的障害	256	21.9	17.6	43.4	21.9	29.3	35.2	4.7
発達障害	263	41.8	14.8	40.7	17.1	20.2	24.0	11.8
精神障害	626	48.7	8.9	30.0	9.4	12.5	19.8	11.2
高次脳機能 障害	40	40.0	15.0	35. 0	35. 0	42.5	35.0	15.0
難病 (特定疾病)	817	42.1	6.2	14.7	6.6	7.8	15.3	3.3
その他	42	35.7	7.1	21.4	21.4	31.0	19.0	7.1

	合計 (人)	就労につ いて困っ ている	緊急時の 対応に不 安がある	災害時の 避難に不 安がある	人間関係 に支障が ある	障害や病 気に対す る周囲の 理解がな い	困ったと き相談す る相手が いない	自己の思 いや考え をうまく 伝えられ ない
肢体不自由	320	5.6	27.8	35.9	3.8	5.0	6.9	14.4
音声・言語・ そしゃく機能 障害	87	9.2	43.7	42.5	9.2	5.7	6.9	41.4
視覚障害	163	6.1	35.6	37.4	6.1	4.3	8.6	11.0
聴覚・平衡 機能障害	153	5.9	28.8	26.8	6.5	9.2	6.5	11.8
内部障害	324	5.2	19.8	22.5	2.8	6.2	7.4	7.1
知的障害	256	7.0	46.9	48.0	22.3	11.3	14.1	58.2
発達障害	263	28.9	32.7	31.6	38.4	25.9	19.0	49.0
精神障害	626	22.2	24.4	22.2	27.2	20.9	18.8	28.6
高次脳機能 障害	40	20.0	42.5	45.0	20.0	17.5	12.5	45.0
難病 (特定疾病)	817	4.7	15.5	18.0	1.8	6.1	5.1	5.3
その他	42	11.9	33.3	31.0	16.7	16.7	11.9	26.2

	合計 (人)	自分に合わせた情報を集めるのが難しい	情報を集める集中力が維持しにくく	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている
肢体不自由	320	10.9	6.3	21.9	3.8	21.9	31.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	24.1	11.5	36.8	3.4	24.1	33.3
視覚障害	163	18.4	7.4	33.1	3.1	25.2	35.0
聴覚・平衡機能障害	153	12.4	7.2	21.6	2.0	11.1	29.4
内部障害	324	6.5	5.6	15.4	3.1	20.4	23.5
知的障害	256	44.5	25.8	53.5	5.9	23.0	41.0
発達障害	263	36.5	30.0	39.2	6.5	49.0	59.3
精神障害	626	18.8	18.2	23.6	5.4	49.2	59.3
高次脳機能障害	40	37.5	30.0	42.5	10.0	47.5	45.0
難病(特定疾病)	817	6.5	3.3	13.0	2.0	18.7	29.0
その他	42	21.4	23.8	26.2	7.1	23.8	38.1

	合計 (人)	日中するこ とがない	様々な人と 知り合つた り、交流す る機会が少 ない
肢体不自由	320	6.6	11.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	18.4
視覚障害	163	10.4	10.4
聴覚・平衡機能障害	153	5.9	14.4
内部障害	324	5.9	9.6
知的障害	256	5.9	21.1
発達障害	263	6.5	24.3
精神障害	626	7.2	22.4
高次脳機能障害	40	12.5	17.5
難病(特定疾病)	817	3.9	6.9
その他	42	0.0	28.6

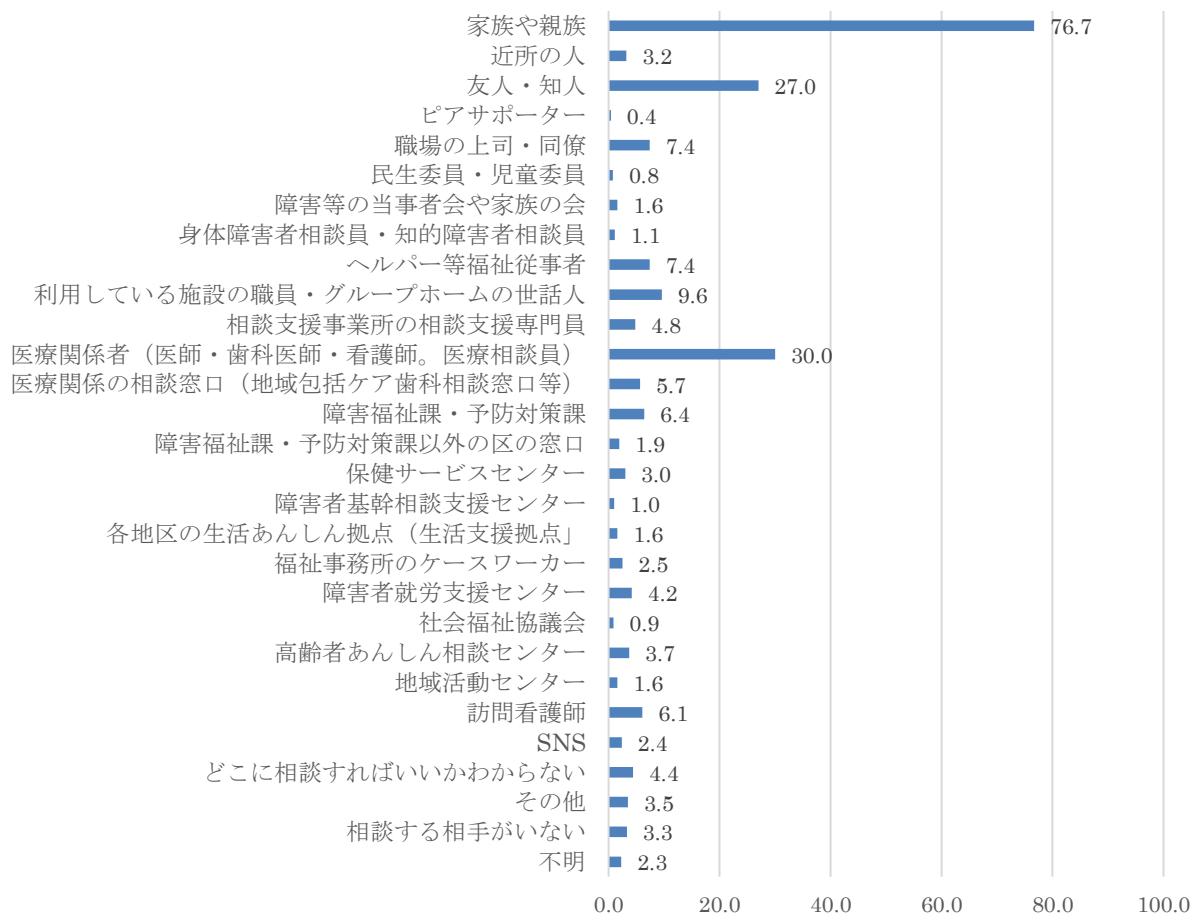
障害別の日常生活で困っていることは、「聴覚・平衡機能障害」、「精神障害」や「発達障害」では、「将来に不安を感じている」が最も多く、「知的障害」では、「自分の考えがうまく伝えられない」が最も多くなっています。また、「内部障害」や「難病」では「健康状態に不安がある」が最も多く、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく機能障害」では「緊急時の対応に不安がある」や「災害時の避難に不安がある」が最も多くなっています。

(3-2) 困った時の相談相手（問19）

《全体》

(%)

n=2,493



困ったときの相談相手は、「家族や親族」(76.7%)と特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	家族や 親族	近所の 人	友人・ 知人	ピアサ ポーター	職場の 上司・ 同僚	民生委 員・児 童 委員	障害等 の当事 者会や 家族の 会	身体障 害者相 談員・ 知的障 害者相 談員	ヘルパ ー等福 祉 従事者
肢体不自由	320	80.3	5.9	24.7	0.9	2.8	2.8	2.2	0.6	15.0
音声・言語・そしゃく機能障害	87	79.3	5.7	25.3	0.0	6.9	1.1	1.1	5.7	23.0
視覚障害	163	73.6	4.9	31.9	1.2	6.1	0.6	3.7	0.6	16.0
聴覚・平衡機能障害	153	81.7	7.2	26.8	1.3	5.2	3.3	2.6	0.7	8.5
内部障害	324	79.6	4.0	24.4	0.3	2.2	1.2	1.2	0.3	8.0
知的障害	256	84.0	2.0	9.0	0.4	14.8	0.4	3.5	6.6	6.6
発達障害	263	73.0	1.5	25.1	0.8	15.2	0.0	3.0	3.8	6.1
精神障害	626	64.9	1.1	28.0	0.3	9.3	0.6	1.9	1.3	6.4
高次脳機能障害	40	82.5	2.5	15.0	0.0	12.5	0.0	10.0	5.0	17.5
難病(特定疾患)	817	83.4	3.1	32.7	0.2	7.1	0.2	0.6	0.1	7.2
その他	42	64.3	2.4	31.0	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	2.4

	合計 (人)	利用施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者(医師・歯科医師等)	医療関係の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	各地区的地域生活支援拠点
肢体不自由	320	14.7	4.1	25.3	7.5	7.5	4.1	1.6	1.3	1.3
音声・言語・そしやく機能障害	87	24.1	3.4	29.9	10.3	10.3	5.7	3.4	1.1	0.0
視覚障害	163	6.1	3.7	16.0	6.1	10.4	3.7	2.5	0.6	1.2
聴覚・平衡機能障害	153	6.5	3.3	20.9	8.5	9.2	5.2	2.6	0.7	2.6
内部障害	324	4.6	1.9	35.2	7.1	5.2	1.9	1.2	0.9	0.3
知的障害	256	43.4	18.0	19.5	2.3	12.5	2.7	1.2	3.5	2.3
発達障害	263	14.8	10.6	37.6	5.3	9.5	1.9	5.7	4.2	3.4
精神障害	626	12.1	7.8	42.3	5.8	8.8	2.2	7.2	2.4	2.4
高次脳機能障害	40	17.5	7.5	37.5	12.5	10.0	7.5	0.0	5.0	0.0
難病(特定疾病)	817	3.8	1.5	31.7	5.3	2.6	0.9	2.9	0.5	1.0
その他	42	11.9	4.8	33.3	16.7	7.1	2.4	11.9	0.0	4.8

	合計 (人)	福祉事務所のケースワーカー	障害者就労支援センター	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	地域活動センター	訪問看護師	SNS	どこに相談すればいいかわからない	相談する相手がいな
肢体不自由	320	1.6	2.2	0.3	5.6	2.5	8.8	0.9	5.0	1.6
音声・言語・そしやく機能障害	87	2.3	0.0	0.0	5.7	0.0	10.3	0.0	5.7	1.1
視覚障害	163	1.8	0.6	2.5	9.2	0.6	4.9	1.2	4.3	3.7
聴覚・平衡機能障害	153	0.7	2.0	2.6	7.2	3.3	5.9	2.0	4.6	1.3
内部障害	324	1.2	0.0	0.9	5.9	0.3	5.9	0.9	4.6	3.1
知的障害	256	2.3	8.2	1.2	0.0	1.2	4.7	0.8	2.3	1.6
発達障害	263	4.6	13.7	1.5	1.9	0.8	4.9	7.6	6.1	4.2
精神障害	626	4.0	10.1	1.4	1.1	2.7	10.5	6.4	6.2	5.6
高次脳機能障害	40	2.5	5.0	0.0	7.5	0.0	12.5	2.5	12.5	0.0
難病(特定疾病)	817	1.2	0.4	0.2	4.0	1.5	5.0	1.3	3.4	3.5
その他	42	9.5	4.8	4.8	11.9	4.8	2.4	2.4	2.4	7.1

障害別の困った時の相談相手は、全ての障害で「家族や親族」が最も多くなっています。

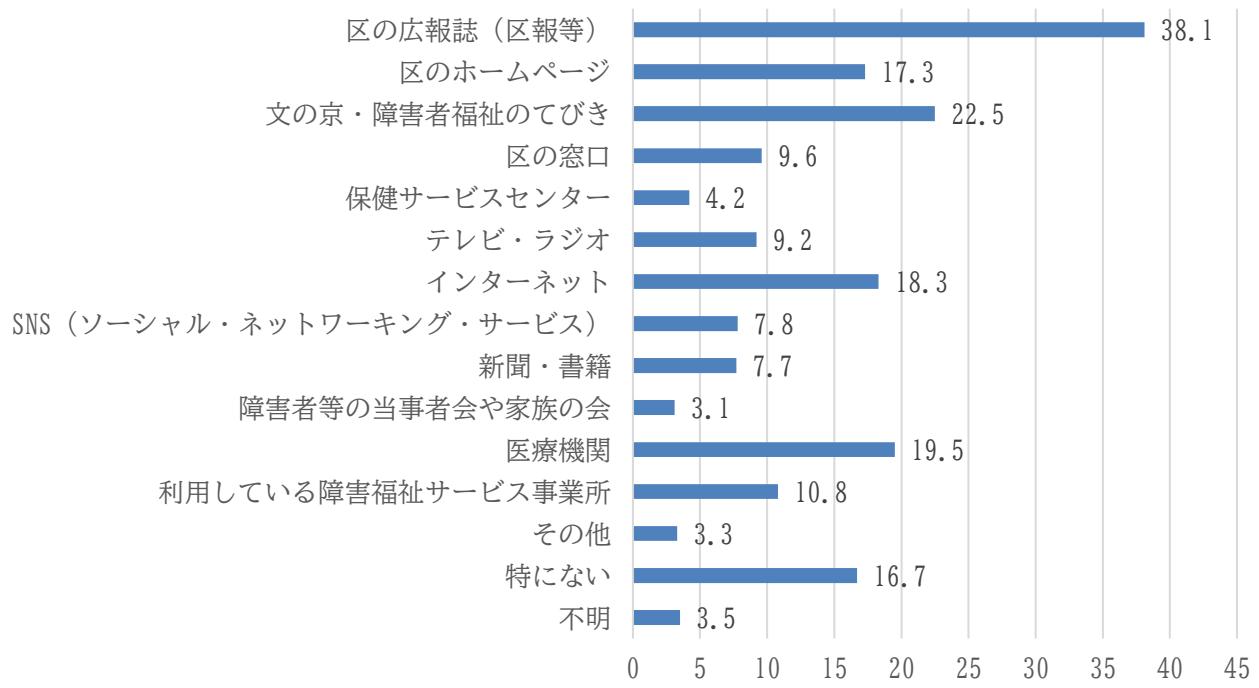
また、「知的障害」では他の障害と比較して、「利用施設の職員・グループホームの世話人」が多く、精神障害では「医療関係者」の割合が多くなっています。

(3-3) 福祉に関する情報の入手先（問20）

《全体》

(%)

n=2,493



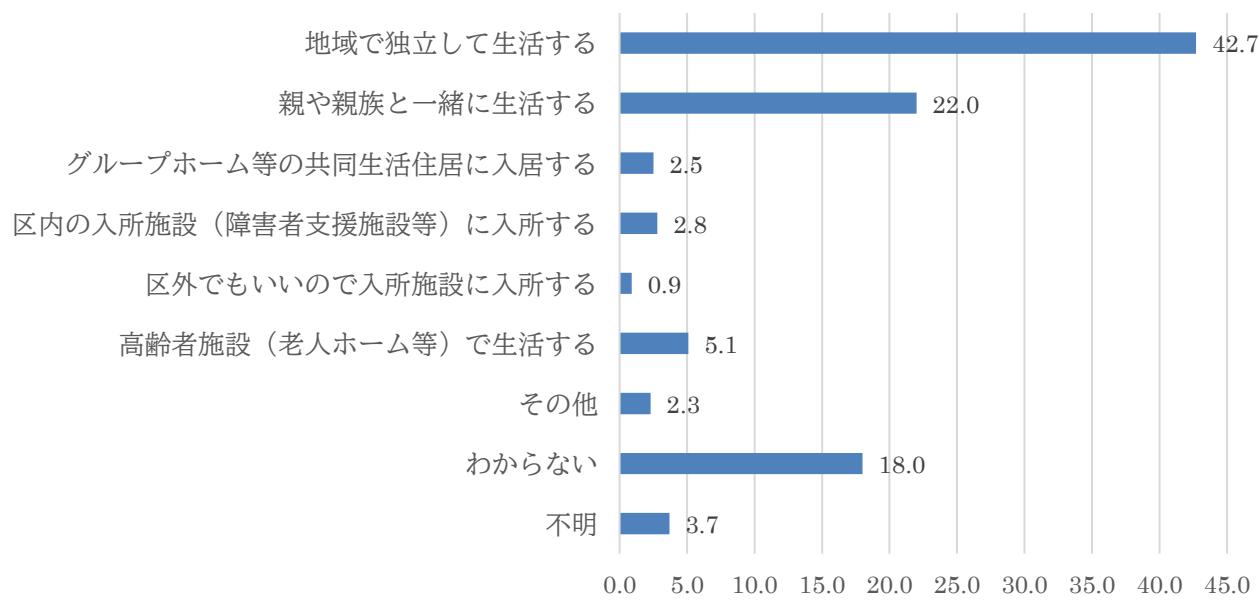
福祉に関する情報の入手先は、「区の広報誌(区報等)」(38.1%)、「文の京・障害者福祉のてびき」(22.5%)が特に多くなっています。

(3-4) 今後希望する生活（問21）

《全体》

(%)

n=2,493



今後希望する生活については、「地域で独立して生活する」(42.7%)、「親や親族と一緒に生活する」(22%)が特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

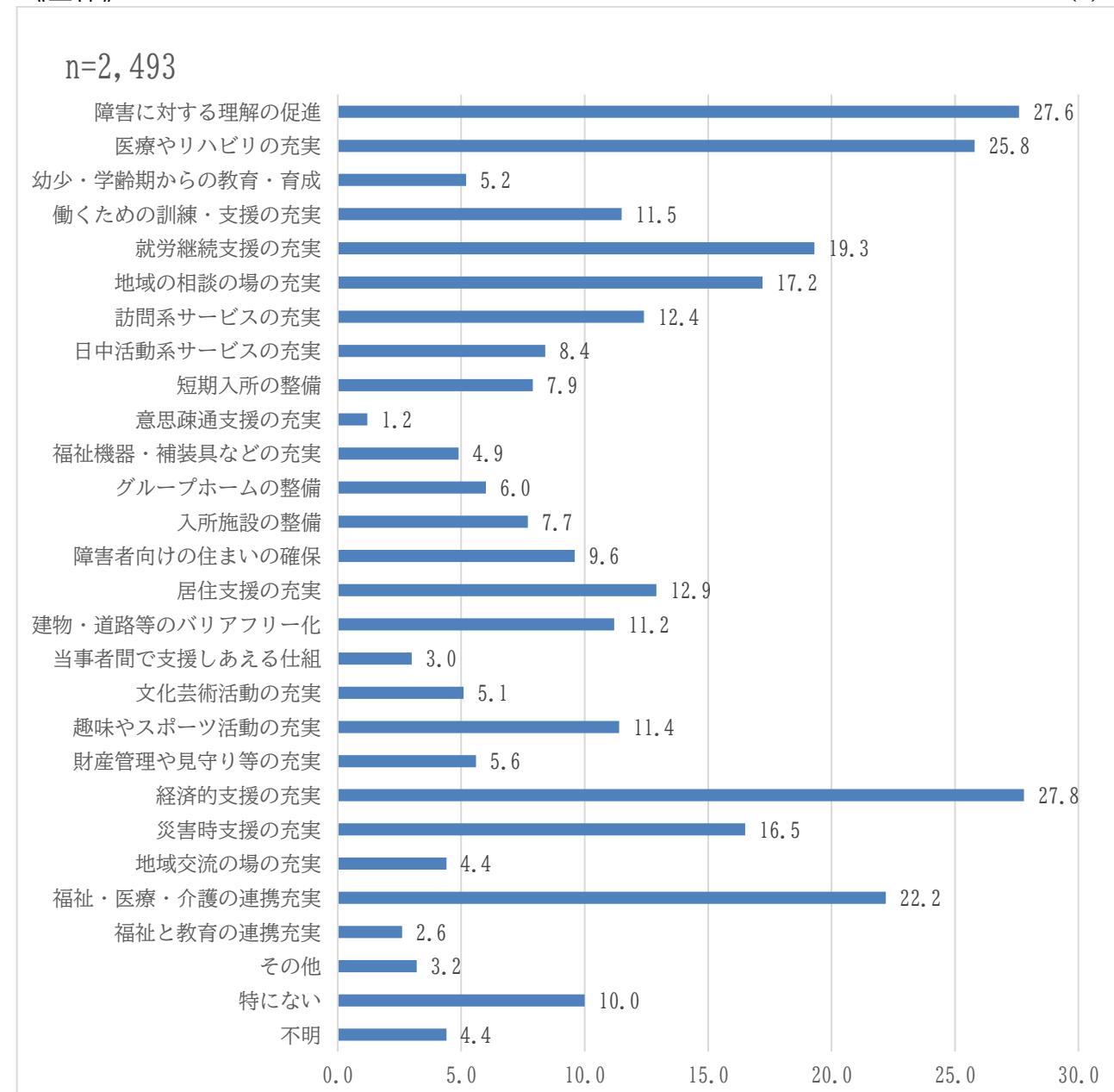
	合計 (人)	地域で独 立して生 活する	親や親族 と一緒に 生活する	グループホーム 等の共同生活住 居に入居する	区内の入 所施設に 入所する	区外でも良い ので入所施設 に入所する	高齢者施 設で生活 する	分ら ない
肢体不自由	320	31.6	25.0	2.8	4.4	1.9	10.0	17.5
音声・言 語・そしゃ く機能障害	87	26.4	32.2	2.3	4.6	2.3	10.3	18.4
視覚障害	163	45.4	21.5	0.0	4.3	0.6	5.5	16.6
聴覚・平衡 機能障害	153	35.3	22.2	1.3	3.3	0.7	9.8	24.8
内部障害	324	43.8	21.3	0.3	1.9	0.6	8.6	18.8
知的障害	256	9.8	25.8	16.8	11.7	3.9	1.6	23.0
発達障害	263	43.3	23.2	7.2	3.4	1.5	1.5	14.1
精神障害	626	47.1	21.4	1.4	1.9	0.3	2.4	20.3
高次脳機能 障害	40	25.0	30.0	2.5	7.5	2.5	7.5	17.5
難病 (特定疾病)	817	51.2	22.8	0.5	1.0	1.0	5.8	13.2
その他	42	26.2	23.8	0.0	2.4	0.0	14.3	23.8

障害別の今後希望する生活については、多くの障害で「地域で独立して生活する」が最も多くなっている一方、「音声・言語・そしゃく機能障害」や「知的障害」、「高次脳機能障害」では、「親や親族と一緒に生活する」が最も多くなっています。

(3-5) 地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問 22）

《全体》

(%)



地域で安心して暮らしていくために必要な施策は、「経済的支援の充実」(27.8%) と「障害に対する理解の促進」(27.6%) とがそれぞれ約3割を占め、特に多くなっています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実	短期入所の整備
肢体不自由	320	25.9	42.5	2.2	3.8	7.8	13.4	20.6	8.8	15.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	31.0	35.6	2.3	10.3	12.6	8.0	29.9	16.1	23.0
視覚障害	163	38.0	27.6	3.1	9.2	8.6	21.5	19.6	8.0	8.0
聴覚・平衡機能障害	153	32.7	28.8	3.3	7.2	11.1	18.3	12.4	7.2	10.5
内部障害	324	22.8	28.1	3.7	4.6	9.0	17.0	16.4	5.6	6.8
知的障害	256	32.4	9.8	5.9	10.5	24.6	18.4	11.3	25.0	23.0
発達障害	263	40.3	12.9	12.2	24.3	37.3	19.4	8.0	12.5	10.3
精神障害	626	39.3	15.8	6.7	23.8	31.5	22.2	8.6	11.7	4.2
高次脳機能障害	40	35.0	52.5	2.5	10.0	7.5	12.5	27.5	15.0	12.5
難病(特定疾病)	817	18.4	33.2	5.3	6.9	17.6	14.4	12.1	4.0	6.4
その他	42	23.8	23.8	2.4	14.3	14.3	21.4	23.8	14.3	11.9

	合計 (人)	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	障害者向けの住まいの確保	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実
肢体不自由	320	0.6	10.9	5.3	10.0	11.6	10.0	24.4	1.3	4.1
音声・言語・そしゃく機能障害	87	5.7	14.9	5.7	14.9	12.6	11.5	18.4	1.1	4.6
視覚障害	163	1.2	14.1	3.7	6.7	14.1	14.1	27.0	4.9	5.5
聴覚・平衡機能障害	153	10.5	16.3	2.0	8.5	9.2	9.8	12.4	2.6	2.0
内部障害	324	0.0	7.7	2.2	5.9	6.5	13.3	12.3	2.2	6.2
知的障害	256	2.3	2.0	35.9	33.6	19.5	14.8	3.5	1.2	4.7
発達障害	263	1.9	1.5	13.3	11.0	15.6	17.1	3.8	5.3	7.2
精神障害	626	0.6	1.0	3.8	4.0	15.8	18.1	3.5	4.5	5.9
高次脳機能障害	40	2.5	12.5	2.5	10.0	10.0	12.5	17.5	5.0	2.5
難病(特定疾病)	817	0.1	4.2	2.2	5.5	4.0	11.0	13.0	2.9	4.4
その他	42	4.8	2.4	4.8	11.9	9.5	11.9	11.9	4.8	4.8

	合計 (人)	趣味や スポーツ活動 の充実	財産管 理や見 守り等 の支援 の充実	経済的 支援の 充実	災害時 支援の 充実	地域交 流の場 の充実	福祉・ 医療・ 介護と の連携 の充実	福祉と 教育の 連携の 充実	特にな い
肢体不 自由	320	6.3	4.4	20.3	17.5	4.1	25.0	0.3	9.7
音声・ 言語・ そしゃく機能 障害	87	8.0	4.6	20.7	19.5	0.0	28.7	1.1	11.5
視覚障 害	163	9.8	1.8	21.5	15.3	3.1	20.9	3.7	4.3
聴覚・ 平衡機能 障害	153	7.2	5.2	14.4	24.8	3.9	31.4	2.6	8.5
内部障 害	324	10.2	3.4	25.3	17.9	3.4	24.7	1.5	14.8
知的障 害	256	16.4	14.1	17.6	14.5	3.9	20.7	2.0	5.5
発達障 害	263	12.5	12.2	39.9	13.7	6.1	17.1	4.6	5.7
精神障 害	626	12.1	7.7	43.5	15.3	5.9	16.3	3.0	6.5
高次脳 機能障 害	40	2.5	5.0	32.5	17.5	0.0	25.0	5.0	2.5
難病 (特定 疾病)	817	10.9	3.4	26.9	17.0	3.9	25.1	1.8	12.6
その他	42	11.9	2.4	23.8	23.8	4.8	26.2	0.0	7.1

障害別の地域で安心して暮していくために必要な施策は、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく障害」、「内部障害」、「高次機能障害」、「難病」では、「医療やリハビリテーションの充実」が最も多くなっています。

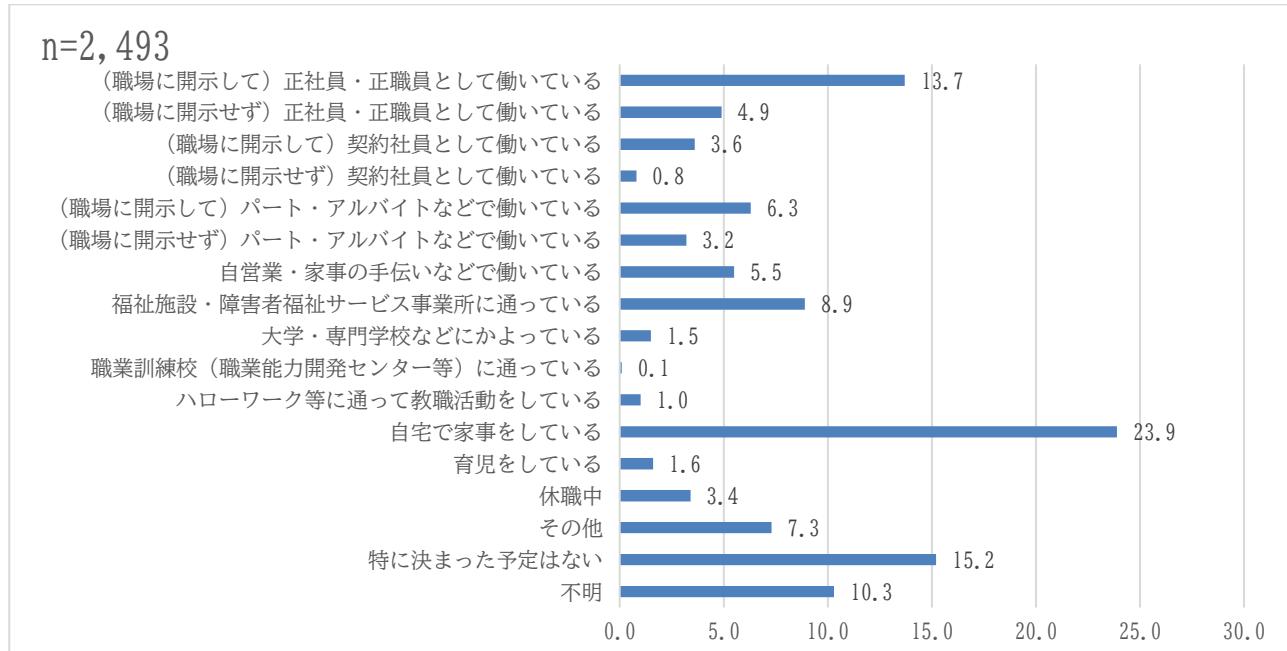
「視覚障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「発達障害」では、「障害に対する理解の促進」が多くなっており、また「知的障害」では「グループホームの整備」が最も多くなっています。

4 日中活動や外出について

(4-1) 平日の日中の過ごし方（問 28）

《全体》

(%)



平日の日中の過ごし方は、「自宅で家事をしている」(23.9%)が多く、次いで「特に決まった予定はない」(15.2%)となっています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	(職場に障 害を開示し て) 正社 員・正職員 として働い ている	(職場に障 害を開示せ ず) 正社 員・正職員 として働い ている	(職場に障 害を開示し て) 契約社 員として働 いている	(職場に障 害を開示せ ず) 契約社 員として働 いている	(職場に 開示し て) パー ト・アル バイトで 働いてい る	(職場に 開示し て) パー ト・アル バイトで 働いてい る	自営業・家 業の手伝い などで働い ている	福祉施設・ 障害福祉サ ービス事業 所等に通っ ている
肢体不自由	320	12.5	0.9	1.9	0.0	2.8	0.9	4.4	7.8
音声・言語・そし ゃく機能障 害	87	11.5	0.0	2.3	0.0	3.4	0.0	5.7	13.8
視覚障害	163	13.5	3.1	3.7	0.6	3.1	1.2	4.3	3.7
聴覚・平 衡機能障 害	153	11.1	0.0	2.6	0.0	5.2	0.0	4.6	3.9
内部障害	324	12.0	3.1	0.9	0.0	4.9	3.1	7.4	1.5
知的障害	256	9.8	0.8	10.5	0.8	8.2	0.4	0.0	50.0
発達障害	263	15.6	4.9	9.1	1.1	9.9	6.8	2.7	18.6
精神障害	626	9.6	5.6	5.0	0.8	8.8	4.8	5.1	11.8
高次脳機 能障害	40	22.5	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	7.5	10.0
難病 (特定疾 病)	817	19.3	7.8	1.2	1.3	5.6	3.5	7.8	0.9
その他	42	4.8	2.4	0.0	2.4	2.4	4.8	0.0	14.3

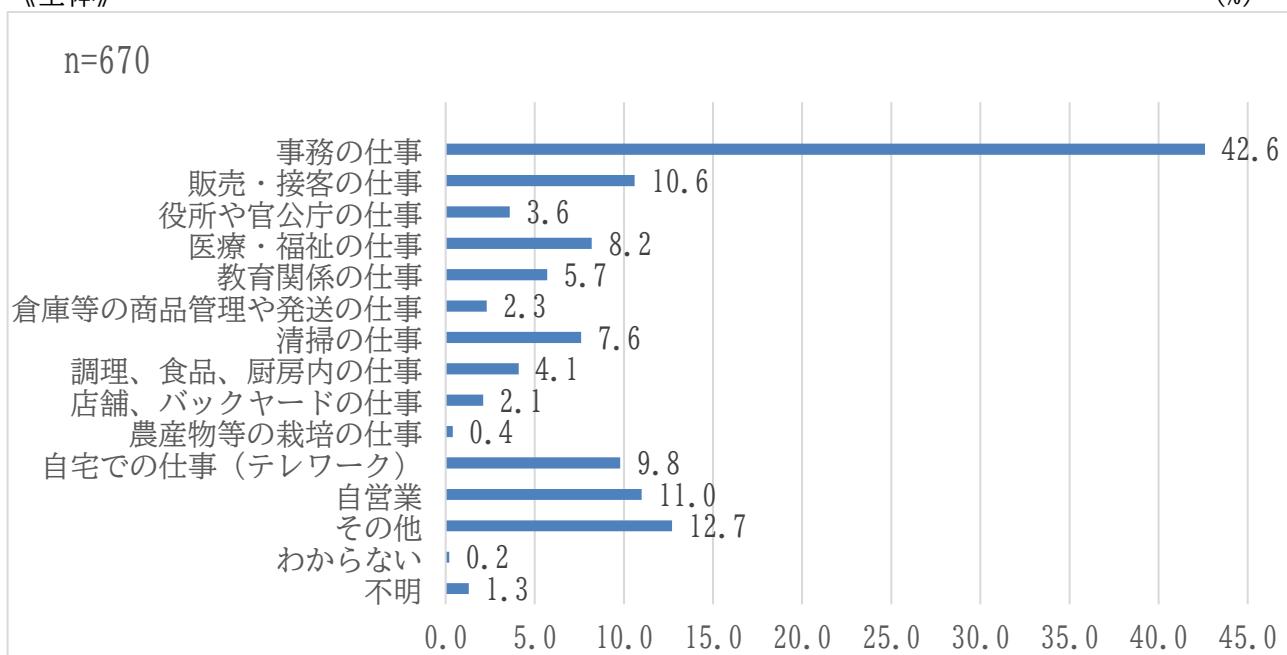
	合計 (人)	大学・専門 学校などに 通っている	職業訓練校 に通ってい る	ハローワー ク等に通っ て求職活動 をしている	自宅で家事 をしてい る	育児をし ていて る	休職中	特に決ま った予定 はない
肢体不自由	320	2.2	0.0	0.3	23.4	0.3	1.6	23.1
音声・言語・そし やく機能障害	87	1.1	1.1	1.1	11.5	0.0	2.3	32.2
視覚障害	163	3.7	0.0	0.6	20.2	0.0	1.2	26.4
聴覚・平 衡機能障 害	153	0.7	0.0	0.7	32.0	0.0	0.7	24.8
内部障害	324	1.2	0.0	0.6	27.8	0.9	2.8	21.9
知的障害	256	0.0	0.0	0.8	5.1	0.0	0.4	4.7
発達障害	263	5.3	1.1	1.9	13.7	0.8	4.6	7.2
精神障害	626	1.4	0.2	2.2	27.3	2.2	8.3	11.7
高次脳機 能障害	40	0.0	0.0	2.5	15.0	0.0	2.5	17.5
難病 (特定疾 病)	817	1.3	0.0	0.7	25.5	2.7	1.5	13.6
その他	42	2.4	0.0	0.0	23.8	0.0	4.8	28.6

障害種類別の平日の日中の過ごし方は、「知的障害」と「発達障害」では、「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が最も多くなっており、他の障害では「自宅で家事をしている」や「特に決まった予定はない」が多くを占めています。

(4-2) (仕事をしている方について) 仕事の内容 (問 28-2)

《全体》

(%)



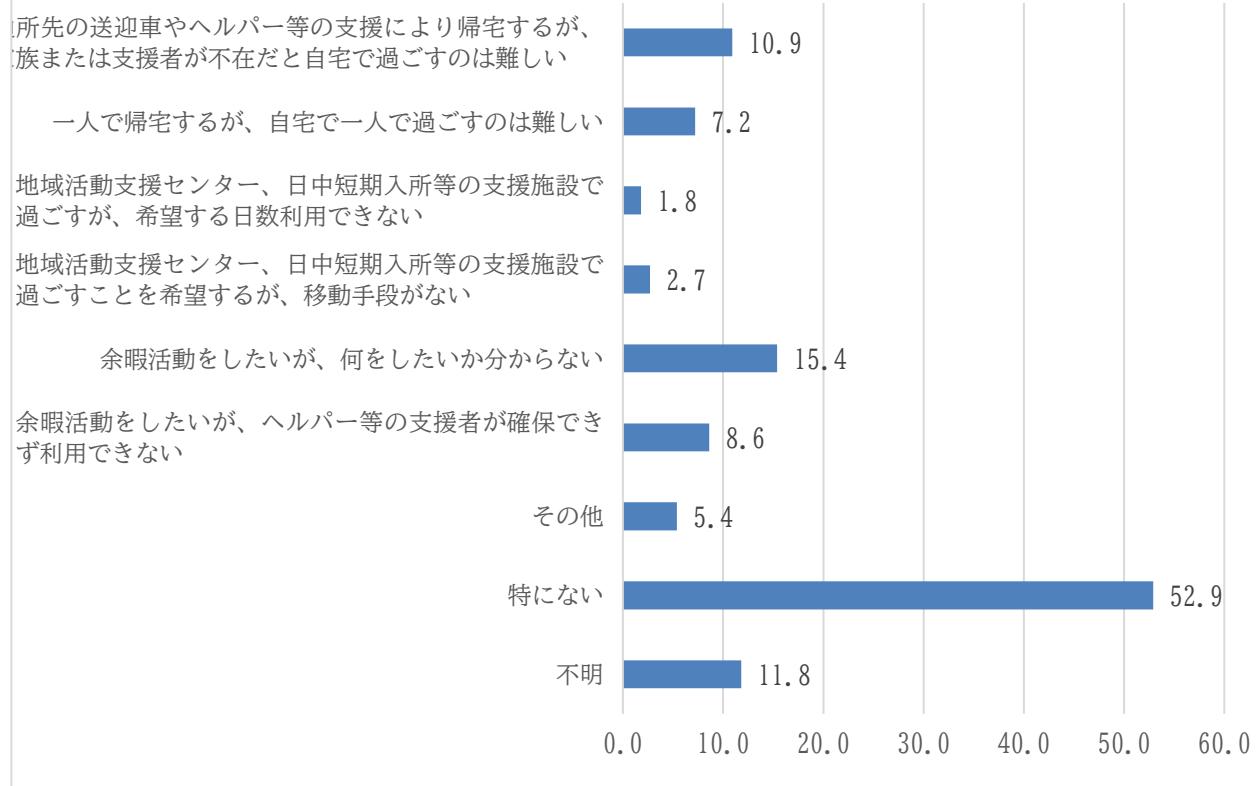
仕事の内容については、「事務の仕事」(42.6%) が最も多くなっています。

(4-3) (福祉施設を利用している方) 福祉施設利用後に困っていること (問28-6)

《全体》

(%)

n=221



福祉施設利用後の困りごとでは、「特にない」(52.9%)が最も多く、次いで「余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない」(15.4%)、「通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい」(10.9%)と続いています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	通所先の送迎車やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい	一人で帰宅するが、自宅で一人で過ごすのは難しい	地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすが、希望する日数利用できない	地域活動支援センター、日中短期入所等の支援施設で過ごすことを希望するが、移動手段がない	余暇活動をしたいが、何をしたいか分からない	余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない	特にない
肢体不自由	25	16.0	0.0	4.0	12.0	16.0	16.0	48.0
音声・言語・そしゃく機能障害	12	33.3	16.7	0.0	8.3	8.3	8.3	41.7
視覚障害	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3
聴覚・平衡機能障害	6	0.0	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0
内部障害	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
知的障害	128	18.0	7.0	3.1	3.9	14.1	14.1	48.4
発達障害	49	14.3	18.4	4.1	4.1	22.4	22.4	30.6
精神障害	74	4.1	2.7	0.0	1.4	21.6	2.7	54.1
高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0
難病(特定疾病)	7	28.6	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	71.4
その他	6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

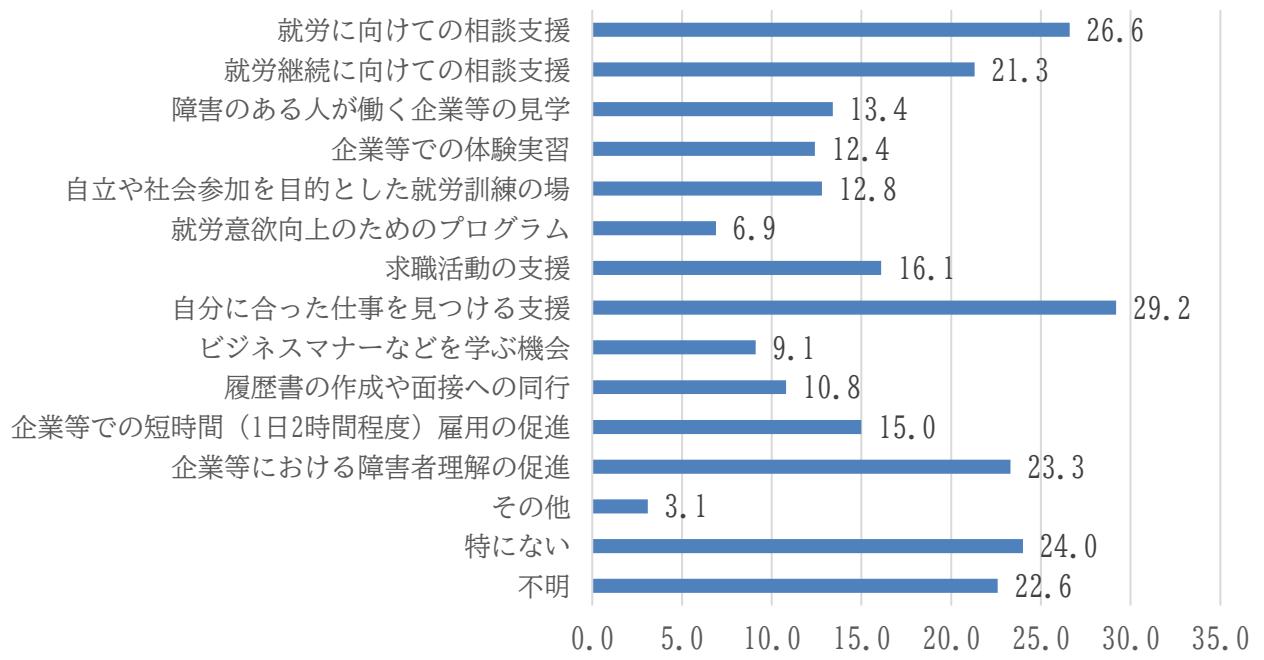
障害種類別では、すべての障害で「特にない」が最も多くなっている。また、「聴覚・平衡機能障害」では、「一人で帰宅するが、自宅で一人で過ごすのは難しい」も多くなっています。

(4-4) 一般就労のために希望すること（問29）

《全体》

(%)

n=2,493



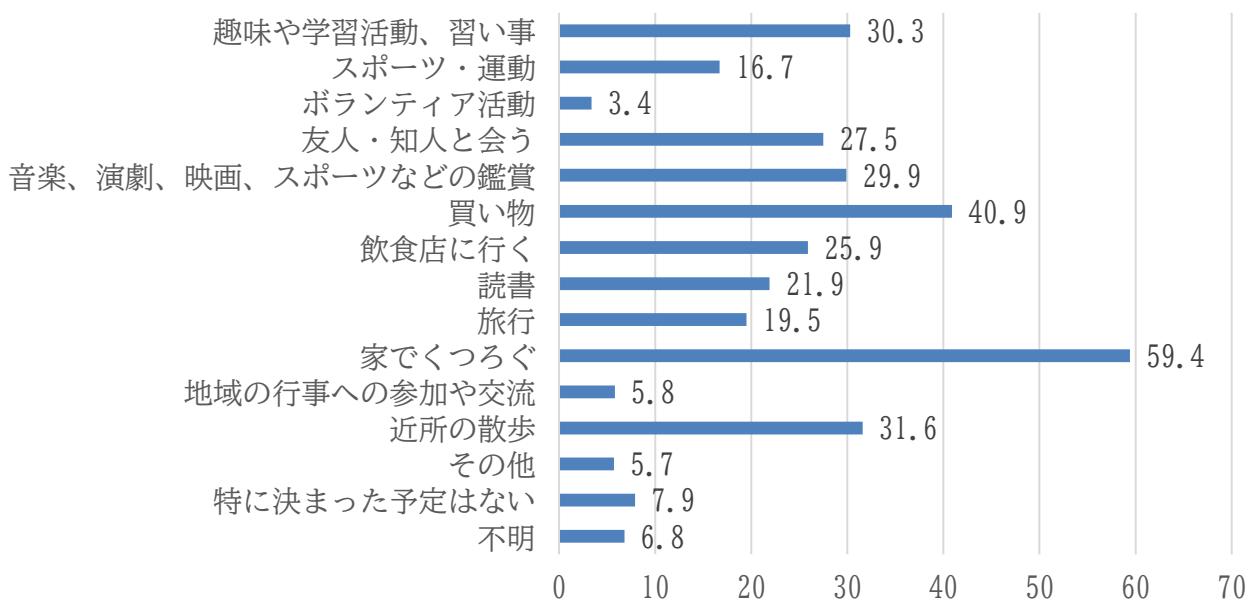
障害者が一般就労するために希望する支援については、「自分に合った仕事を見つける支援」(29.2%)が最も多く、次いで「就労に向けての相談支援」(26.6%)、「企業等における障害理解の促進」(23.3%)となっています。

(4-5) 余暇の過ごし方（問30）

《全体》

(%)

n=2,493



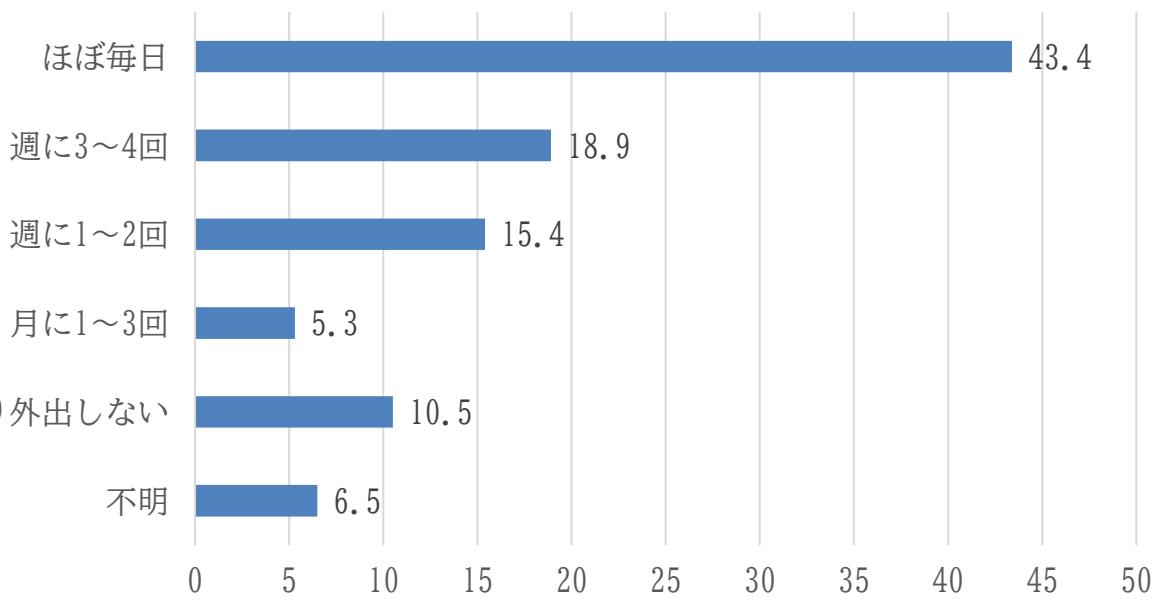
余暇の過ごし方については、「家でくつろぐ」(59.4%)が最も多く、次いで「買い物」(40.9%)、「近所の散歩」(31.6%)、「趣味や学習活動、習い事」(30.3%)となっています。

(4-6) 外出頻度 (問 31)

《全体》

(%)

n=2,493



外出頻度については、「ほぼ毎日」(43.4%) が最も多く、次いで「週に 3~4 回」(18.9%)、「週に 1~2 回」(15.4%) となっています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

	合計 (人)	ほぼ毎日	週に 3~4 回	週に 1~2 回	月に 1~3 回	あまり外出しない
肢体不自由	320	25.0	20.9	16.3	7.2	20.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	25.3	14.9	21.8	6.9	20.7
視覚障害	163	33.7	24.5	14.1	9.2	11.0
聴覚・平衡機能障害	153	33.3	17.6	21.6	5.9	12.4
内部障害	324	43.5	20.1	14.8	4.6	11.7
知的障害	256	48.0	9.0	19.9	7.4	10.2
発達障害	263	48.3	17.1	17.5	4.2	9.5
精神障害	626	45.0	20.3	14.2	5.8	10.4
高次脳機能障害	40	37.5	12.5	7.5	15.0	17.5
難病 (特定疾病)	817	49.3	17.0	14.2	3.9	9.3
その他	42	40.5	19.0	7.1	7.1	21.4

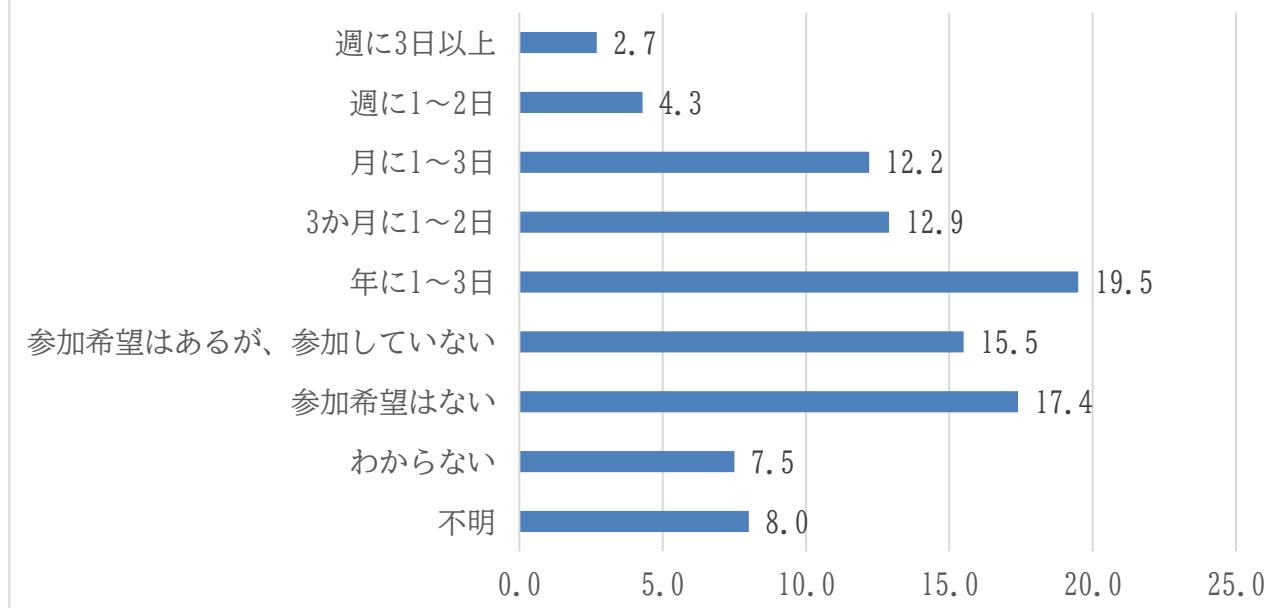
障害別では、すべての障害で「ほぼ毎日」が最も多くなっています。

(4-7) 文化芸術活動への参加頻度（問33）

《全体》

(%)

n=2,493



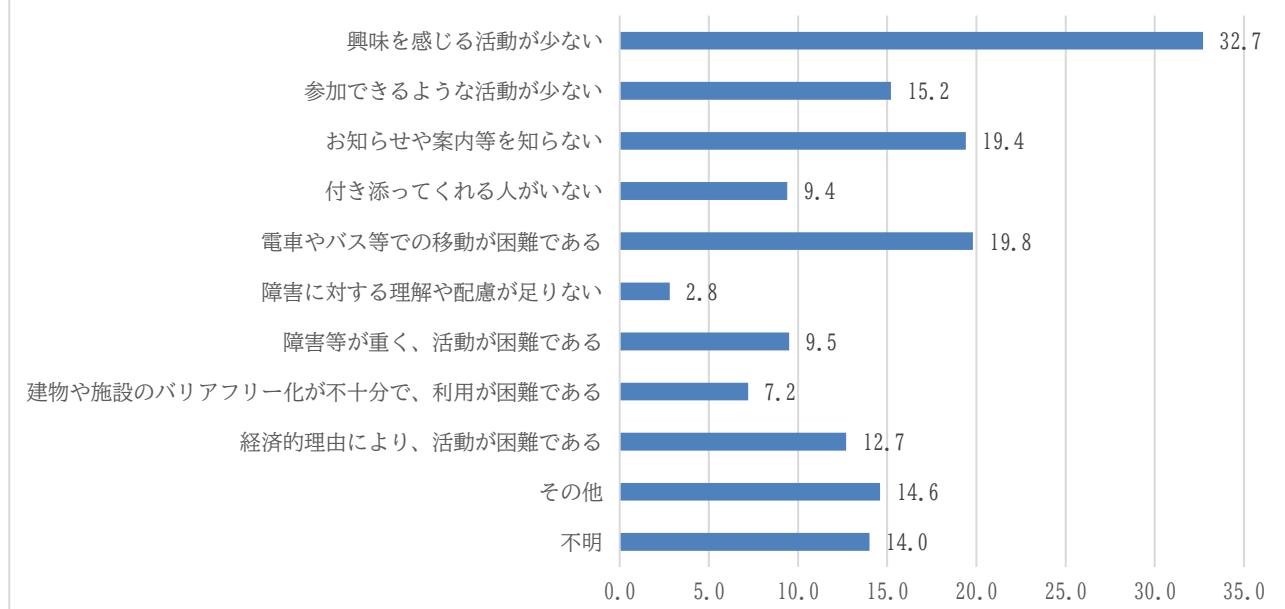
文化芸術活動への参加頻度について、「年に1~3回」(19.5%)と最も多くなっています。また、「参加希望はない」(17.4%)、「参加希望はあるが、参加していない」(15.5%)についても高い割合となっています。

(4-8) 文化芸術活動への不参加の理由（問33-1）

《全体》

(%)

n=820



文化芸術活動への不参加の理由について、「興味を感じる活動が少ない」(32.7%)が最も多く、次いで「電車やバス等での移動が困難である」(19.8%)、「お知らせや案内等を知らない」(19.4%)が多くなっています。

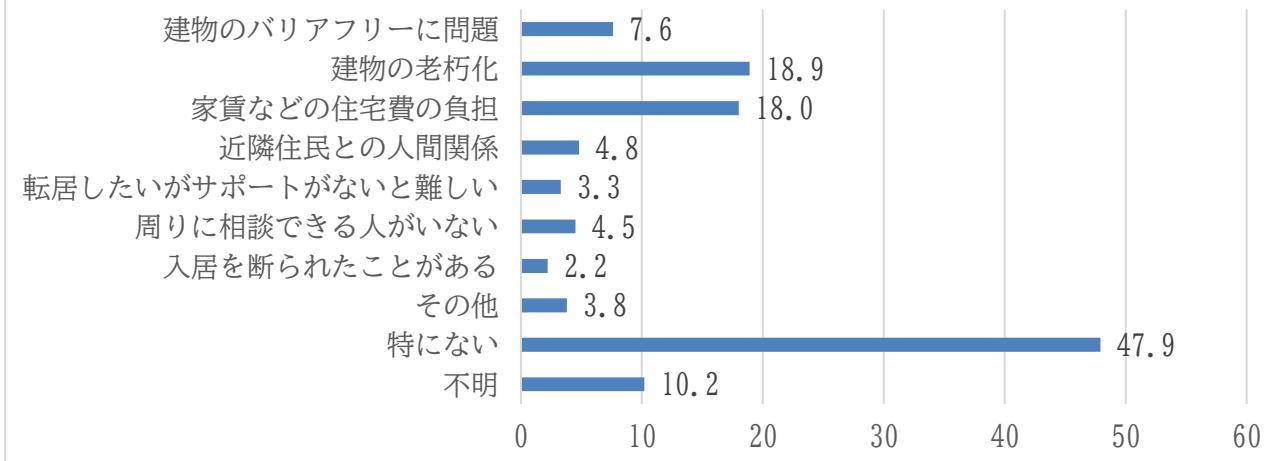
5 住まいについて

(5-1) 住まいに困っていること（問34）

《全体》

(%)

n=2,493



住まいに困っていることについては、「特にない」(47.9%)が最も多く、次いで「建物の老朽化」(18.9%)と「家賃など住宅費の負担」(18.0%)と続いています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	建物のバ リアフリーに問題	建物の 老朽化	家賃など 住宅費の 負担	近隣住民 との人間 関係	転居した いがサポ ートがな いと難し い	周りに相 談できる 人がいな い	入居を断 られたこ とがある	特に ない
肢体不自 由	320	17.8	16.9	11.6	2.5	1.9	3.4	1.9	45.0
音声・言 語・そし やく機能 障害	87	16.1	19.5	12.6	3.4	1.1	3.4	2.3	54.0
視覚障害	163	9.2	19.6	16.6	4.3	2.5	4.9	6.7	50.9
聴覚・平 衡 機能障害	153	7.2	24.2	8.5	5.2	0.7	0.7	0.0	48.4
内部障害	324	8.6	18.5	12.7	2.8	2.2	2.5	1.2	52.8
知的障害	256	5.5	12.1	10.2	4.7	1.6	2.7	1.2	59.4
発達障害	263	3.0	20.9	31.6	7.6	8.0	9.9	3.4	38.8
精神障害	626	5.6	24.9	30.2	10.4	8.1	11.2	5.1	32.9
高次脳機 能障害	40	5.0	22.5	15.0	0.0	2.5	0.0	2.5	42.5
難病 (特定疾 病)	817	7.8	17.6	15.5	2.4	1.5	1.5	0.6	53.4
その他	320	11.9	23.8	7.1	4.8	7.1	9.5	4.8	47.6

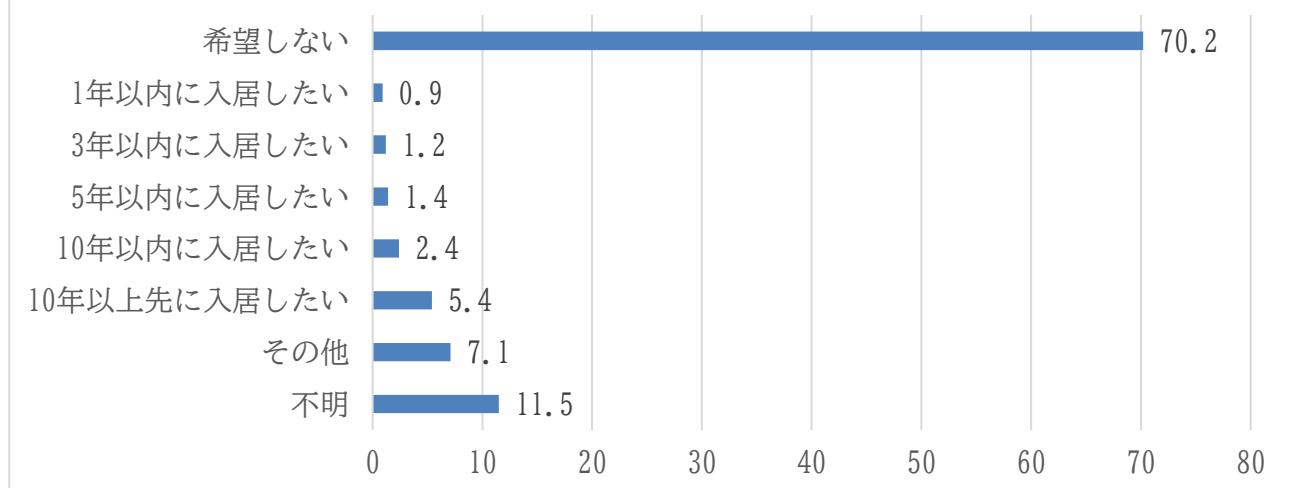
障害の種類別の住まいに困っていることは、全ての障害で「特にない」が最も多くなっている一方、「建物の老朽化」についてもすべての障害で多くの回答がありました。また「発達障害」と「精神障害」では、「家賃などの住居費の負担」が他障害と比較して高い値になっている傾向があります。

(5-2) グループホームへの入居希望（問36）

《全体》

(%)

n=2,493



グループホームへの入居希望については、「希望しない」が最も多く7割を超える回答となっています。一方で、将来を見据えてグループホームへの入居を希望する回答も一定数ありました。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	1年以内 に入居し たい	3年以内 に入居し たい	5年以内 に入居し たい	10年以内に 入居したい	10年以 上先に入 居したい	希望しない
肢体不自由	320	0.3	1.6	0.9	1.9	4.4	66.6
音声・言語・そし ゃく機能障 害	87	1.1	2.3	0.0	3.4	10.3	66.7
視覚障害	163	1.2	1.2	0.6	2.5	1.8	73.6
聴覚・平 衡機能障 害	153	1.3	0.7	1.3	2.0	4.6	64.7
内部障害	324	0.9	0.6	1.5	2.8	4.9	75.3
知的障害	256	2.0	4.7	4.7	11.3	15.2	25.4
発達障害	263	2.3	2.3	2.3	4.9	8.7	65.0
精神障害	626	1.1	1.3	1.0	1.8	4.5	76.2
高次脳機 能障害	40	2.5	2.5	0.0	0.0	2.5	65.0
難病 (特定疾 病)	817	0.9	0.2	1.1	0.7	5.5	77.0
その他	320	2.4	0.0	2.4	4.8	0.0	64.3

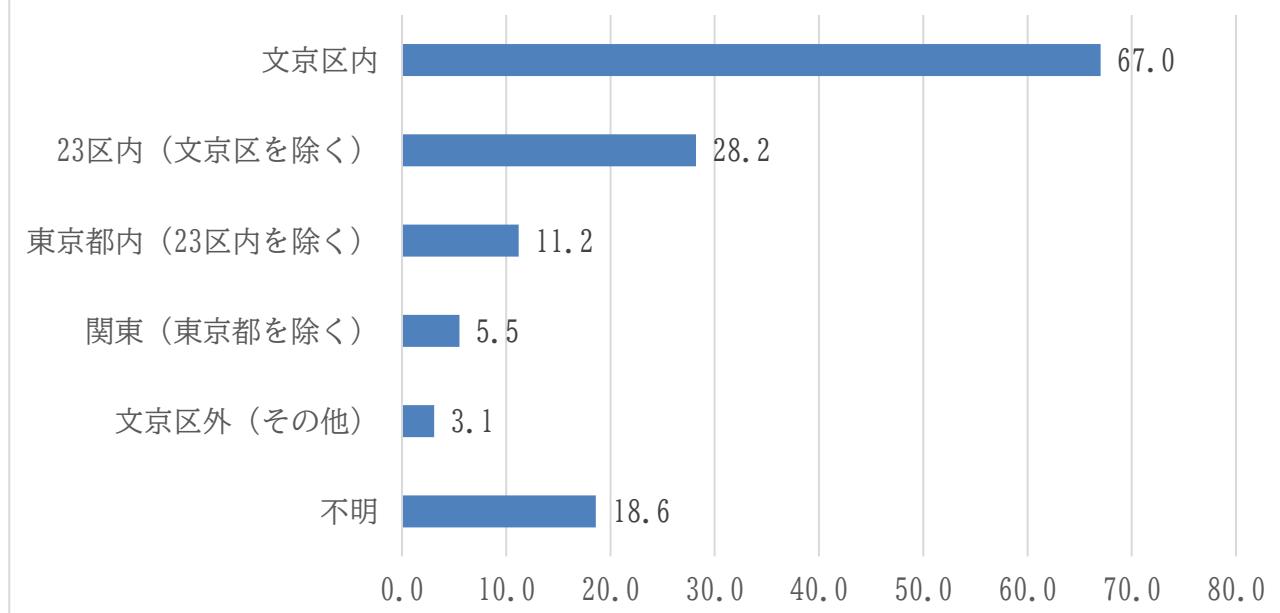
障害の種類別のグループホームへの入居希望については、すべての障害で「希望しない」が最も多くなっている一方で、「知的障害」は「希望しない」との回答が25.4%と、他の障害と比べて著しく低い割合となっています。また、「知的障害」では「10年以内に入居したい」や「10年以上先に入居したい」の回答がほかの障害と比べ、多く回答されています。

(5-3) 希望するグループホームの所在地（問 36-1）

《全体》

(%)

n=457



希望するグループホームの所在地については、「文京区内」が最も多く7割近くとなっています。続いて、「23区内（文京区を除く）」(28.2%)、「東京都内（23区内を除く）」(11.2%) となっています。

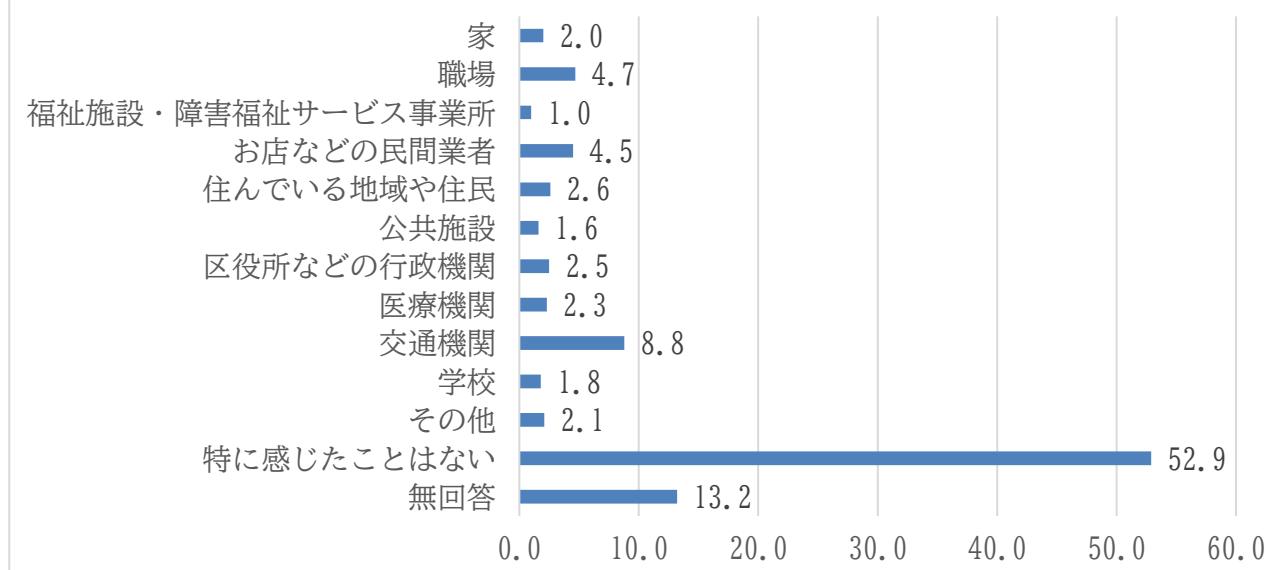
6 権利擁護・差別解消について

(6-1) 地域で障害者への差別や合理的配慮への不提供を感じる場面（問 39）

《全体》

(%)

n=2,493



地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面については、「特に感じたことはない」が半数以上を占めており、最も多くなっています。次いで、交通機関(8.8%)、職場(4.7%)と続いています。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	家	職場	福祉施設・障害福祉サービス事業所	お店などの民間事業者	住んでいる地域や住民	公共施設
肢体不自由	320	0.6	1.6	0.9	5.9	2.2	1.9
音声・言語・そしやく機能障害	87	1.1	0.0	0.0	11.5	1.1	4.6
視覚障害	163	1.8	1.2	0.0	9.8	2.5	3.1
聴覚・平衡機能障害	153	1.3	2.0	0.7	10.5	4.6	0.7
内部障害	324	1.9	1.9	0.9	1.9	0.9	0.9
知的障害	256	1.2	2.7	2.0	6.3	3.9	4.3
発達障害	263	5.7	11.0	1.9	4.2	3.8	3.8
精神障害	626	4.5	10.2	2.1	3.4	4.5	1.6
高次脳機能障害	40	2.5	5.0	0.0	12.5	0.0	0.0
難病(特定疾病)	817	0.7	3.2	0.4	4.4	1.5	1.0
その他	320	4.8	7.1	4.8	2.4	4.8	0.0

	合計 (人)	区役所などの行政機関	医療機関	交通機関	学校	特に感じたことはない
肢体不自由	320	3.8	1.3	11.9	1.6	51.6
音声・言語・そしやく機能障害	87	3.4	5.7	8.0	1.1	51.7
視覚障害	163	3.1	3.1	11.0	1.8	50.3
聴覚・平衡機能障害	153	3.9	0.0	7.8	1.3	51.0
内部障害	324	2.8	1.9	8.3	1.2	63.9
知的障害	256	1.6	3.9	7.0	5.1	46.1
発達障害	263	5.7	2.7	8.0	5.3	34.2
精神障害	626	4.0	4.2	8.5	1.4	40.7
高次脳機能障害	40	2.5	2.5	12.5	0.0	42.5
難病(特定疾病)	817	1.5	0.7	10.5	2.0	58.9
その他	320	4.8	4.8	7.1	0.0	45.2

障害別では、全ての障害で「特に感じたことはない」が最も多くなっています。他の障害との比較では、「肢体不自由」や「視覚障害」、「高次脳機能障害」等では「交通機関」が多くなっており「精神障害」や「発達障害」では「職場」が多くなっています。

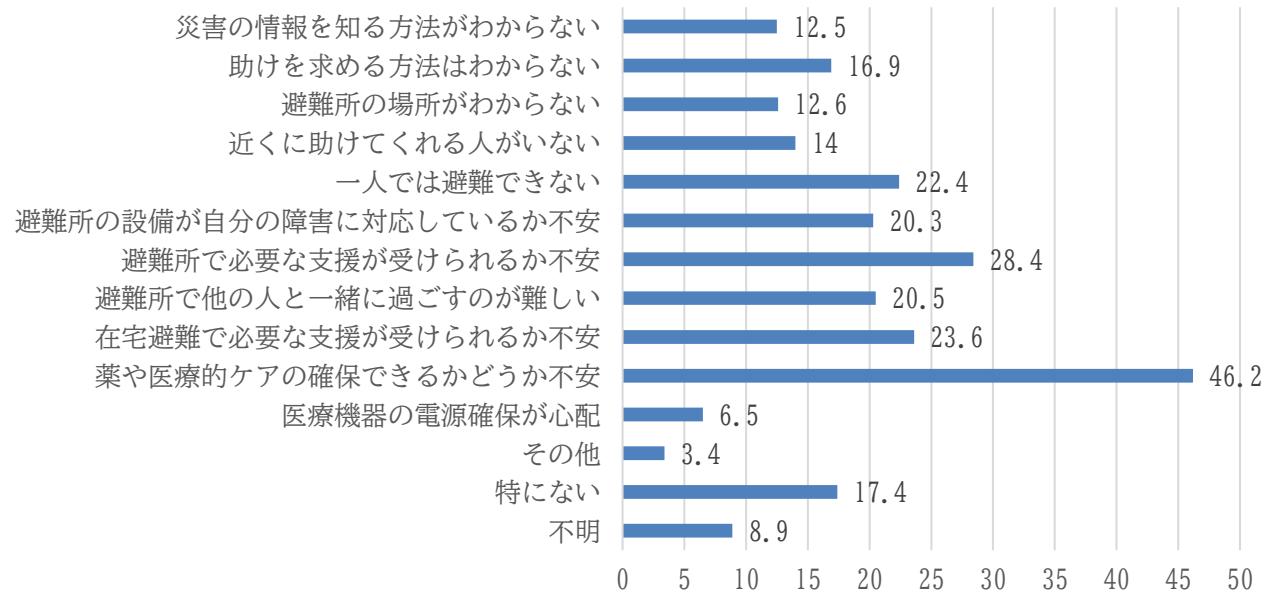
8 災害対策について

(8-1) 災害発生時に困ること (問43)

《全体》

(%)

n=2,493



災害発生時に困ることについては、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が46.2%と最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が28.4%となっています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

	合計 (人)	災害の情報を 知る方法 がわからな い	助けを求める 方法がわから ない	避難所の場 所がわから ない	近くに助け てくれる人 がいない	一人では避 難できな い	避難所の設 備が自分 の障害に 対応して いるか不 安
肢体不自由	320	9.7	14.4	9.1	15.3	44.7	34.7
音声・言語・そしゃく機能障害	87	14.9	26.4	10.3	13.8	47.1	35.6
視覚障害	163	19.6	22.7	20.2	16.6	46.6	28.2
聴覚・平衡機能障害	153	20.9	19.6	11.8	9.8	22.9	25.5
内部障害	324	7.1	12.3	10.2	12.7	18.8	21.6
知的障害	256	29.3	36.3	22.3	14.1	54.7	28.5
発達障害	263	20.5	28.9	18.6	19.4	21.7	24.0
精神障害	626	12.3	20.0	16.3	20.0	16.6	21.6
高次脳機能障害	40	12.5	25.0	15.0	20.0	35.0	37.5
難病(特定疾病)	817	8.6	12.2	8.4	11.5	16.2	14.2
その他	320	16.7	21.4	16.7	31.0	33.3	28.6

	合計 (人)	避難所で 必要な支 援が受け られるか 不安	避難所で 他の人と 一緒に過 ごすのが 難しい	在宅避難 で必要な 支援が受 けられる か不安	薬や医療 的ケアを 確保でき るか不安	医療機器 の電源の 確保が心 配	特にない
肢体不自由	320	36.9	16.6	28.1	42.5	10.0	12.5
音声・言 語・そしゃ く機能障害	87	43.7	21.8	31.0	43.7	13.8	13.8
視覚障害	163	32.5	17.2	33.1	35.0	4.3	13.5
聴覚・平衡 機能障害	153	30.1	18.3	26.8	34.0	11.8	18.3
内部障害	324	29.3	13.3	25.9	54.0	10.5	21.0
知的障害	256	39.1	37.5	28.5	28.5	6.6	14.1
発達障害	263	31.9	38.4	24.7	43.0	7.2	17.1
精神障害	626	33.1	32.6	23.6	54.0	4.6	14.9
高次脳機能 障害	40	37.5	22.5	32.5	40.0	2.5	7.5
難病 (特定疾病)	817	23.3	13.5	21.5	55.6	6.5	17.4
その他	320	35.7	31.0	21.4	38.1	16.7	19.0

障害別では、「肢体不自由」や「音声・言語・そしゃく機能障害」、「視覚障害」、「知的障害」では「一人では避難できない」が最も多く、「聴覚・平衡機能障害」や「内部障害」「精神障害」、「発達障害」、「高次脳機能障害」、「難病」では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も多くなっています。

4 18歳未満の方を対象にした調査

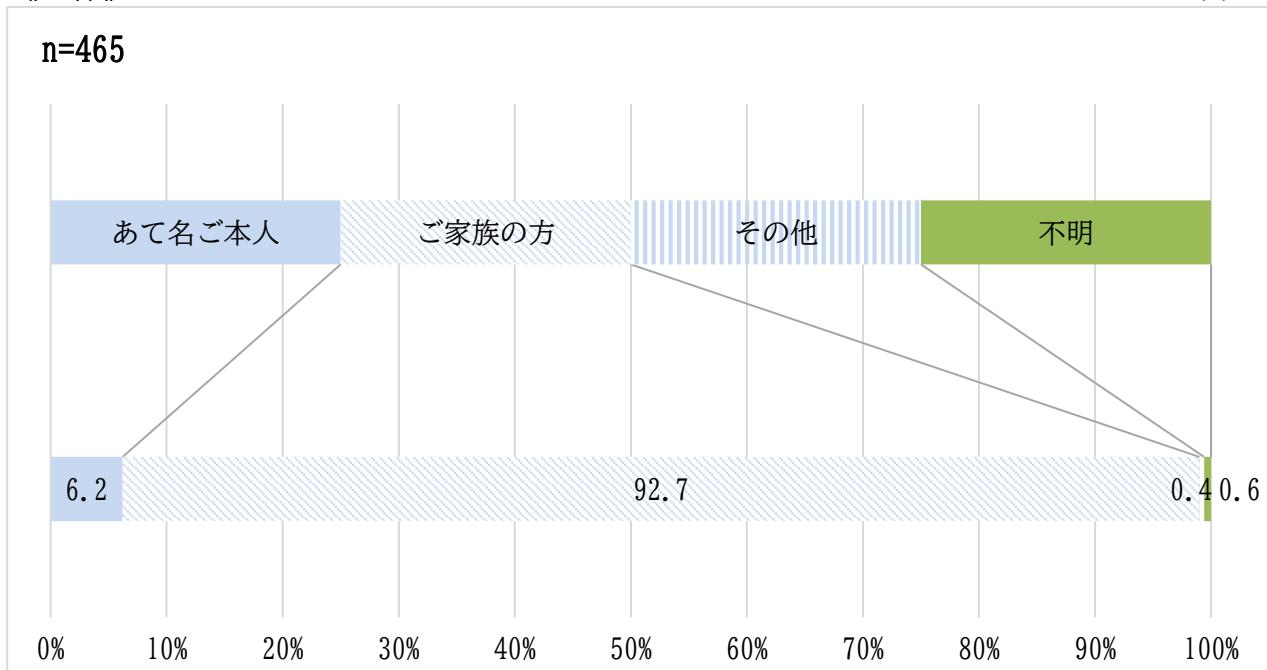
1 対象者特性

(1-1) 回答者（問1）

《全体》

(%)

n=465



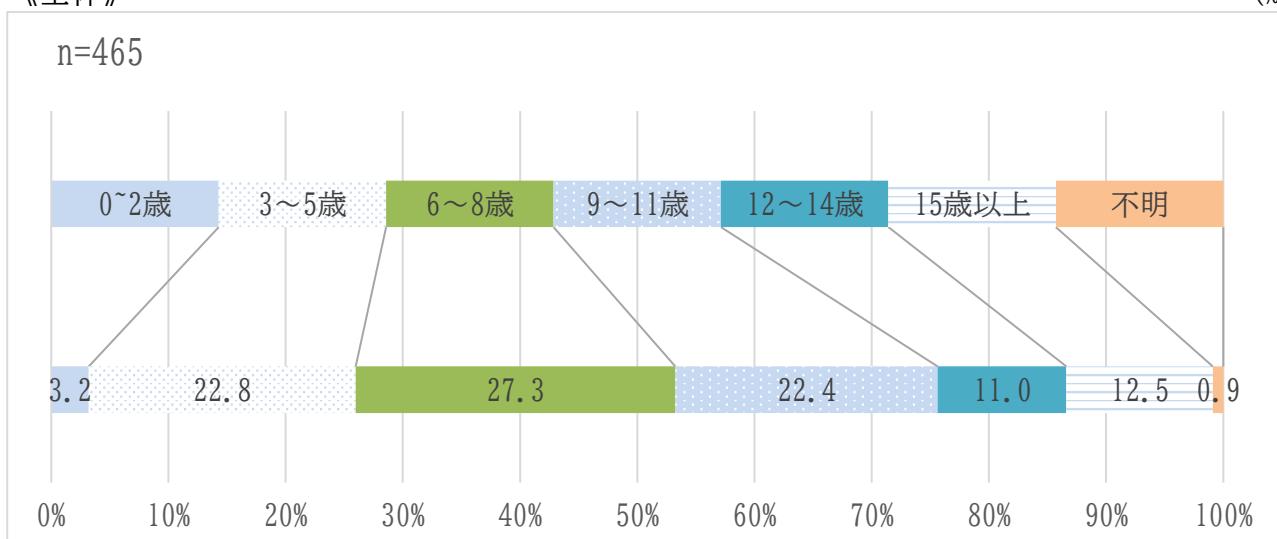
回答者については、「ご家族の方」が92.7%、「あて名ご本人」が6.2%となっています。

(1-2) 年齢（問2）

《全体》

(%)

n=465



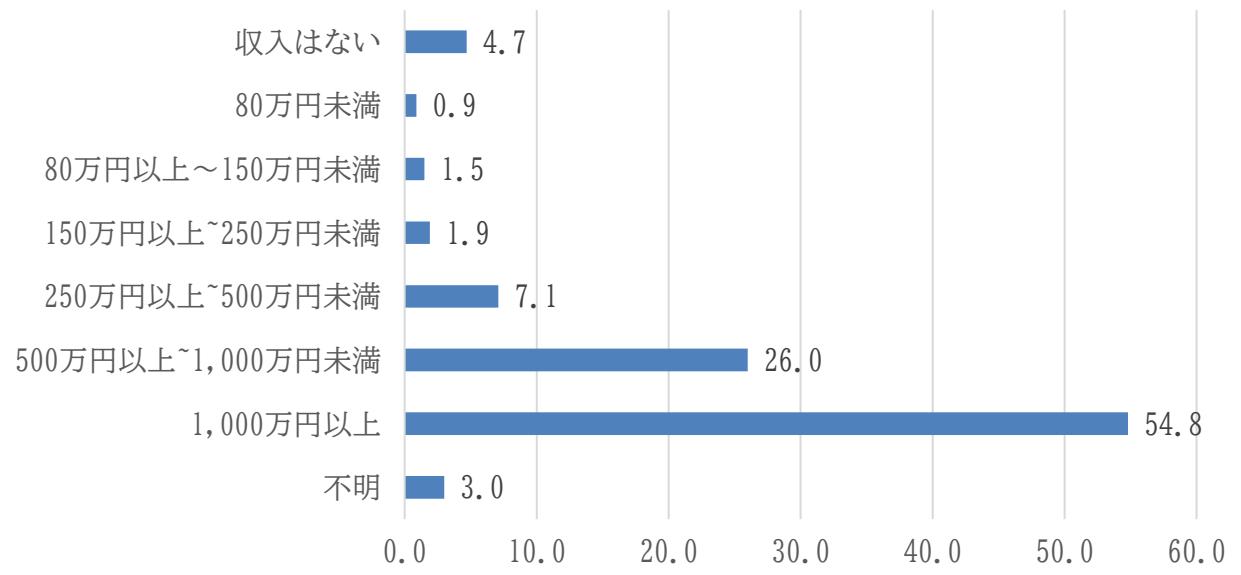
年齢については、3~5歳(22.8%)、6~8歳(27.3%)、9~11歳(22.4%)がそれぞれ2割台となっています。次いで、15歳以上(12.5%)、12~14歳(11%)となっています。

(1-3) 世帯の年収（問3）

《全体》

(%)

n=465



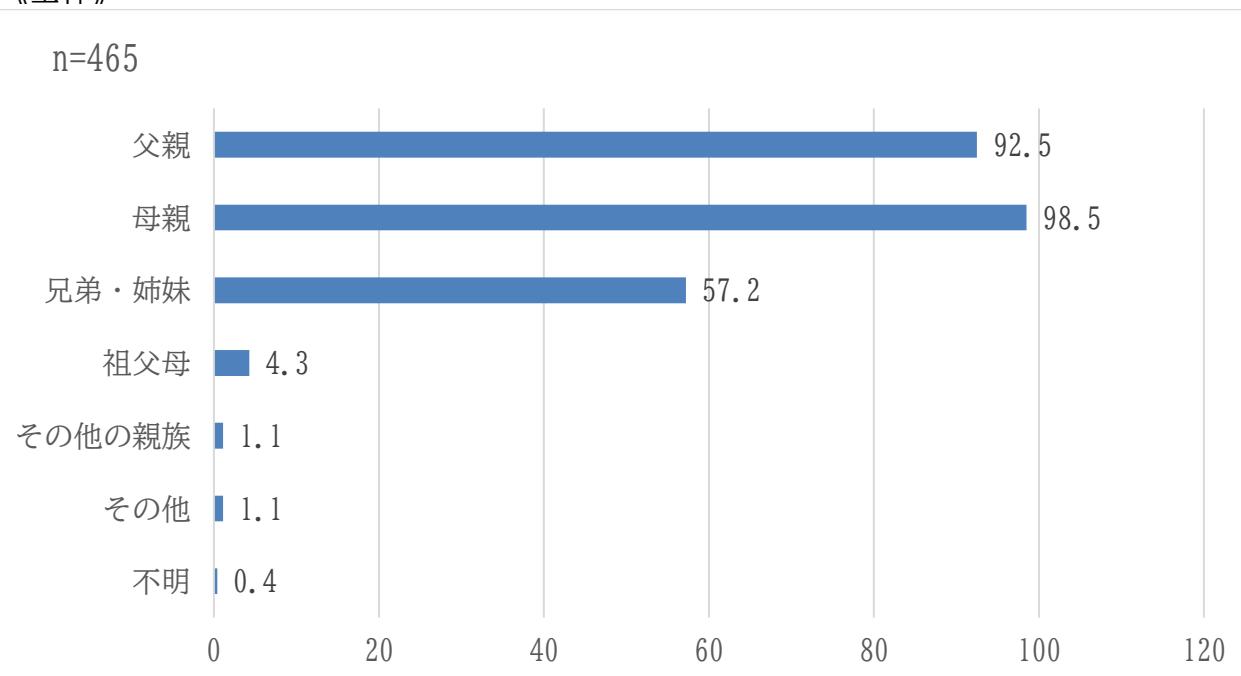
世帯の収入については、「1,000万円以上」が54.8%と半数以上を占めており、「500万円以上～1,000万円未満」と合わせると、全体の8割に到達しています。

(1-4) 同居家族（問4）

《全体》

(%)

n=465



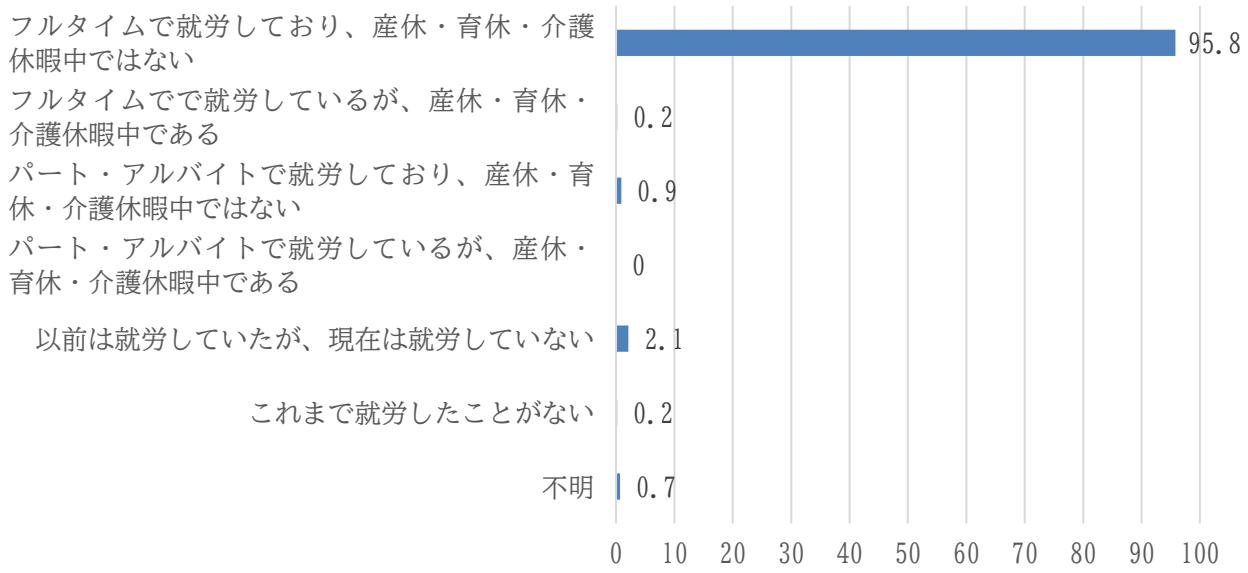
同居家族については、「母親」が98.5%と最も多く、次いで「父親」92.5%となっています。

(1-5) 父親の就労状況（問5）

《全体》

(%)

n=430



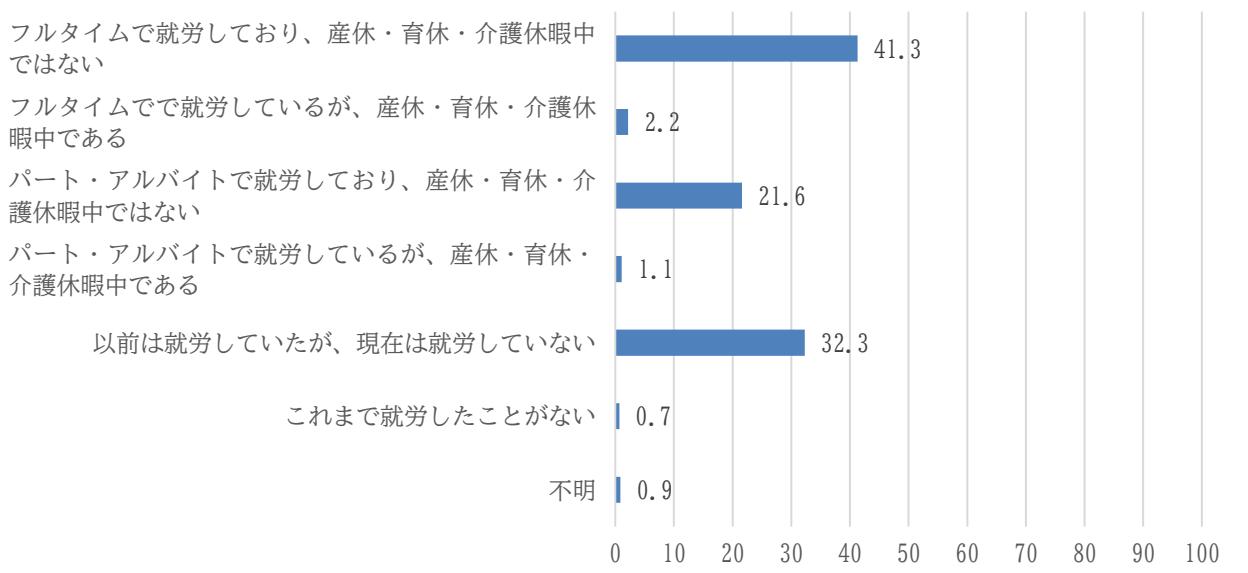
父親の就労状況については「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多く、9割以上の回答となっています。

(1-6) 母親の就労状況（問6）

《全体》

(%)

n=458



母親の就労状況については、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(41.3%) が最も多く、続いて、「以前は就労していたが、現在は就労していない」(32.3%)、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(21.6%) となっています。

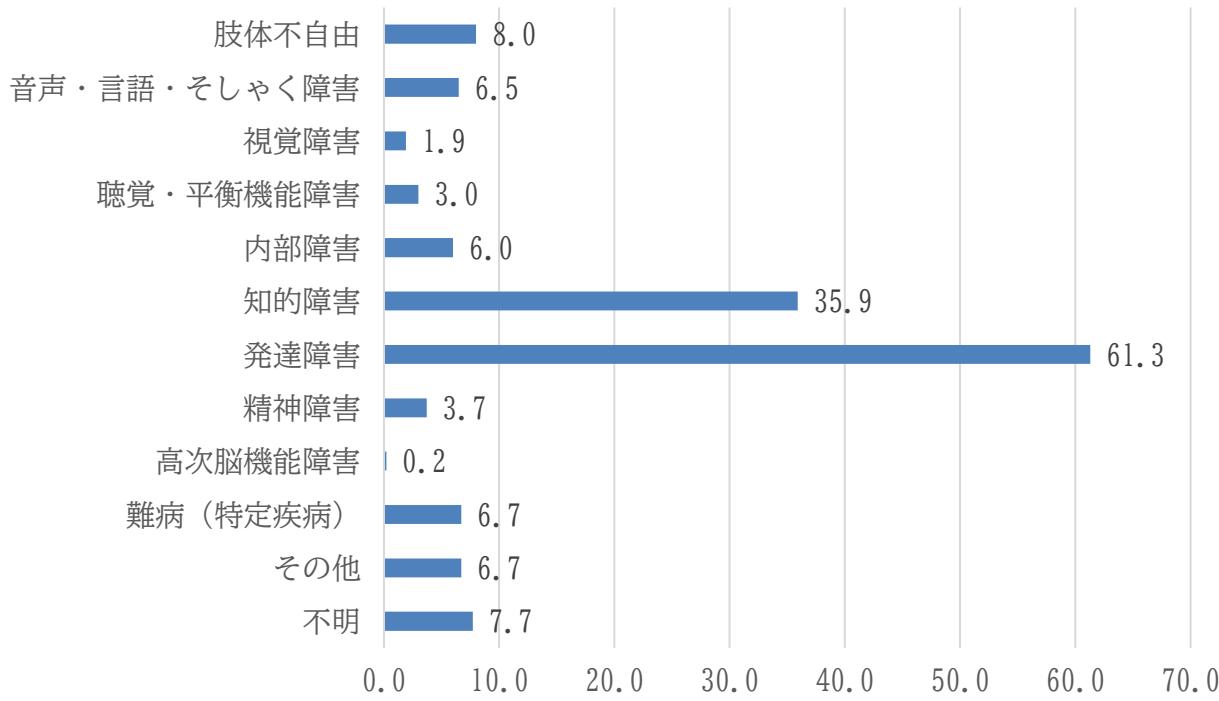
2 障害と健康について

(2-1) 障害の種類（問7）

《全体》

(%)

n=465



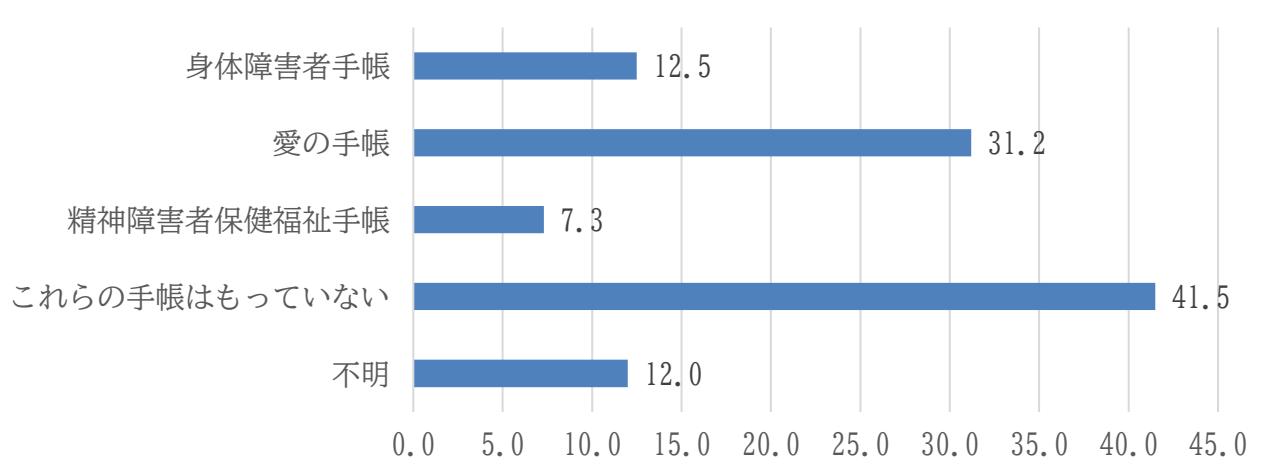
障害の種類については、「発達障害」が61.3%、他の障害よりも突出して多く、次いで「知的障害」が35.9%となっています。

(2-2) 手帳の所持状況（問8）

《全体》

(%)

n=465



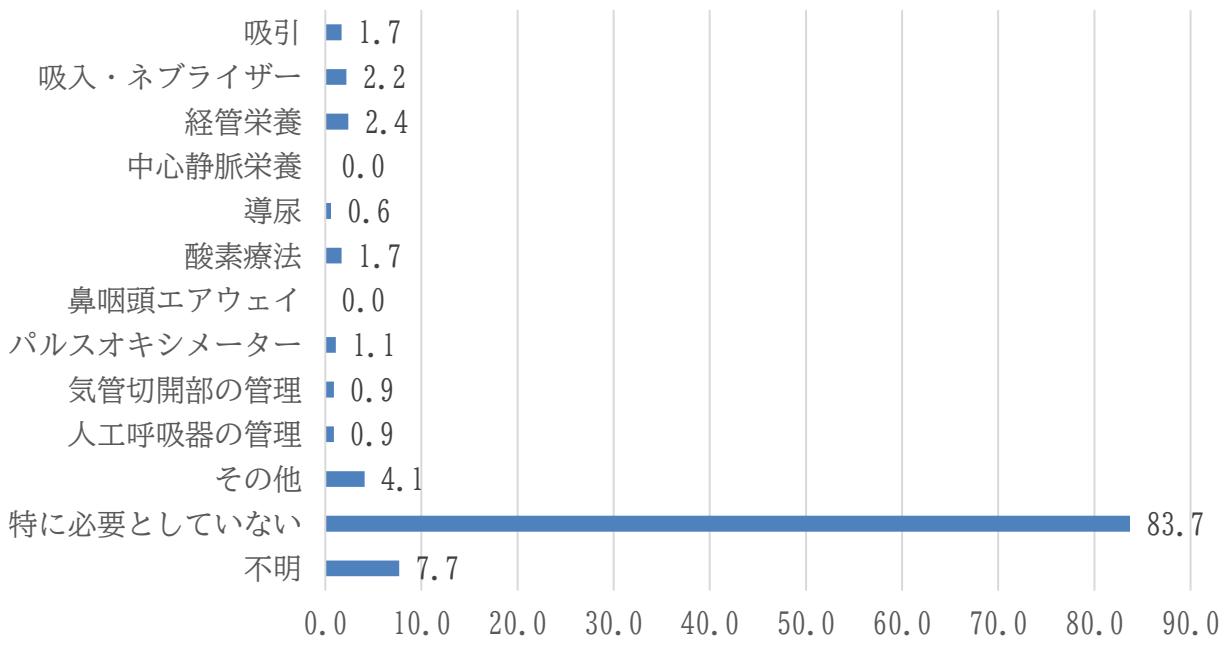
手帳の所持状況については、「愛の手帳」が31.2%と最も多く、次いで「身体障害者手帳」が12.5%、「精神障害者保健福祉手帳」が7.3%となっています。一方、「これらの手帳は持っていない」は41.5%となっています。

(2-3) 必要とする医療的ケア（問 14）

《全体》

(%)

n=465



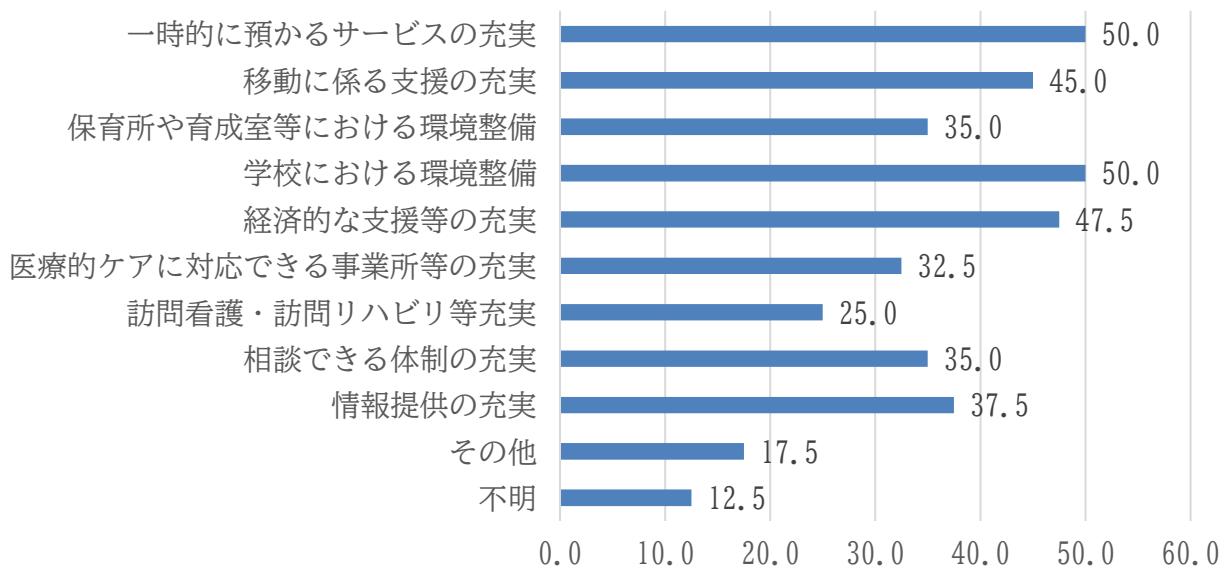
必要とする医療的ケアについては、回答が多いものから、「経管栄養」(2.4%)、次いで「吸入・ネブライザー」(2.2%)、「吸引」(1.7%)、(酸素療法) (1.7%) となってています。

(2-4) 医療的ケア児やその介助者のために必要な支援策（問 14-1）

《全体》

(%)

n=40

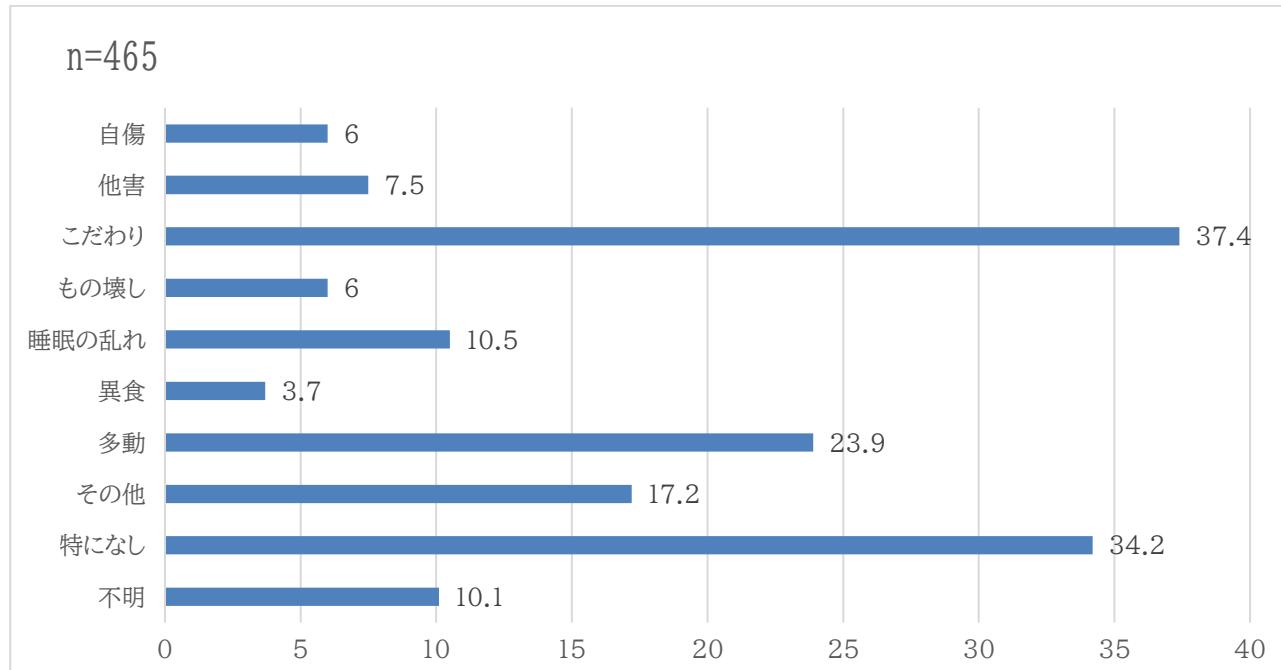


医療的ケア児やその介助者のために必要な支援策については、「一時的に預かるサービスの充実」(50.0%)、「学校における環境整備」(50.0%) が最も多く、半数の方が回答をしています。次いで、「経済的な支援等の充実」(47.5%)、「移動に係る支援の充実」(45.0%) と続いており。こちらも半数近い回答数となっています。

(2-5) 日常生活で必要な特別な支援や配慮（問15）

《全体》

(%)



日常生活で必要な特別な支援や配慮については、「こだわり」(37.4%) が最も多く、次いで「多動」(23.9%)、「睡眠の乱れ」(10.5%) となっています。一方、「特になし」(34.2%) となっており、何かしらの特別な支援や配慮を必要とするとの回答は(55.7%) になっております。

《障害の種類別》

(%)

	合計 (人)	自傷	他害	こだわり	もの壊し	睡眠の乱れ	異食	多動	特になし
肢体不自由	37	2.7	2.7	10.8	5.4	16.2	8.1	8.1	43.2
音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	0.0	20.0	3.3	6.7	0.0	10.0	46.7
視覚障害	9	11.1	0.0	22.2	11.1	22.2	11.1	11.1	44.4
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	14.3	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	50.0
内部障害	28	3.6	7.1	21.4	7.1	3.6	3.6	7.1	53.6
知的障害	167	11.4	10.8	43.1	8.4	16.2	4.8	24.0	28.7
発達障害	285	8.4	11.2	51.9	8.1	12.3	4.2	34.7	25.3
精神障害	17	5.9	5.9	52.9	5.9	11.8	5.9	11.8	11.8
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	31	3.2	6.5	25.8	3.2	9.7	3.2	12.9	48.4
その他	31	6.5	9.7	25.8	6.5	19.4	6.5	16.1	38.7

障害別では「知的障害」、「発達障害」、「精神障害」では、「こだわり」が最も多く、それ以外の障害では、「特なし」が最も多くなっています。また、「知的障害」、「発達障害」では他の障害と比べ、「自傷」、「他害」や「睡眠の乱れ」の回答が多くなっています。

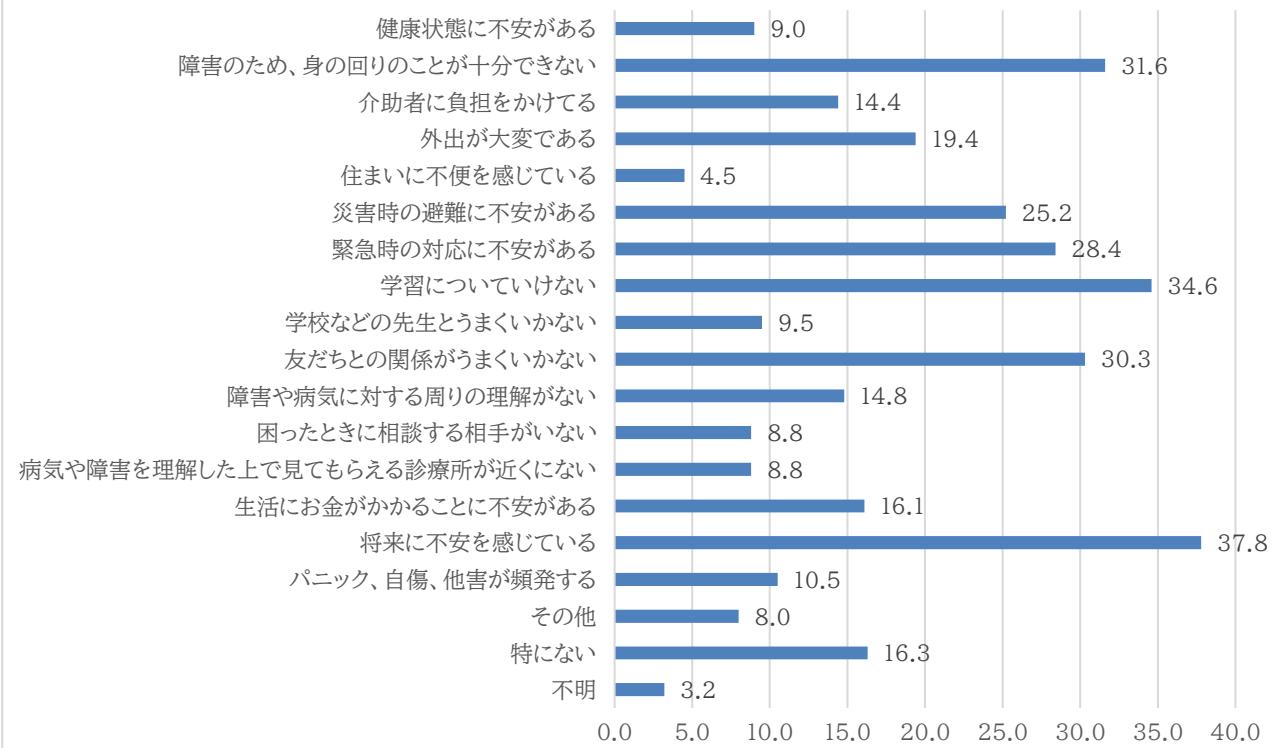
3 相談や福祉の情報について

(3-1) 日常生活で困っていること（問18）

《全体》

(%)

n=465



日常生活で困っていることについては、「将来に不安を感じていること」(37.8%)が最も多く、次いで「学習についていけない」(34.6%)、「障害のため、身の回りのことが十分にできない」(31.6%)「友だちとの関係がうまくいかない」(30.3%)となっています。

《障害の種類別》抜粋

(%)

	合計 (人)	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある	緊急時の対応に不安がある	学習についていけない	学校などの先生とうまくいかない
肢体不自由	37	32.4	64.9	29.7	56.8	16.2	51.4	48.6	18.9	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	30	26.7	56.7	23.3	40.0	10.0	43.3	26.7	20.0	3.3
視覚障害	9	22.2	44.4	55.6	66.7	11.1	55.6	33.3	11.1	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	21.4	35.7	14.3	0.0	0.0	42.9	50.0	28.6	0.0
内部障害	28	32.1	29.6	17.9	28.6	3.6	42.9	42.9	28.6	7.1
知的障害	167	14.4	58.7	24.6	37.7	7.2	48.5	53.9	46.7	6.6
発達障害	285	6.0	33.3	15.4	18.6	4.9	21.1	26.0	40.0	12.6
精神障害	17	11.8	52.9	17.6	52.9	17.6	47.1	52.9	35.3	23.5
高次脳機能障害	1	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	31	45.2	61.3	25.8	38.7	6.5	58.1	58.1	25.8	3.2
その他	31	16.1	29.0	16.1	19.4	3.2	29.0	25.8	32.3	9.7

	合計 (人)	友だち との関 係がう まくい かない	障害や 病気に対 する 周りの 理解が ない	困った とき相 談する 相手が いない	病気や障害 を理解した 上で診ても らえる診療 所が近くに ない	生活に お金が かかる ことに 不安が ある	将来に 不安を 感じて いる	パニッ ク、自 傷、他 害が頻 発する	特にな い
肢体不自由	37	8.1	5.4	10.8	5.4	32.4	45.9	2.7	5.4
音声・言 語・そしゃ く機能障害	30	16.7	13.3	6.7	6.7	33.3	56.7	0.0	3.3
視覚障害	9	11.1	44.4	11.1	11.1	22.2	66.7	11.1	11.1
聴覚・平衡 機能障害	14	7.1	21.4	0.0	7.1	7.1	14.3	7.1	14.3
内部障害	28	17.9	14.3	10.7	10.7	25.0	39.3	0.0	17.9
知的障害	167	27.5	21.6	13.8	13.8	26.9	50.9	14.4	5.4
発達障害	285	38.6	17.5	10.5	11.2	15.8	42.8	15.4	14.0
精神障害	17	29.4	17.6	11.8	11.8	35.3	52.9	0.0	5.9
高次脳機能 障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
難病 (特定疾 病)	31	12.9	16.1	16.1	9.7	22.6	45.2	3.2	9.7
その他	31	32.3	6.5	9.7	12.9	9.7	41.9	12.9	12.9

障害別の日常生活で困っていることについては、多くの障害で「障害のため、身の回りのことが十分できない」、「将来に不安を感じている」が最も多いとなっています。

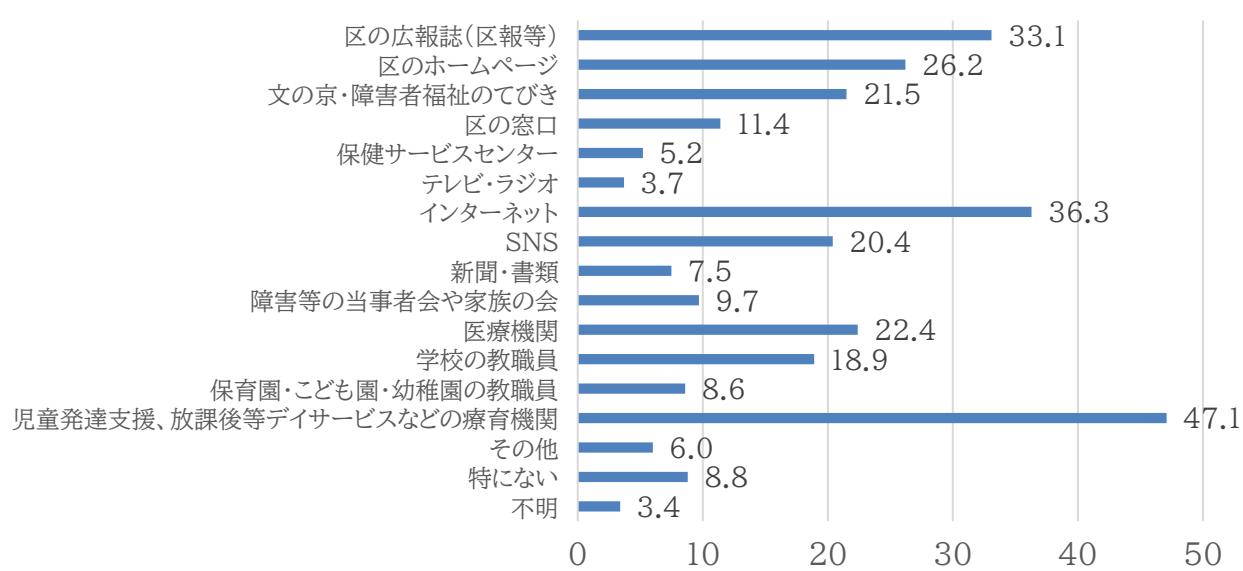
また、「視覚障害」と「精神障害」では、「外出が大変である」の回答も多くなっています。

(3-2) 福祉に関する情報の入手先（問19）

《全体》

(%)

n=465



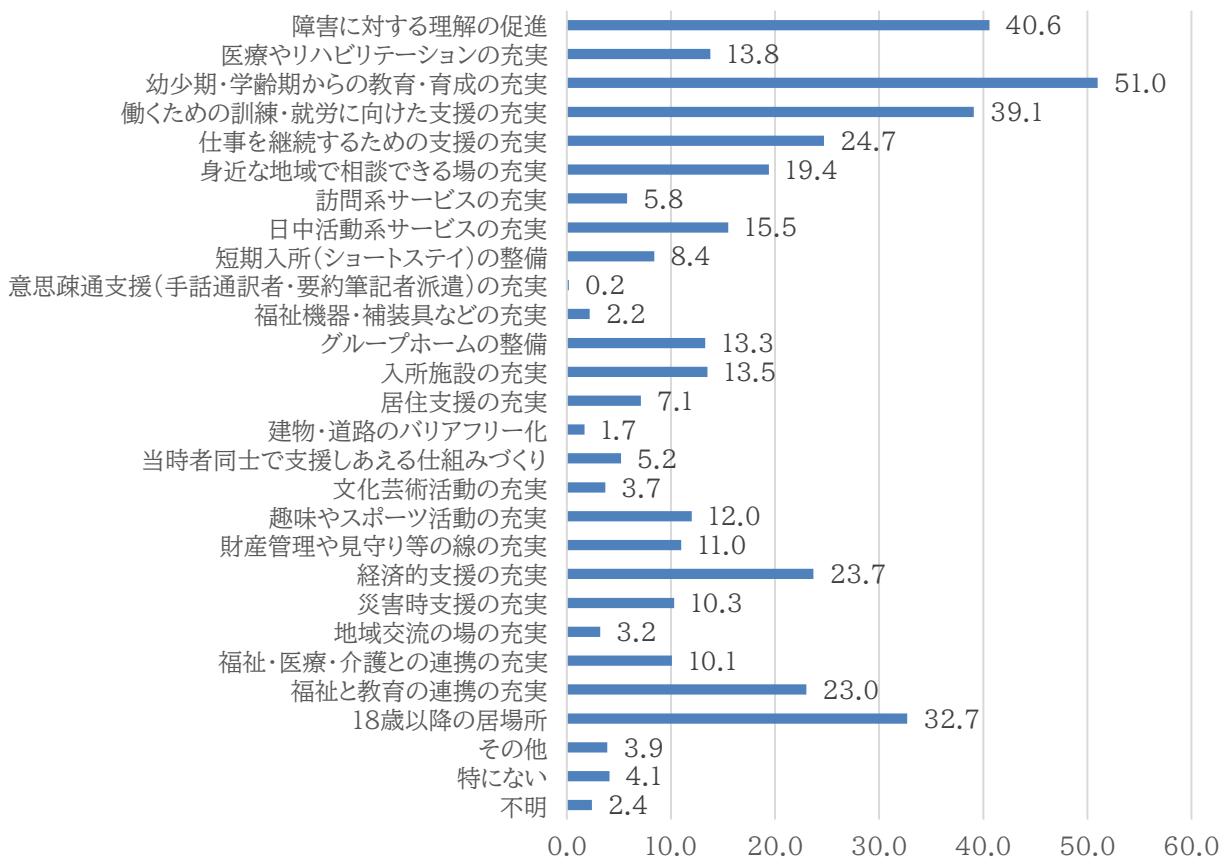
福祉に関する情報の入手先については、「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」(47.1%)と最も多く、次いで「インターネット」(36.3%)、「区の広報誌(区報)」(33.1%)となっています。

(3-3) 地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問21）

《全体》

(%)

n=465



地域で安心して暮らしていくために必要な施策については、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」(51.0%)が最も多く、次いで「障害に対する理解の促進」(40.6%)となっています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

	合計 (人)	障害に に対する 理解の 促進	医療や リハビ リテー ション の充実	幼少期・ 学齢期か らの教 育・育成 の充実	働くため の訓練・ 就労に向 けた支援 の充実	仕事を 継続す るため の支援 の充実	身近な 地域で 相談で きる場 の充実	訪問系サ ービスの 充実	日中活 動系サ ービスの 充実	短期入 所の整 備
肢体不自由	37	29.7	37.8	37.8	10.8	10.8	8.1	27.0	37.8	37.8
音声・言語・ そしゃく機能 障害	30	30.0	36.7	33.3	20.0	16.7	6.7	30.0	30.0	26.7
視覚障害	9	22.2	11.1	44.4	22.2	22.2	11.1	11.1	22.2	44.4
聴覚・平衡 機能障害	14	64.3	7.1	14.3	21.4	21.4	7.1	0.0	14.3	7.1
内部障害	28	39.3	28.6	46.4	28.6	39.3	21.4	10.7	21.4	7.1
知的障害	167	45.5	13.2	35.9	55.1	29.3	16.8	10.8	29.9	19.8
発達障害	285	45.3	10.9	53.7	45.6	26.3	21.1	4.2	15.1	6.3
精神障害	17	17.6	11.8	5.9	47.1	23.5	11.8	11.8	11.8	11.8
高次脳機能 障害	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	00
難病 (特定疾 病)	31	35.5	25.8	32.3	22.6	9.7	12.9	19.4	38.7	29.0
その他	31	29.0	3.2	67.7	25.8	16.1	22.6	0.0	3.2	9.7

	合計 (人)	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実
肢体不自由	37	0.0	13.5	21.6	45.9	5.4	5.4	2.7	0.0	2.7
音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	6.7	23.3	36.7	10.0	3.3	0.0	0.0	3.3
視覚障害	9	0.0	11.1	11.1	44.4	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	21.4	28.6	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	14.3
内部障害	28	0.0	3.6	14.3	17.9	3.6	0.0	10.7	0.0	7.1
知的障害	167	0.0	3.6	31.1	30.5	10.2	1.2	3.6	3.6	12.6
発達障害	285	0.0	0.4	12.6	11.6	8.8	0.7	5.3	3.2	12.6
精神障害	17	0.0	0.0	29.4	17.6	23.5	5.9	11.8	0.0	11.8
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	00	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾患)	31	0.0	12.9	32.3	29.0	6.5	0.0	3.2	3.2	6.5
その他	31	0.0	6.5	12.9	16.1	6.5	12.9	3.2	6.5	3.2

	合計 (人)	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	18歳以降の居場所	特にない
肢体不自由	37	5.4	21.6	8.1	2.7	16.2	16.2	37.8	2.7
音声・言語・そしゃく機能障害	30	13.3	36.7	6.7	3.3	10.0	3.3	40.0	0.0
視覚障害	9	11.1	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	44.4	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	21.4	14.3	7.1	0.0	14.3	7.1	7.1	14.3
内部障害	28	32.1	28.6	17.9	7.1	21.4	17.9	25.0	3.6
知的障害	167	19.8	31.1	15.0	3.6	13.8	12.0	49.1	0.0
発達障害	285	10.9	26.3	10.5	2.5	7.0	27.0	36.8	3.5
精神障害	17	23.5	29.4	5.9	17.6	0.0	0.0	64.7	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病(特定疾患)	31	22.6	29.0	16.1	6.5	12.9	9.7	35.5	3.2
その他	31	16.1	16.1	9.7	3.2	16.1	38.7	25.8	6.5

障害別の地域で安心して暮らしていくために必要な施策については、複数の障害で「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」、「入所施設の整備」、「18歳以降の居場所」の回答が多くなっています。また、「知的障害」では、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が5割を超えて最も多くなっています。

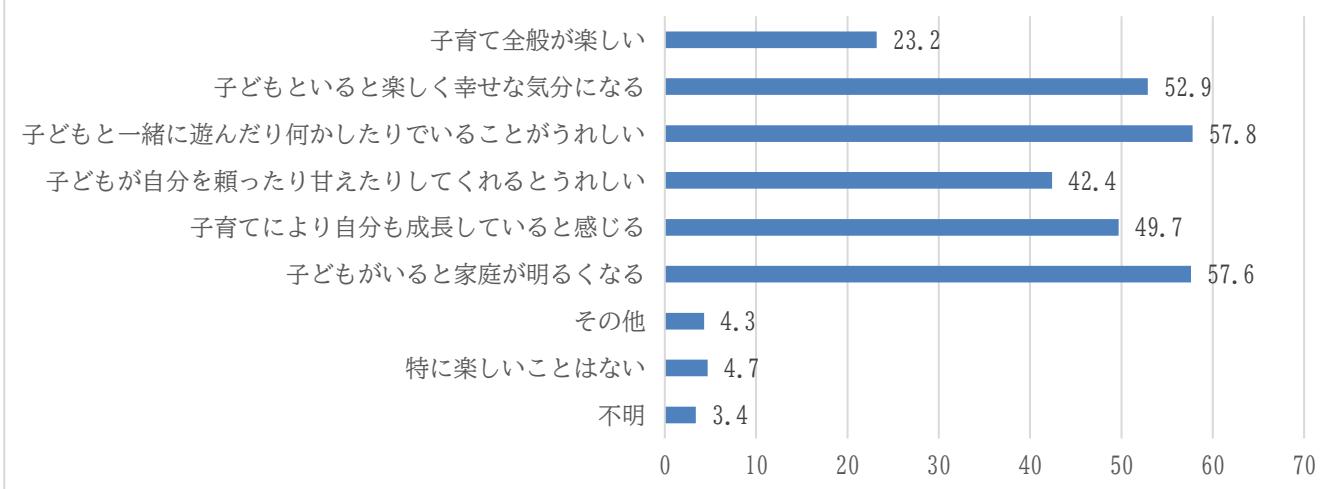
4 子育てにおける悩みについて

(4-1) 子育てへの感じ方（問22）

《全体》

(%)

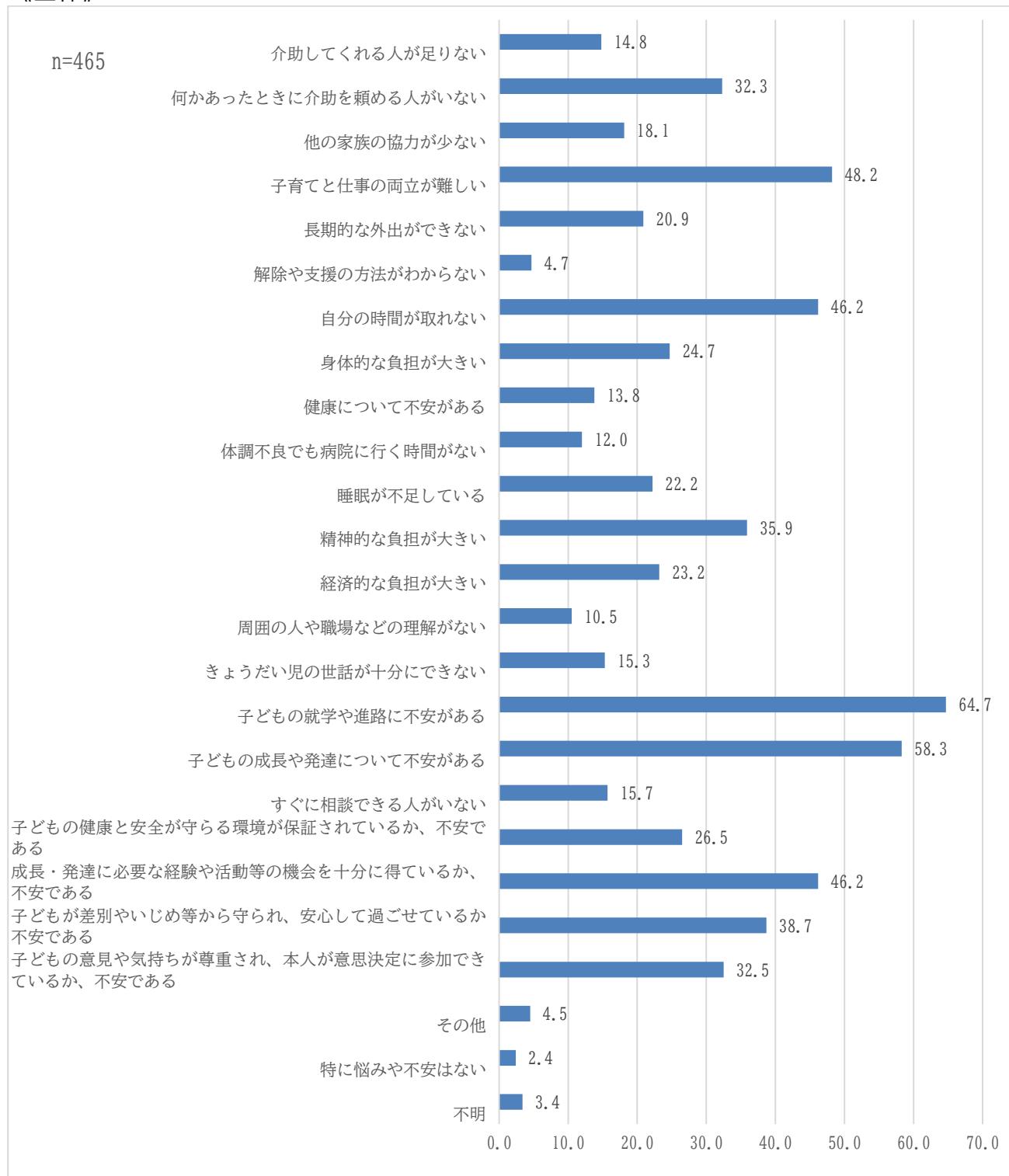
n=465



子育てへの感じ方については、「子どもと一緒に遊んだり何かしたりできることがうれしい」(57.8%)、「子どもがいると家庭が明るくなる」(57.6%)、「子どもといふと楽しく幸せな気分になる」(52.9%)の回答が5割を超えています。

(4-2) 保護者の方の悩みや不安（問23）

《全体》



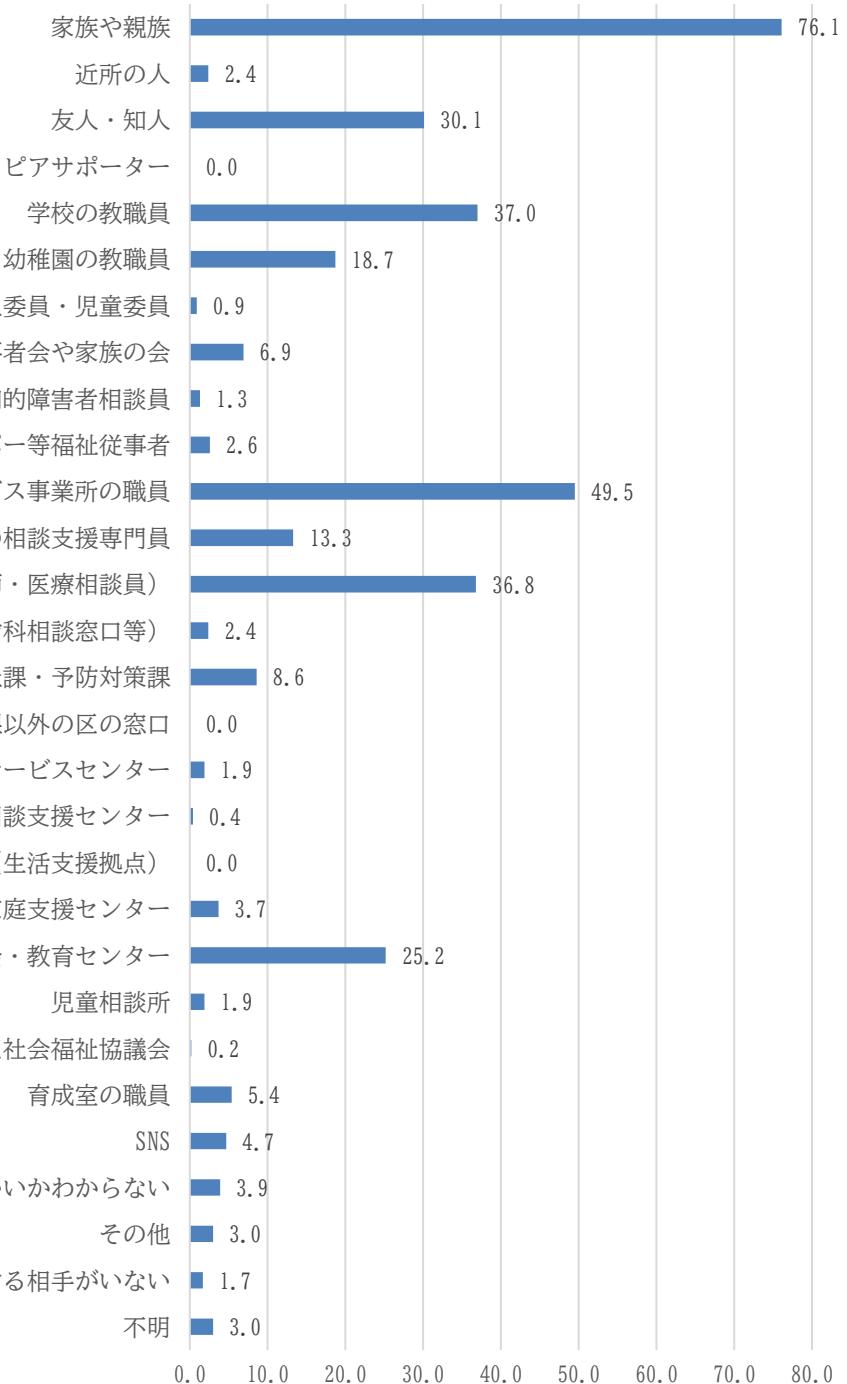
保護者の方の悩みや不安については、「子どもの就学や進路について不安がある」(64.7%) が最も多く、続いて「子どもの成長や発達について不安がある」(58.3%)、「子育てと仕事の両立が難しい」(48.2%) が多くなっています。

(4-3) 困った時の相談相手（問24）

《全体》

(%)

n=465



困ったときの相談相手については、「家族や親族」(76.1%) が最も多く、次いで「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」(49.5%)、「学校の教職員」(37.0%)、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」(36.8%) となっています。

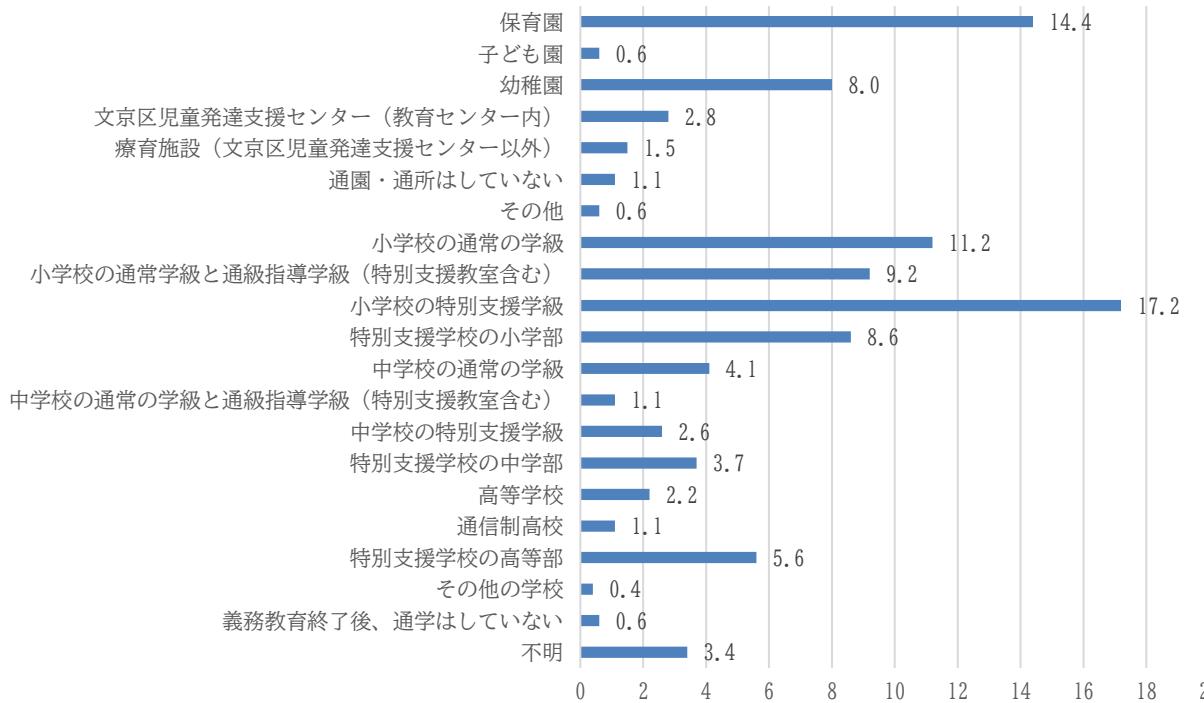
5 教育・保育について

(5-1) 主な通園・通学先（問30）

《全体》

(%)

n=465



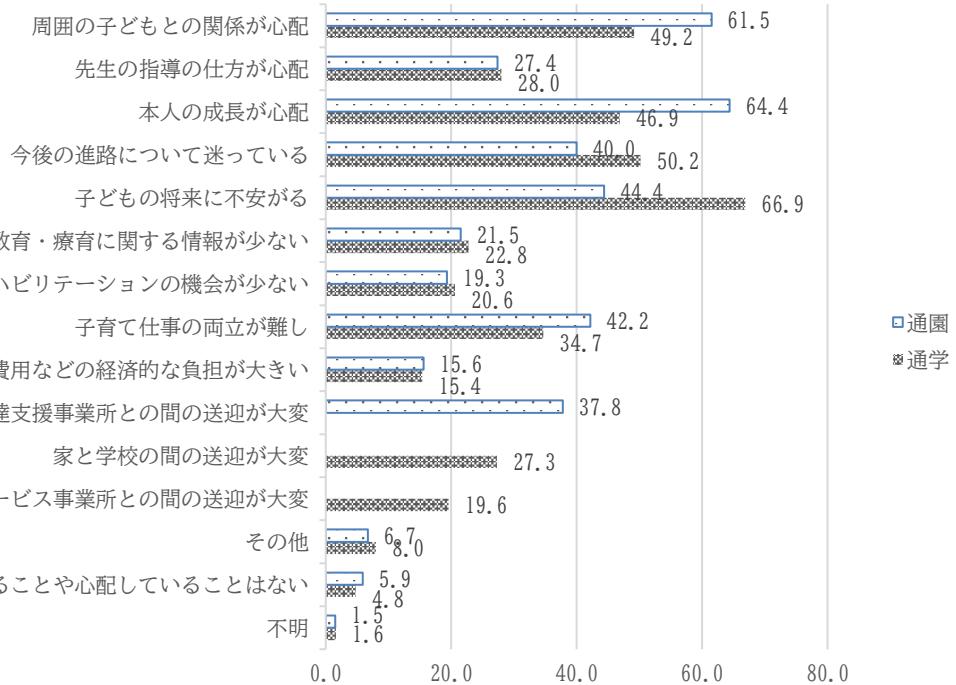
主な通園・通学先については、「小学校の特別支援学級」(17.2%)が最も多く、次いで「保育園」(14.4%)と続いています。

(5-2) 通園生活・通学生活に関する困りごと（問31・33）

《全体》

(%)

通園 n=135
通学 n=311



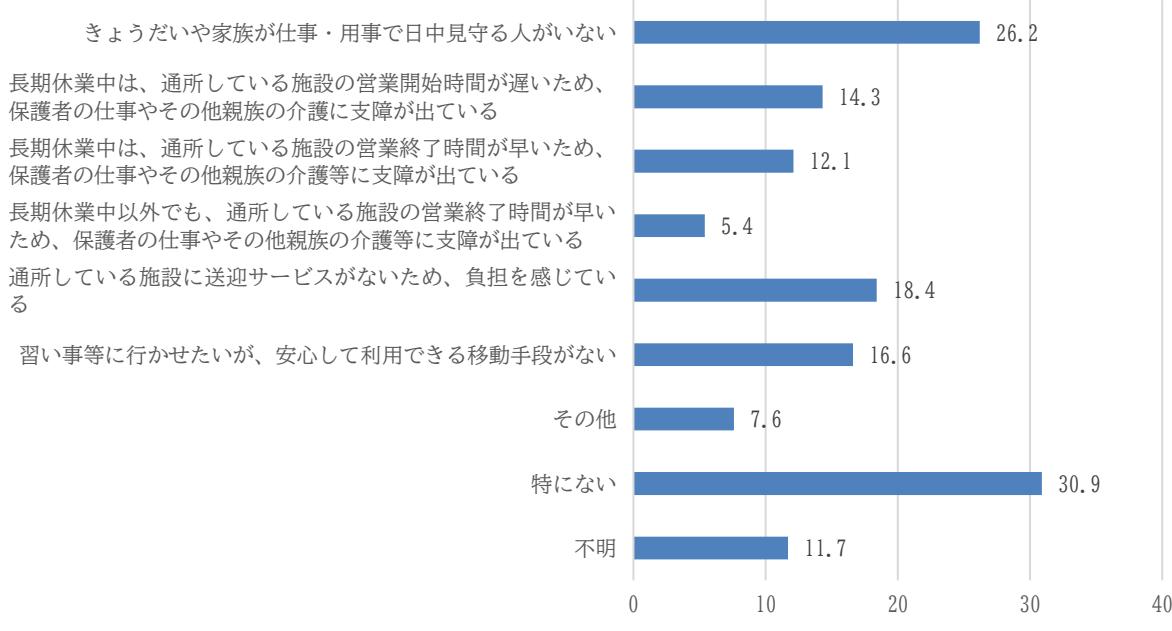
通園生活・通学生活に関する困りごとについては、「通園生活」では「本人の成長が心配」(64.4%)が最も多く続いて、「周囲の子どもとの関係が心配」(61.5%)となっています。一方、「通学生活」では、「子どもの将来に不安がある」(66.9%)、今後の進路について迷っている(50.2%)が、多くなっています。

(5-3) 放課後や長期休業中の困りごと（問36）

《全体》

(%)

n=465



放課後や長期休業中の困りごとについては、「きょうだいや家族が仕事・用事で日中見守る人がいない」(26.2%)が最も多く、次いで「通所している施設に送迎サービスがないため、負担を感じている」(18.4%)となっています。一方で「特にない」の回答も30.9%となっています。

《障害の種類別》 抜粋

(%)

	合計 (人)	きょうだいや家族が 仕事・用事で日中見 守る人がいない	長期休業中は、通所 している施設の営業 開始時間が遅いため、 保護者の仕事やその 他親族の介護等に支 障が出ている	長期休業中は、通所し ている施設の営業終了 時間が早くなるため、 保護者の仕事やその 他親族の介護等に支 障が出ている	長期休業中以外でも、 通所している施設の営 業終了時間が早いた め、保護者の仕事やそ の他親族の介護等に支 障が出ている
肢体不自由	37	14.7	26.5	17.6	14.7
音声・言語・そし やく機能障害	30	18.5	22.2	18.5	11.1
視覚障害	9	16.7	50.0	16.7	16.7
聴覚・平 衡 機能障害	14	0.0	15.4	7.7	7.7
内部障害	28	8.0	8.0	0.0	4.0
知的障害	167	26.7	29.1	24.8	9.1
発達障害	285	30.7	13.6	12.9	6.4
精神障害	17	47.1	17.6	17.6	5.9
高次脳機能 障害	1	0.0	100.0	100.0	0.0
難病 (特定疾 病)	31	13.3	26.7	23.3	10.0
その他	31	13.3	6.7	6.7	3.3

	合計 (人)	通所している施設に 送迎サービスがない ため、負担を感じて いる	習い事等に行かせた いが、安心して利用 できる移動手段がな い	特にない
肢体不自由	37	20.6	20.6	23.5
音声・言語・そし ゃく機能障害	30	25.9	18.5	25.9
視覚障害	9	33.3	16.7	16.7
聴覚・平 衡 機能障害	14	0.0	7.7	46.2
内部障害	28	16.0	24.0	36.0
知的障害	167	18.2	17.6	21.2
発達障害	285	21.1	17.1	28.9
精神障害	17	29.4	23.5	29.4
高次脳機 能 障害	1	0.0	0.0	0.0
難病 (特定疾 病)	31	16.7	10.0	26.7
その他	31	13.3	20.0	40.0

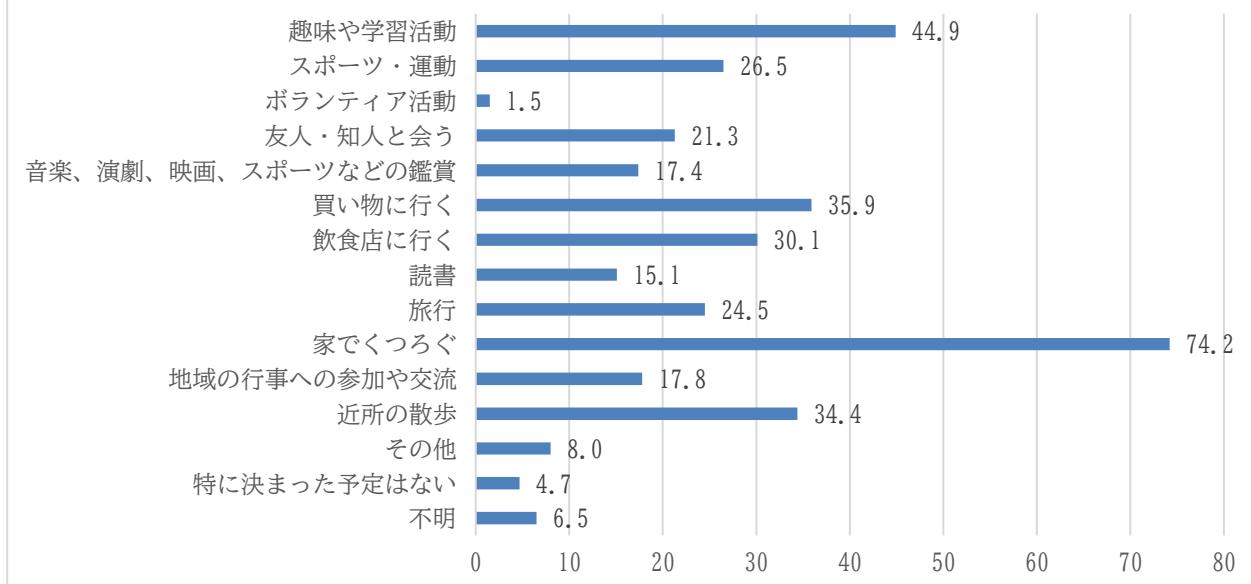
障害別の放課後や長期休業中の困りごとについては、複数の障害で「長期休業中は、通所している施設の営業開始時間が遅いため、保護者の仕事やその他親族の介護等に支障が出ている」との回答が多くなっています。また、「発達障害」、「精神障害」では、「きょうだいや家族が仕事・用事で日中見守る人がいない」が最も多くなっています。

(4-4) 余暇の過ごし方（問39）

《全体》

(%)

n=465



余暇の過ごし方については、「家でくつろぐ」(74.2%) が最も多く、次いで「趣味や学習活動」(44.9%) となっています。

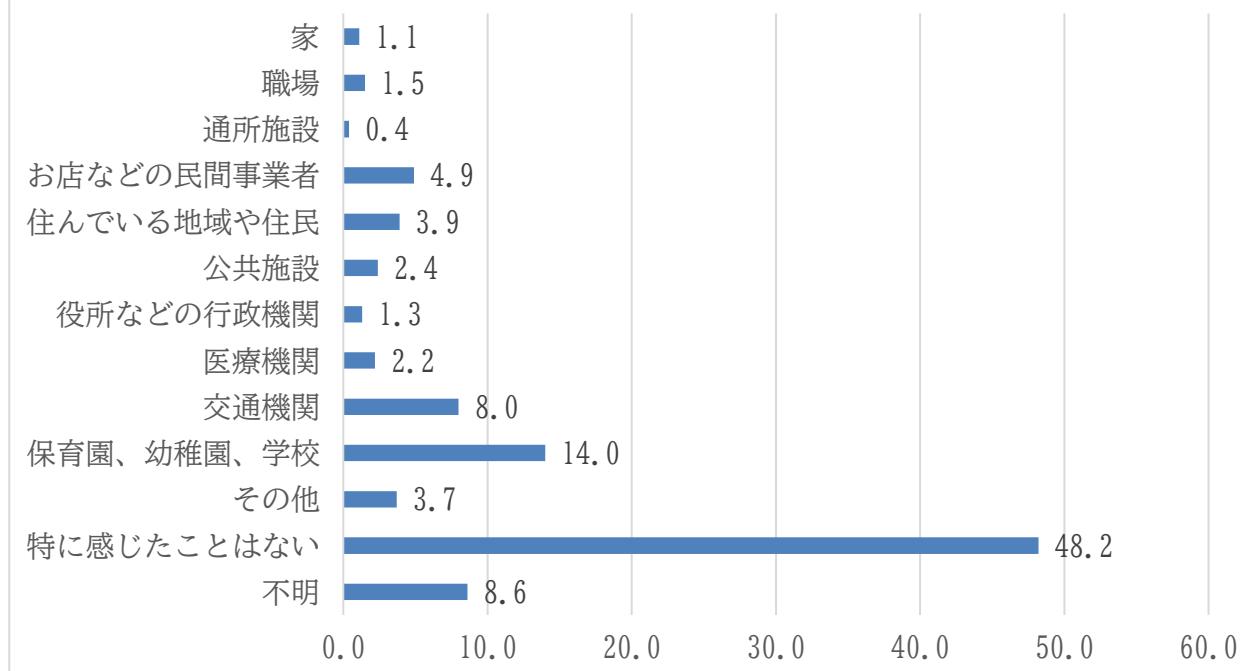
6 権利擁護・差別解消について

(6-1) 地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面（問44）

《全体》

(%)

n=465



地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面については、「特に感じたことはない」が48.2%と半数近くを占めています。次いで、「保育園、幼稚園、学校」(14.0%)、「お店などの民間事業者」(4.9%)と続いています。

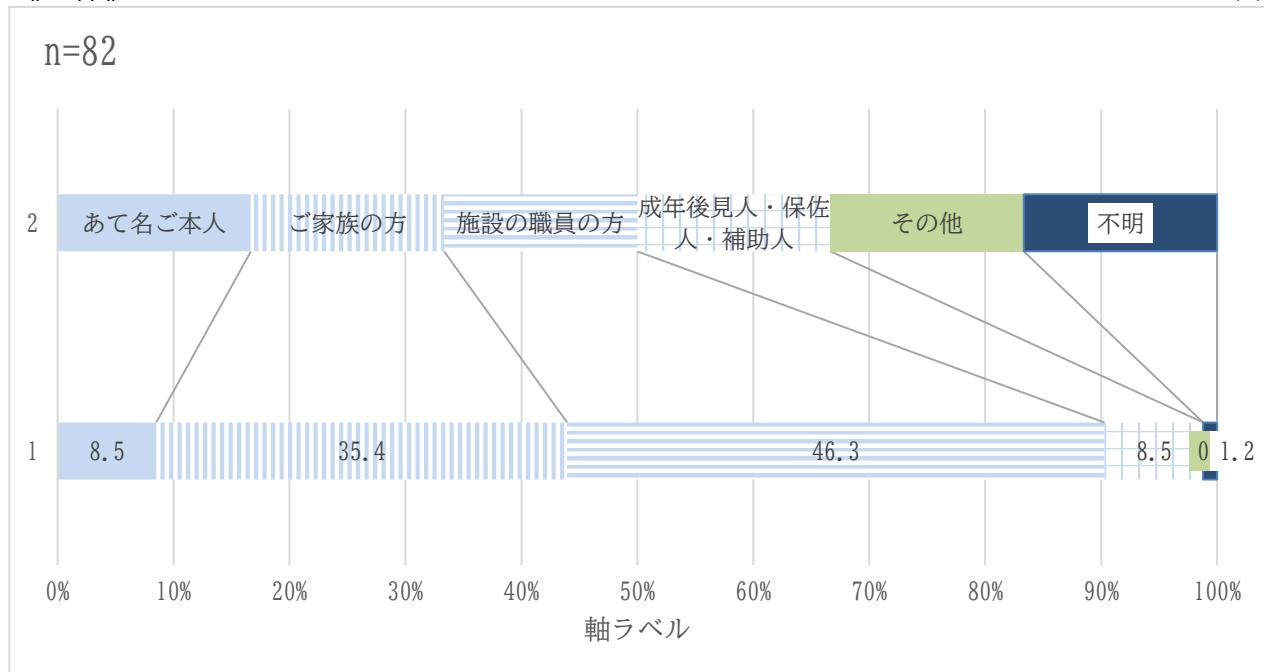
5 施設に入所している方を対象にした調査

1 対象者特性

(1-1) 回答者（問1）

《全体》

(%)

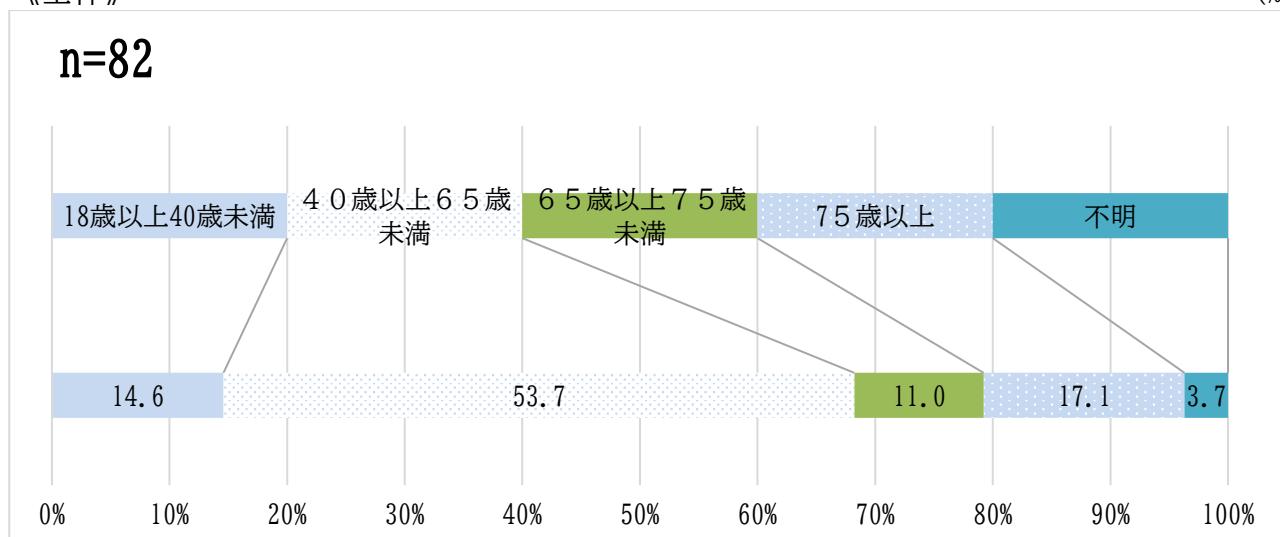


回答者については、「施設の職員」が46.3%、「ご家族の方」が35.4%、「あて名ご本人」、「成年後見人・保佐人・補助人」が8.5%となっています。

(1-2) 年齢（問2）

《全体》

(%)



年齢については、「40～65歳」53.7%と最も多く、次いで「75歳」以上が17.1%となっています。

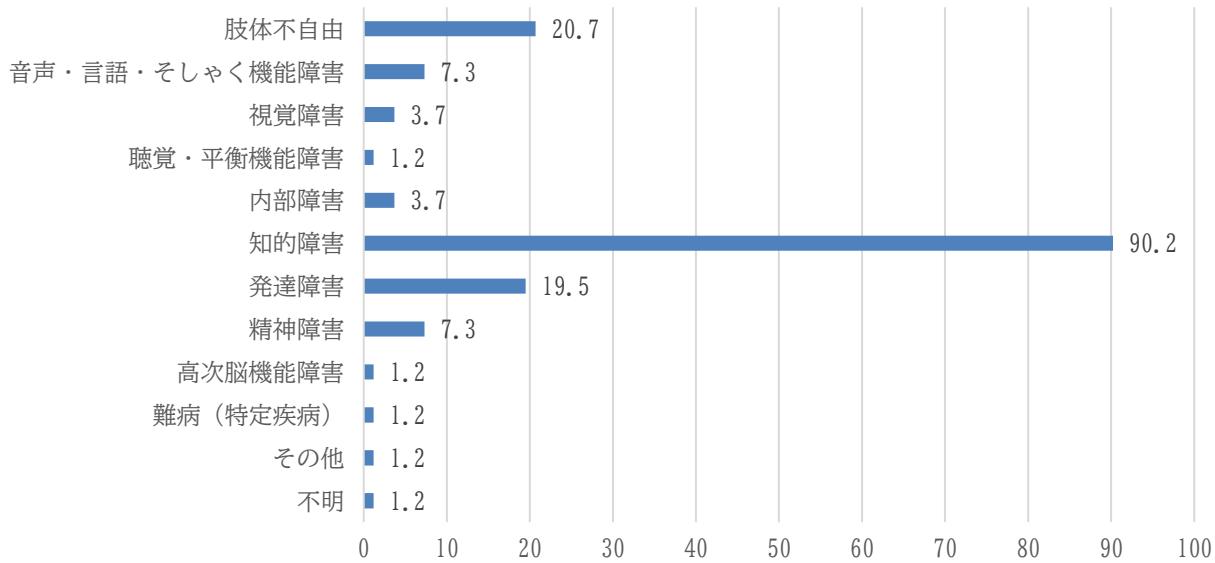
2 障害の状況について

(2-1) 障害の種類（問5）

《全体》

(%)

n=82



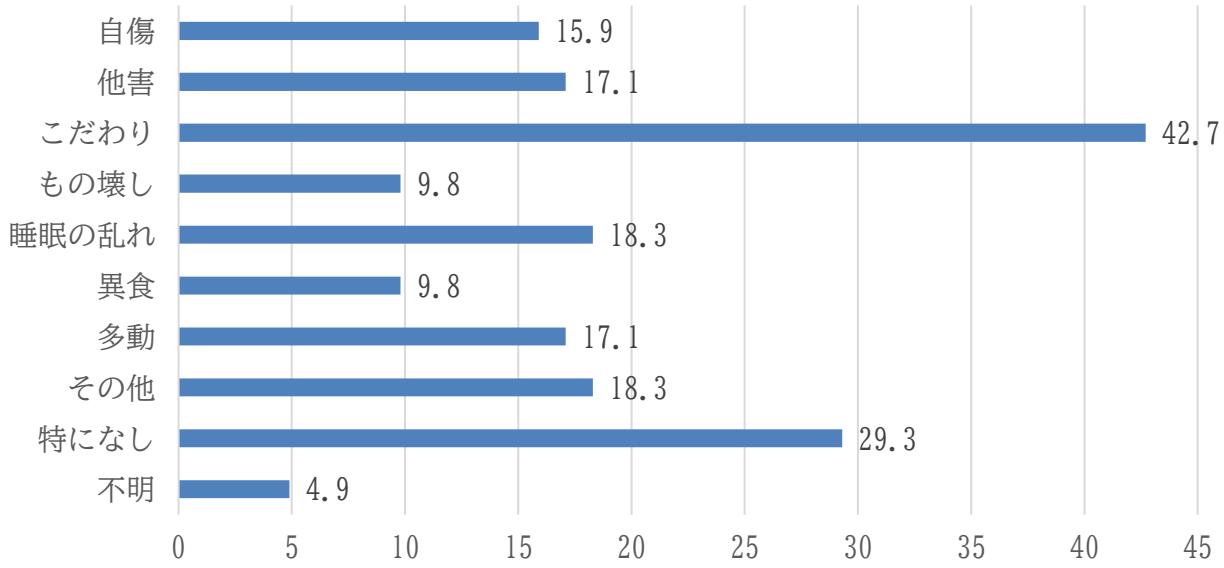
障害の種類については、「知的障害」が90.2%と9割を超えて最も多く、次いで「肢体不自由」が20.7%、「発達障害」が19.5%となっています。

(2-2) 日常生活で必要な特別な配慮（問8）

《全体》

(%)

n=82

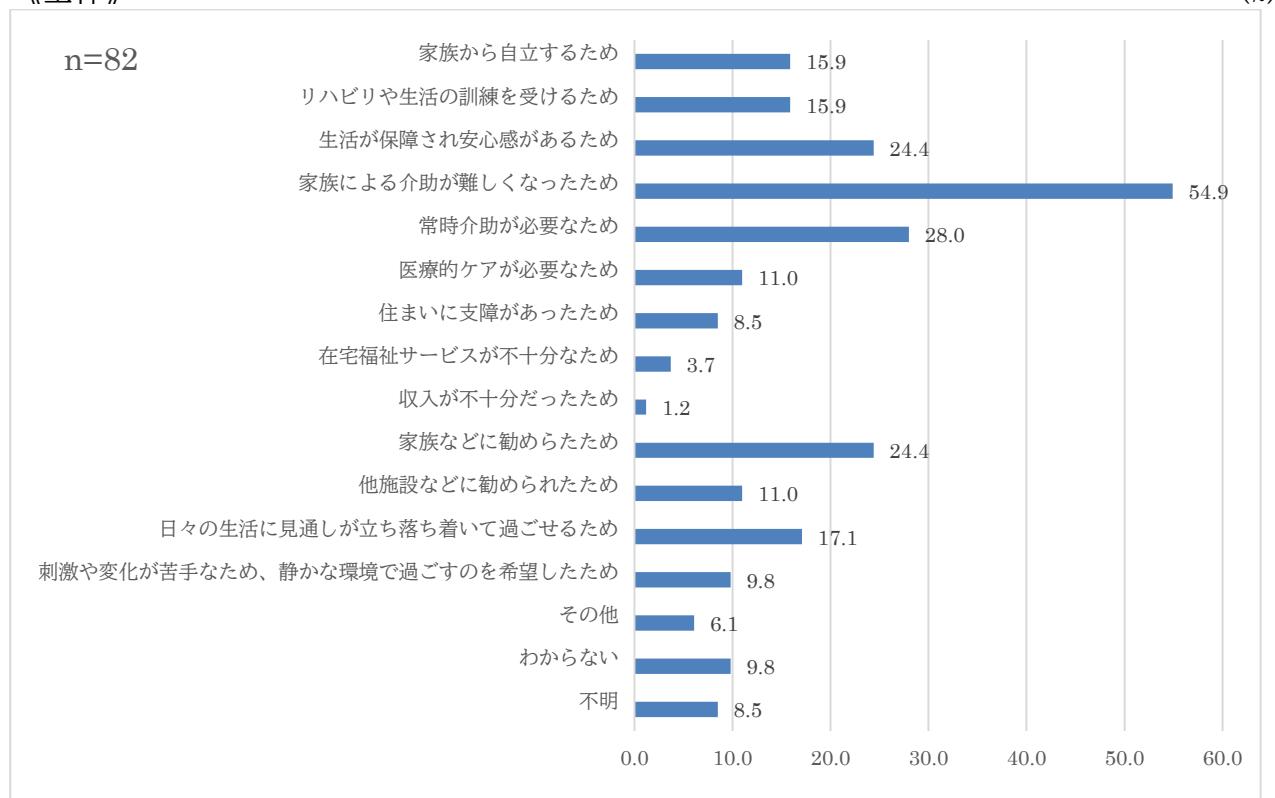


日常生活で必要な特別な配慮については、「こだわり」(42.7%) が最も多く、次いで「睡眠の乱れ」(18.3%)、「他害」(17.1%)、「多動」(17.1%) と続いています。一方で、「特になし」の回答も29.3%ありました。

3 施設入所について

(3-1) 入所した理由（問11）

《全体》



施設に入所した理由については、「家族による介助が難しくなったため」(54.9%) が最も多く、次いで「常時介助が必要なため」(28.0%)、「生活が保障され安心感があるため」(24.4%)、「家族などに勧められたため」(24.4%)と続いています。

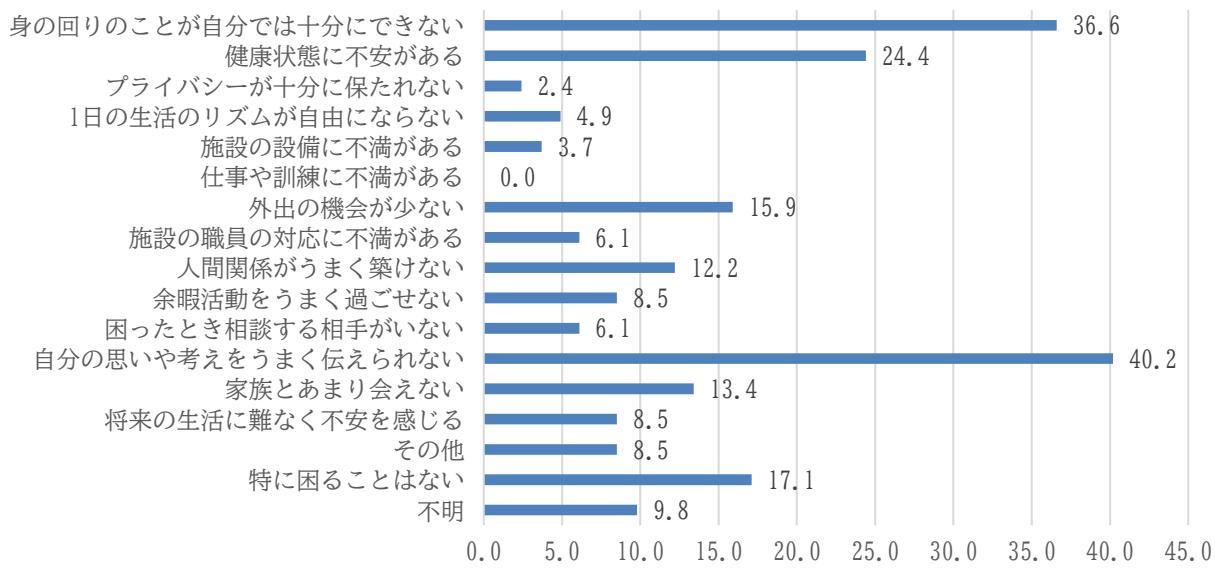
4 施設での生活について

(4-1) 困っていることや不安なこと（問14）

《全体》

(%)

n=82



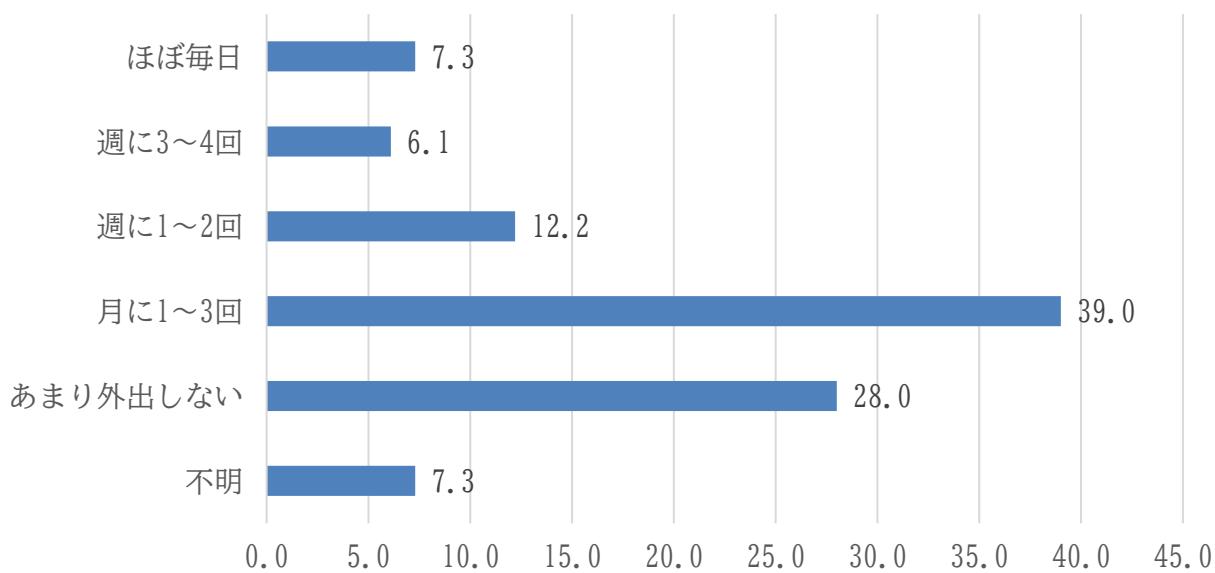
困っていることや不安なことについては、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」(40.2%) が最も多く、次いで「身の回りのことが十分にできない」(36.6%)、「健康状態に不安がある」(24.4%) となっています。

(4-2) 外出の頻度（日中活動先での外出も含む）（問18）

《全体》

(%)

n=82



外出の頻度については、「月に1~3回」(39.0%) が最も多く、次いで「あまり外出しない」(28.0%)と多くなっています。

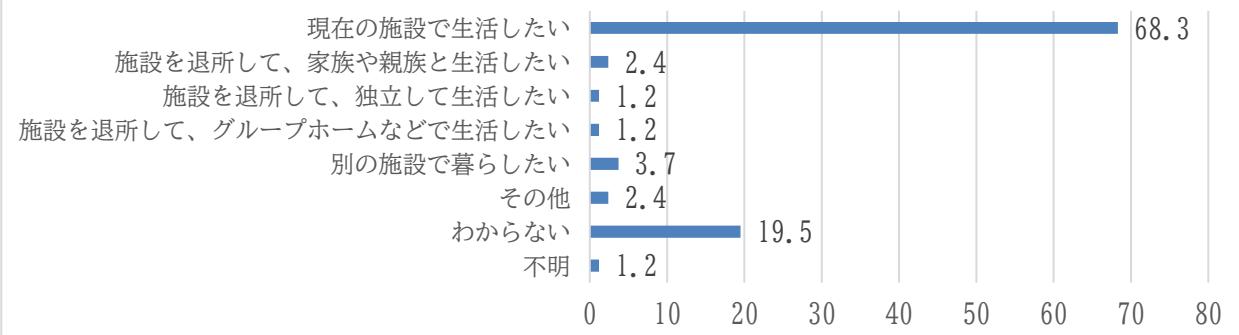
5 今後の暮らし方について

(5-1) 今後希望する生活（問20）

《全体》

(%)

n=82



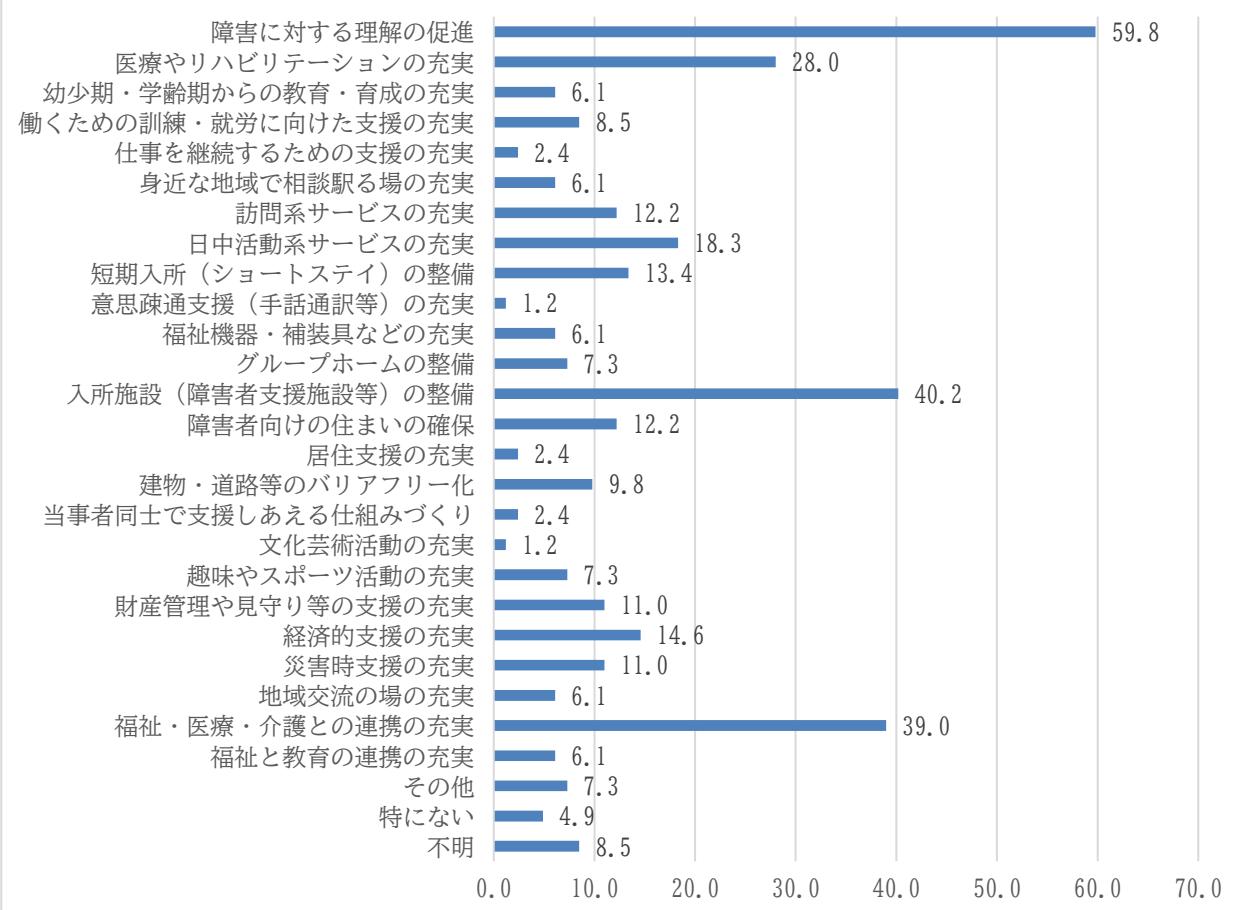
今後希望する生活については、「現在の施設で生活したい」(68.3%)が最も多くなっている一方、「わからない」(19.5%)が2割近くとなっています。

(5-2) 地域で安心して暮らしていくために必要な施策（問21）

《全体》

(%)

n=82



地域で安心して暮らすために必要な施策については、「障害に対する理解の促進」(59.8%)が最も高く、次いで「入所施設(障害者支援施設等)の整備」(40.2%)、「福祉・医療・介護との連携の充実」(39.0%)と続いています。

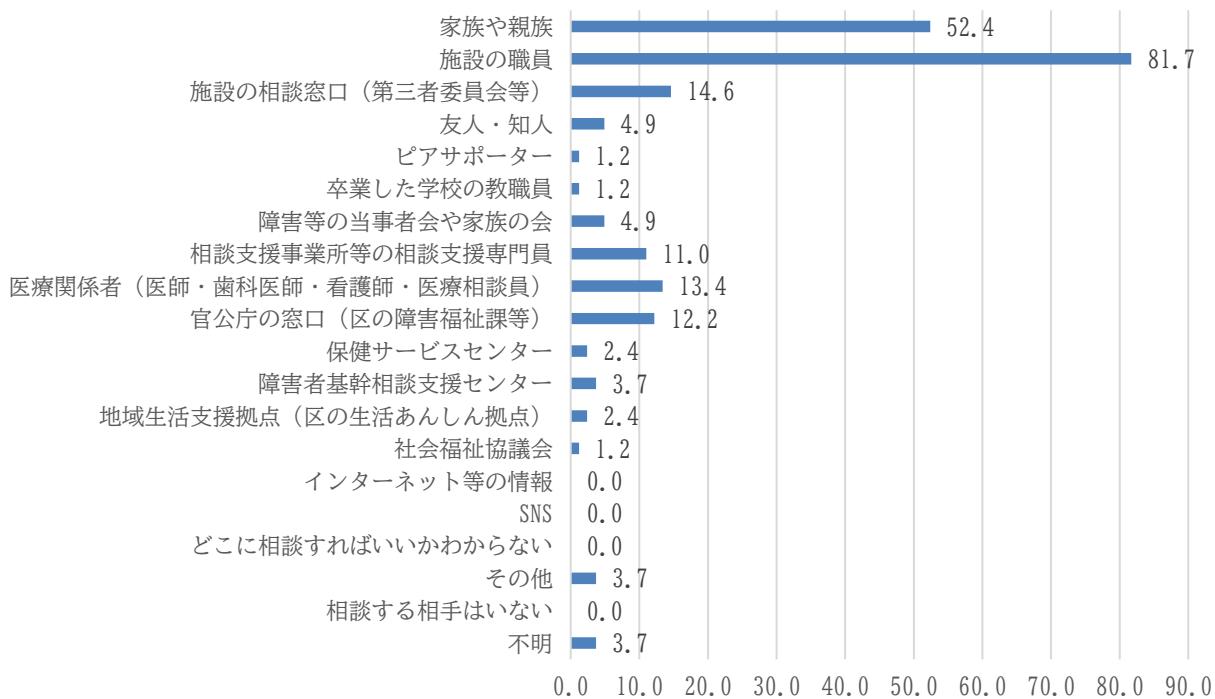
6 相談や福祉の情報について

(6-1) 困った時の相談相手（問 22）

《全体》

(%)

n=82



困ったときの相談相手については、「施設の職員」(81.7%) が最も多く、次いで「家族や親族」(52.4%) となっています。

また、「どこに相談すればいいかわからない」や「相談する相手はいない」の回答はありませんでした。

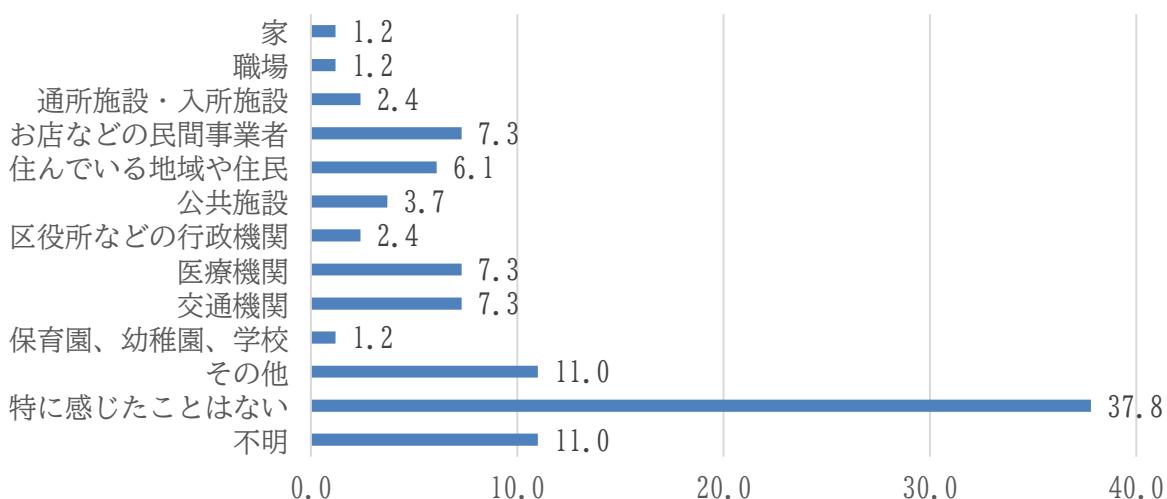
7 権利擁護・差別解消について

(7-1) 地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面（問 26）

《全体》

(%)

n=82



地域で障害者差別や合理的配慮の不提供を感じる場面については、「特に感じたことはない」が 37.8% と最も多くなっています。次いで「お店などの民間事業者」、「医療機関」、「交通機関」が(7.3%)で並んでいます。

6 サービス事業所を対象にした調査

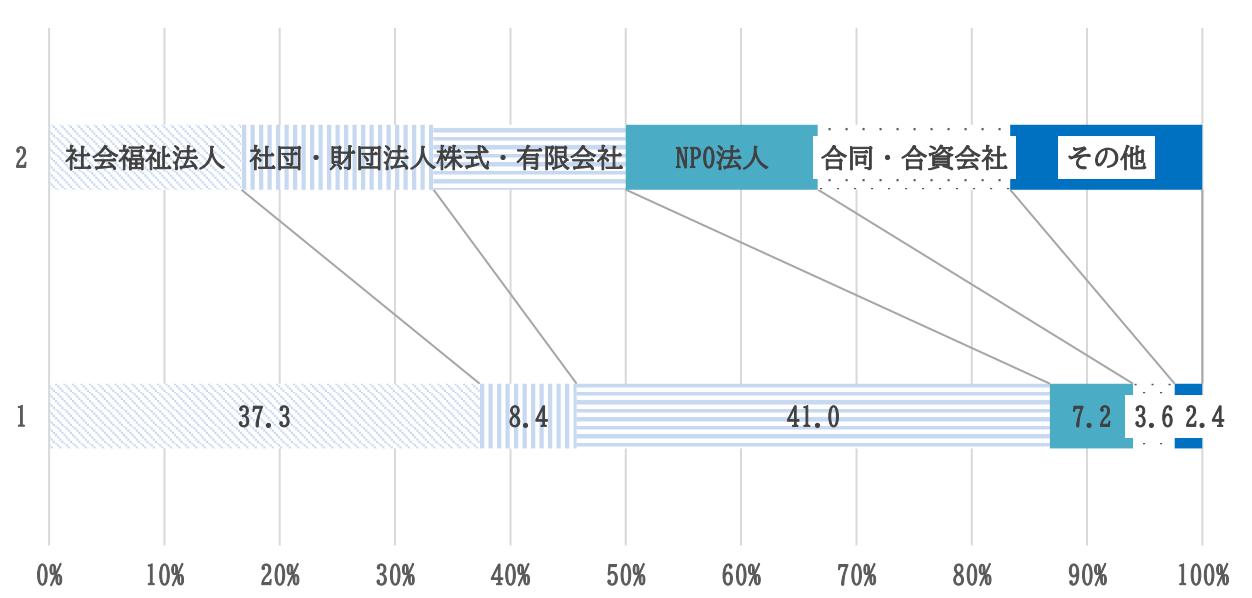
1 事業運営について

(1-1) 経営主体（問1）

《全体》

(%)

n=83



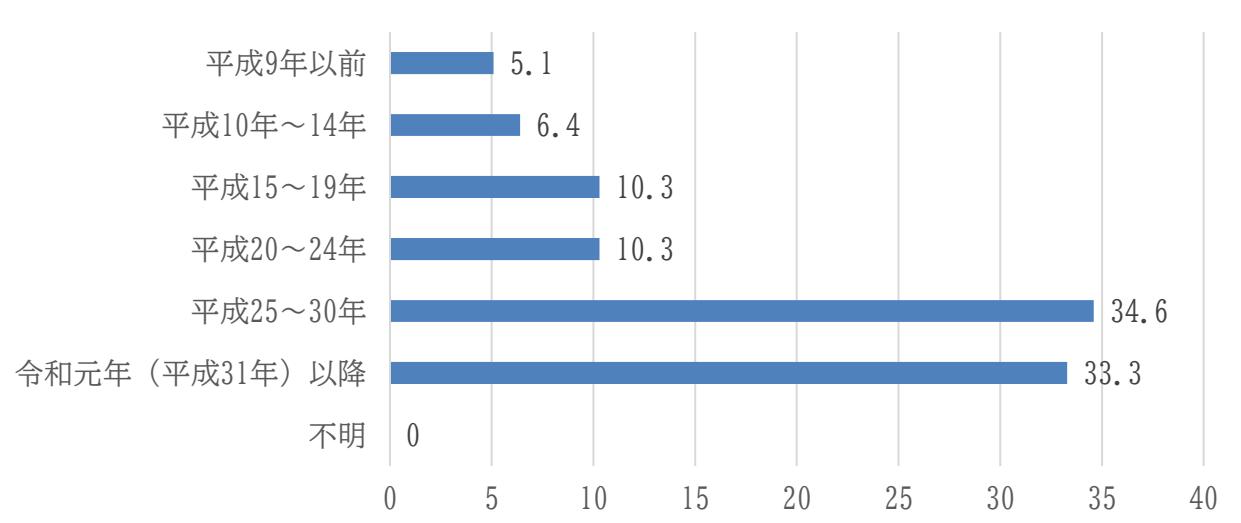
経営主体については、「株式・有限会社」(41.0%)が最も多く、次いで「社会福祉法人」(37.3%)となっており、全体の8割近くを占めています。

(1-2) 事業所の開業年（問3）

《全体》

(%)

n=78



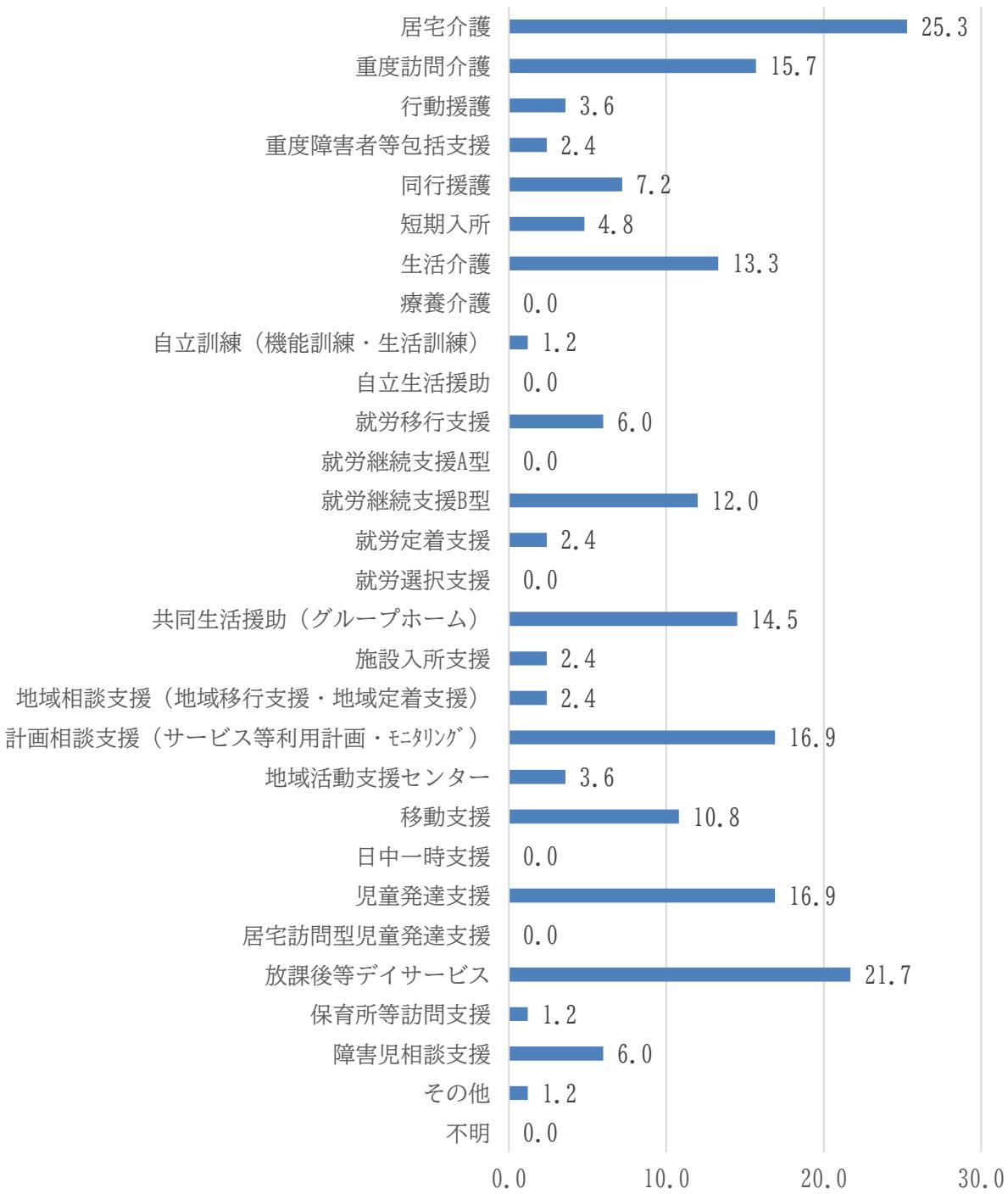
事業所の開業年については、「平成 25～30 年」(34.6%)が最も多く、「令和元年(平成 31 年)以降(33.3%)、「平成 20～24 年」(10.3%)、「平成 15～19 年」(10.3%) と続いています。

(1-3) 提供しているサービス（問4）

《全体》

(%)

n=83



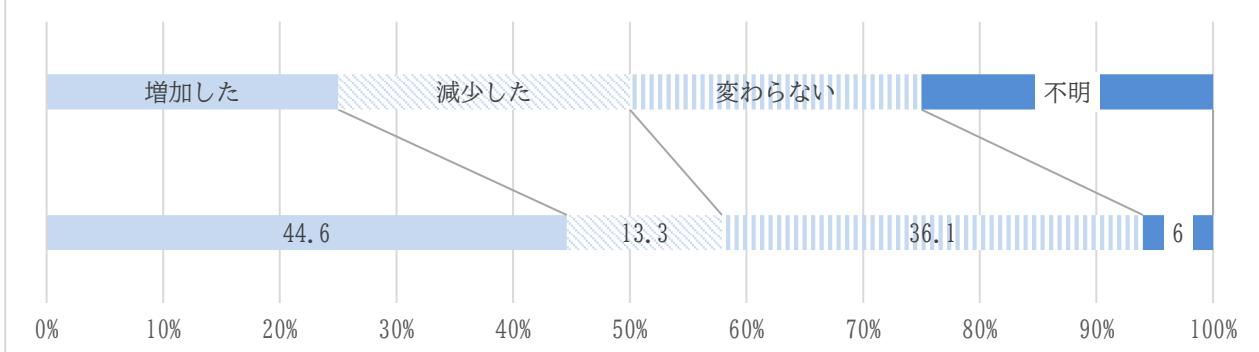
提供しているサービスについては、「居宅介護」が25.3%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」(21.7%)、「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）」(16.9%)、「児童発達支援」(16.9%)と続いています。

(1-4) 令和6年度の事業所の収入（問7）

《全体》

(%)

n=83



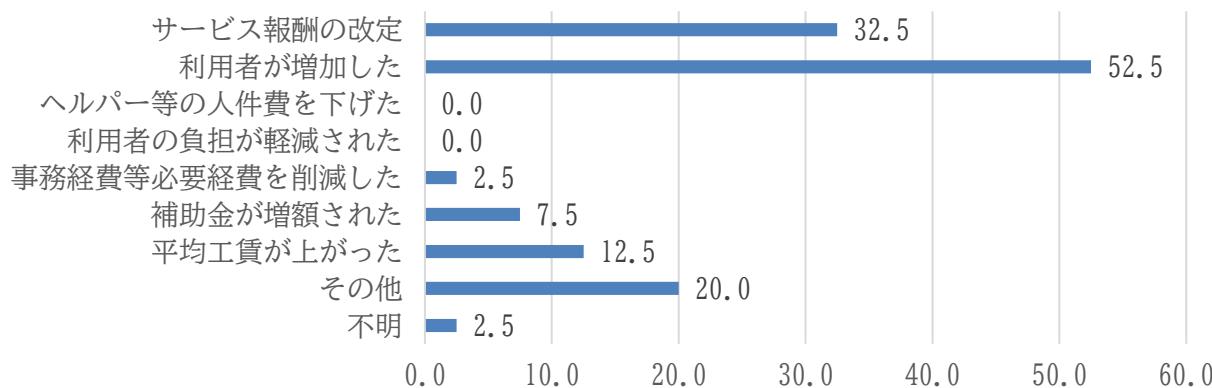
収入では「増加した」が44.6%、「減少した」が13.3%、「変わらない」が36.1%となっています。

(1-5) 増収または減収の理由（問7-1）

《増収の理由》

(%)

n=40

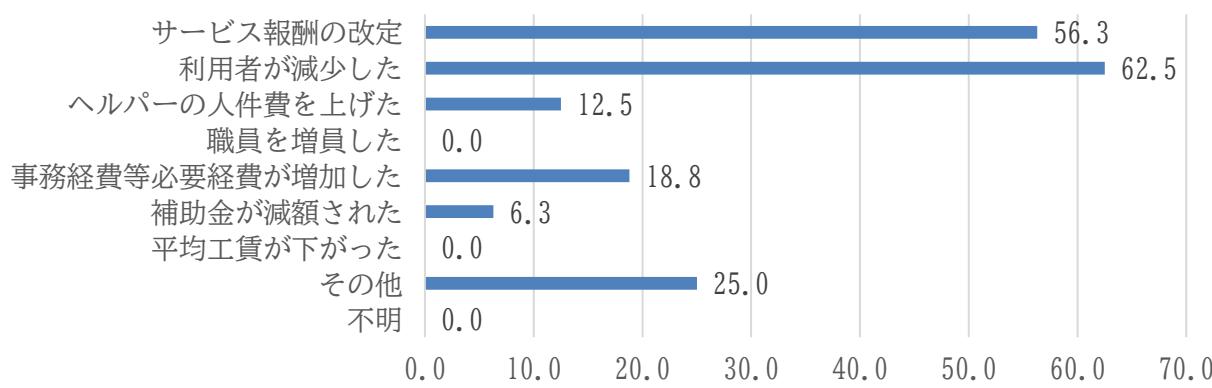


増収の理由については、「利用者が増加した」(52.5%)が最も多くなっています。

《減収の理由》

(%)

n=16



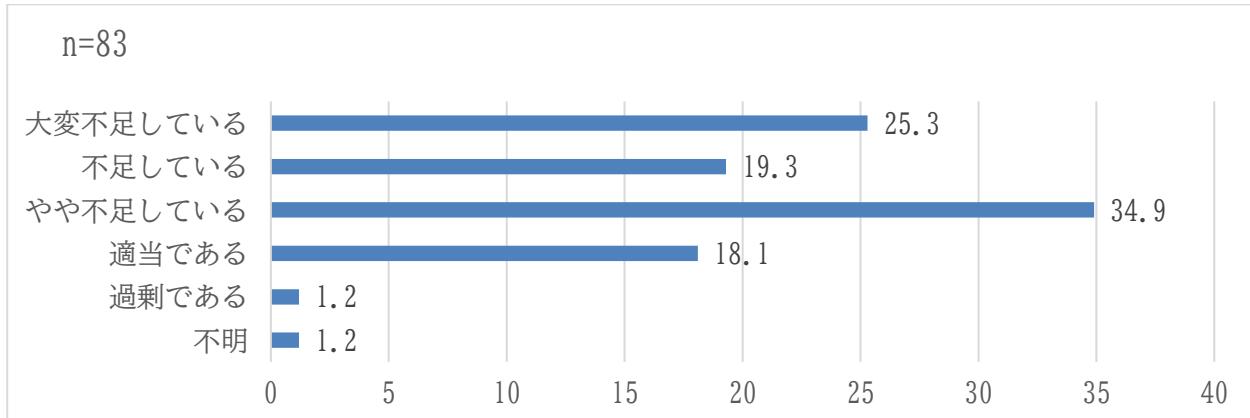
減収の理由については、「利用者が減少した」(62.5%)が最も多く、次いで「サービス報酬の改定」(56.3%)となっています。

2 職員について

(2-1) 職員の充足状況（問12）

«全体»

(%)

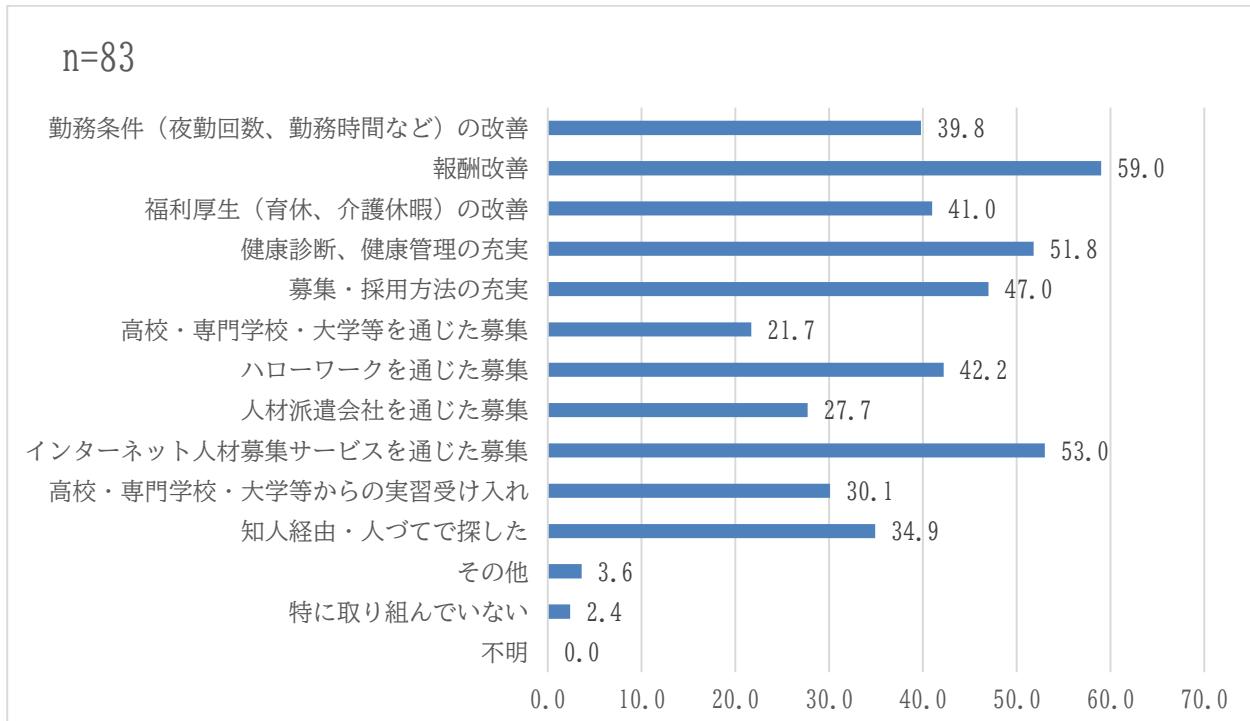


職員の充足状況については、「やや不足している」が34.9%と最も多く、次いで「大変不足している」(25.3%)、「不足している」(19.3%)となっています。

(2-2) 人材確保のための取り組み（問14）

«全体»

(%)



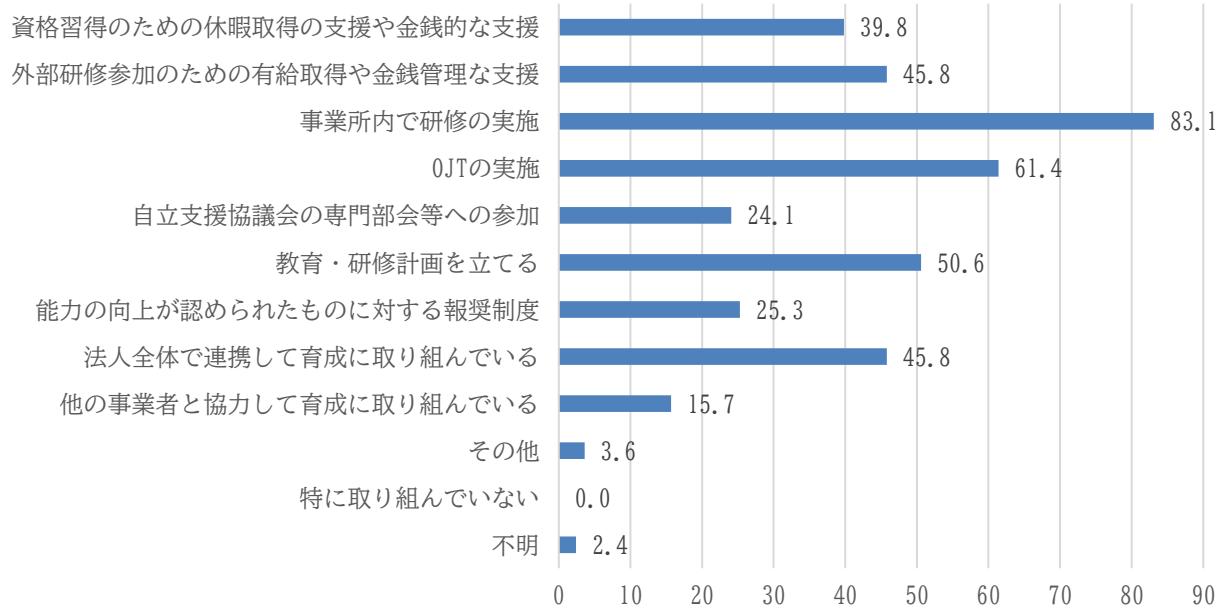
人材確保のための取り組みについては、「報酬改善」、「インターネット人材募集サービスを通じた募集」と「健康診断、健康管理の充実」がいずれも5割を超える回答になっています。

(2-2) 人材育成のための取り組み（問14）

≪全体≫

(%)

n=83



人材育成のための取り組みについては、「事業所内での研修の実施」が83.1%と8割を超え最も多く、次いで「OJTの実施」(61.4%)と「教育・研修計画を立てる」(50.6%)が5割を超えています。

3 サービス提供について

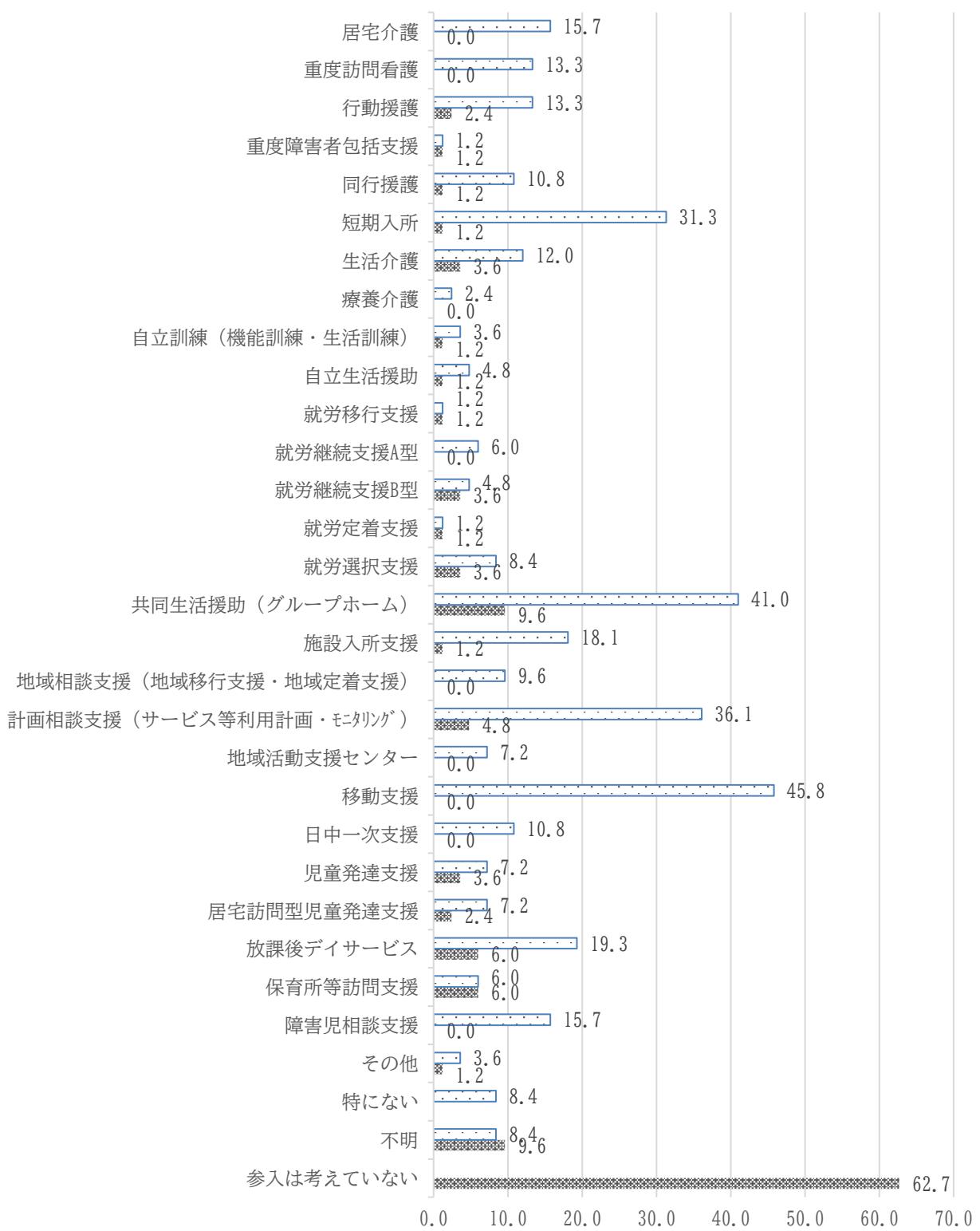
(3-1) 区に不足しているサービス、今後参入を検討しているサービス（問21、22）

《全体》

(%)

n=83

■区に不足している障害福祉サービス等 ■今後、参入を考えているサービス



「区に不足しているサービス」については、「移動支援」(45.8%)が最も多く、次いで「共同生活援助(グループホーム)」(41.0%)、「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）」(36.1%)と続いています。

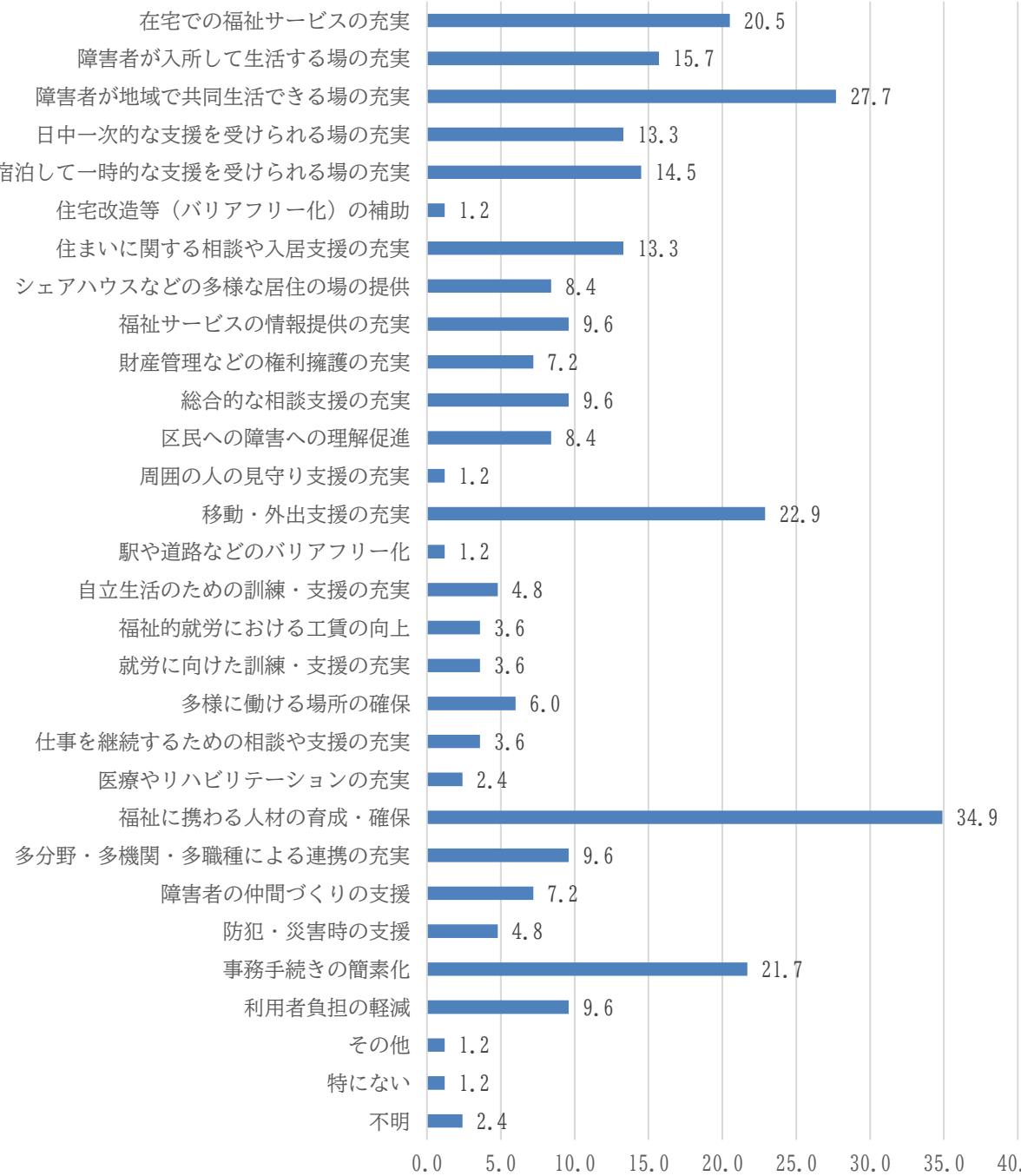
また、「今後参入を検討しているサービス」については、「参入は考えていない」が62.7%と最も高く、次いで、「共同生活援助(グループホーム)」(9.6%)、「放課後等デイサービス」(6.0%)、「保育所等訪問支援」(6.0%) となっています。

(3-2) 障害福祉施策の充実に必要なこと（問27）

《全体》

(%)

n=83



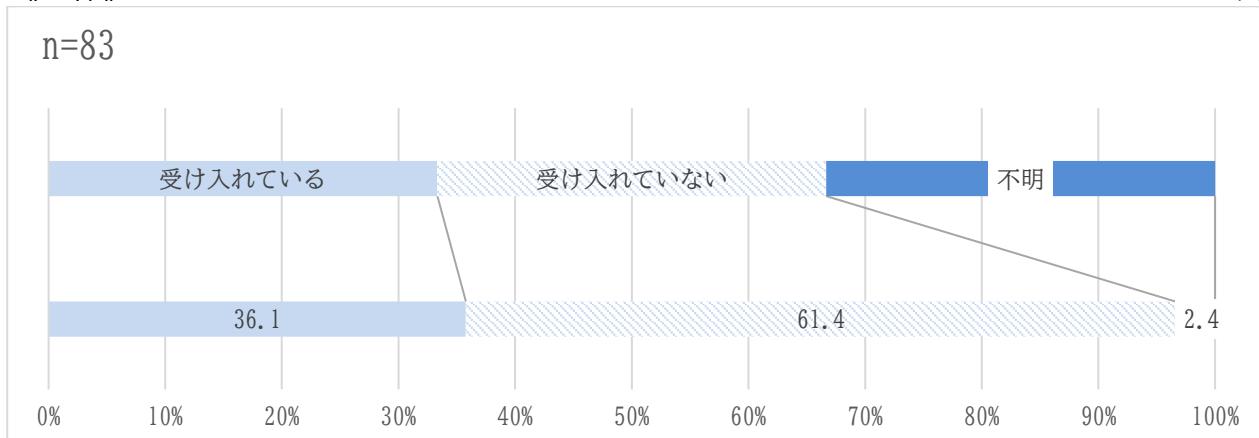
障害福祉施策の充実に必要なことについては、「福祉に携わる人材の育成・確保」が34.9%と最も多く、次いで「障害者が地域で共同生活できる場の充実」(27.7%)、「移動・外出支援の充実」(22.9%)となっています。

4 強度行動障害のある方について

(4-1) 強度行動障害のある方の受け入れの有無 (問 28)

《全体》

(%)

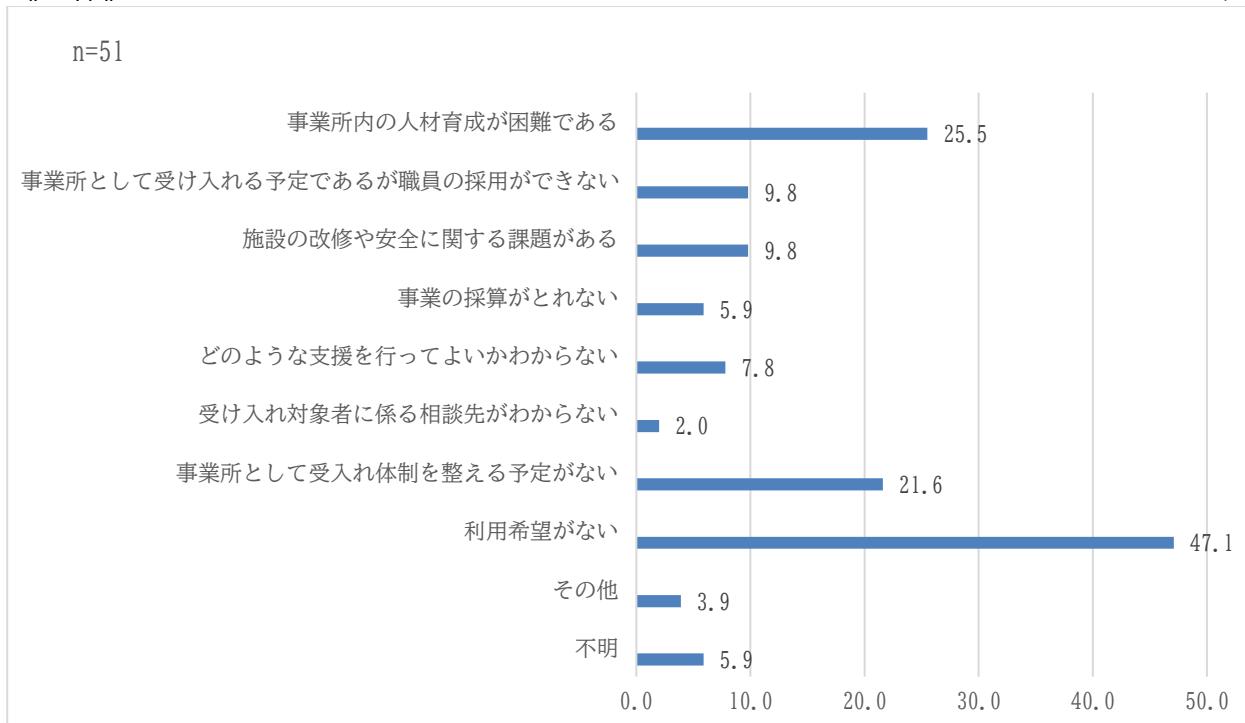


強度行動障害のある方の受け入れの有無については、「受け入れている」(36.1%)、「受け入れていない」(61.4%) となっています。

(4-2) 強度行動障害のある方の受け入れがない理由 (問 28-1)

《全体》

(%)



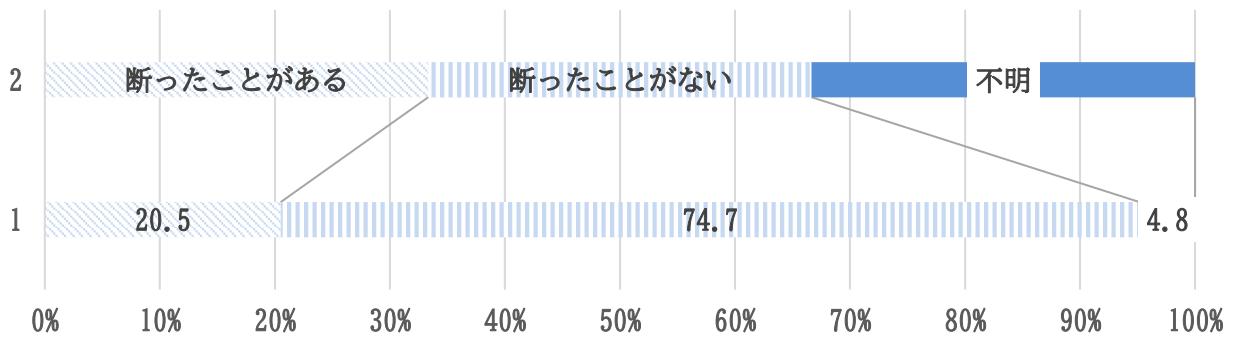
強度行動障害のある方の受け入れがない理由については、「利用希望がない」(47.1%) が最も多く、次いで「事業所内の人材育成が困難である」(25.5%) 「事業所として受け入れ体制を整える予定がない」(21.6%) と続いています。

(4-3) 強度行動障害のある方の利用を断ったことの有無 (問 29)

《全体》

(%)

n=83



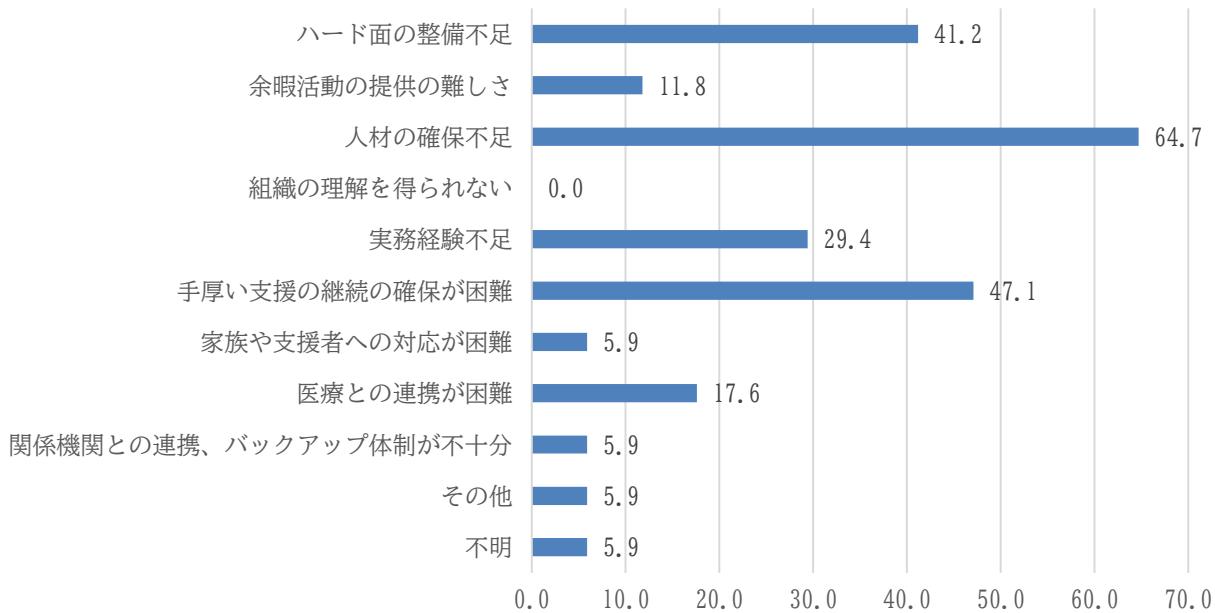
強度行動障害のある方の利用を断ったことの有無については、「断ったことがある」(20.5%)、「断ったことがない」(74.7%) になっております。

(4-4) 強度行動障害のある方の利用を断った理由 (問 29-1)

《全体》

(%)

n=17



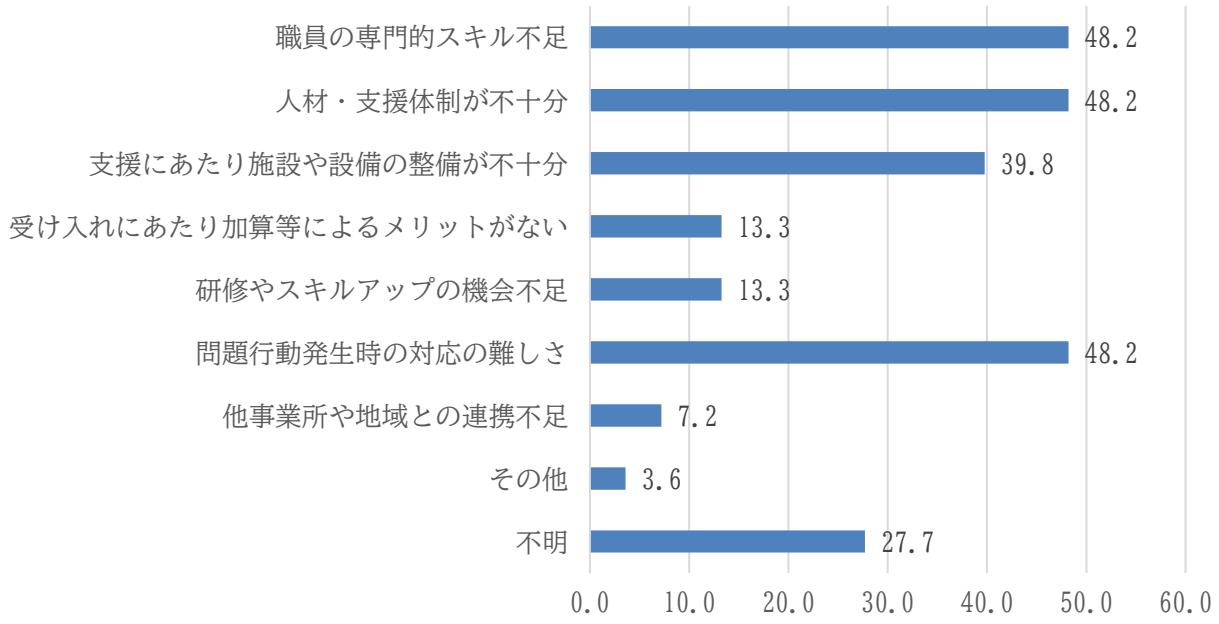
強度行動障害のある方の利用を断った理由については、「人材の確保不足」(64.7%) が最も多く、次いで「手厚い支援の継続の確保が困難」(47.1%)、「ハード面の整備不足」(41.2%) となっています。

(4-5) 強度行動障害のある方への支援に関する課題 (問30)

《全体》

(%)

n=83



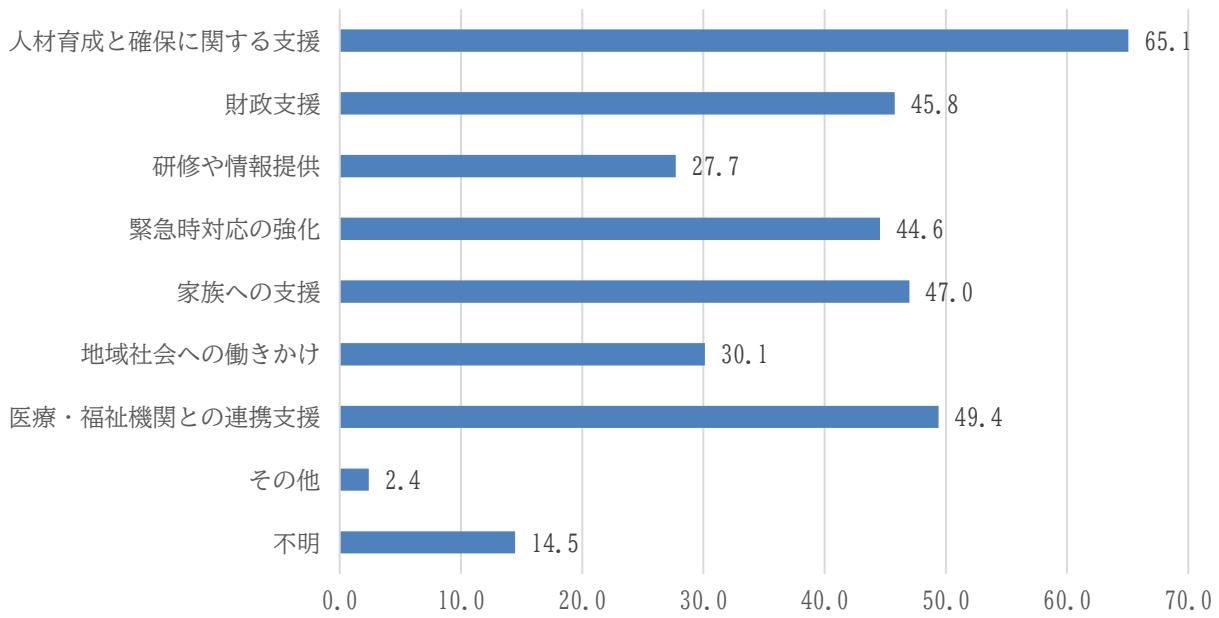
強度行動障害のある方への支援に関する課題については、「職員の専門的スキル不足」、「人材・支援体制が不十分」、「問題行動発生時の対応の難しさ」の3つが最も多く、それぞれ5割近くの回答となっています。

(4-6) 強度行動障害のある方の支援において行政や地域社会に期待する役割 (問31)

《全体》

(%)

n=83



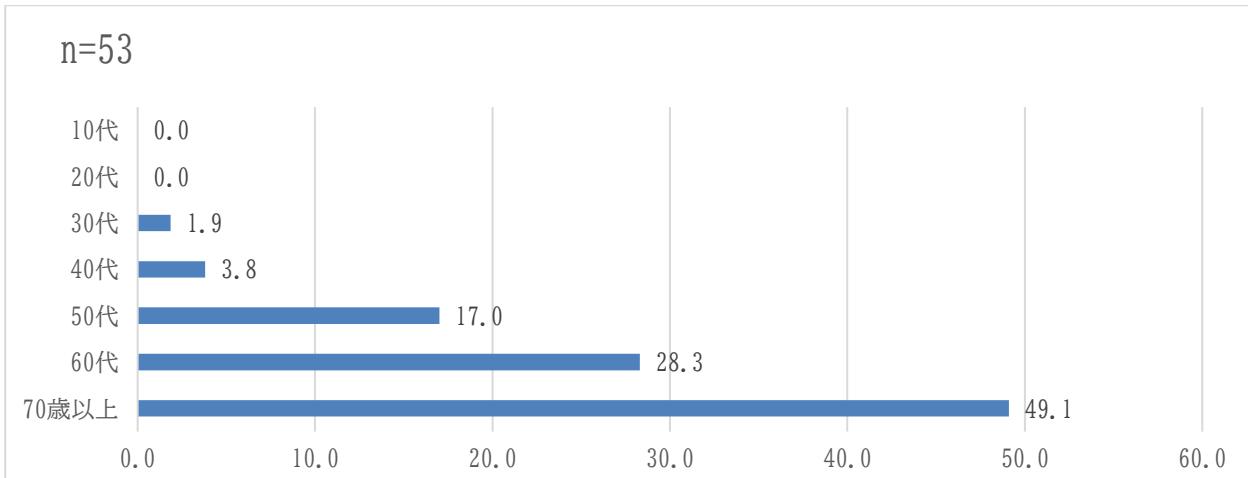
強度行動障害のある方の支援において行政や地域社会に期待する役割については、「人材育成と確保に関する支援」(65.1%) が最も多く6割を超える回答となっており、次いで「医療・福祉機関との連携」(49.4%)、「家族への支援」(47.0%) が続いており、それぞれ5割近くの回答となっています。

7 長期入院施設を対象とした調査

(1) 年代（問2）

《全体》

(%)

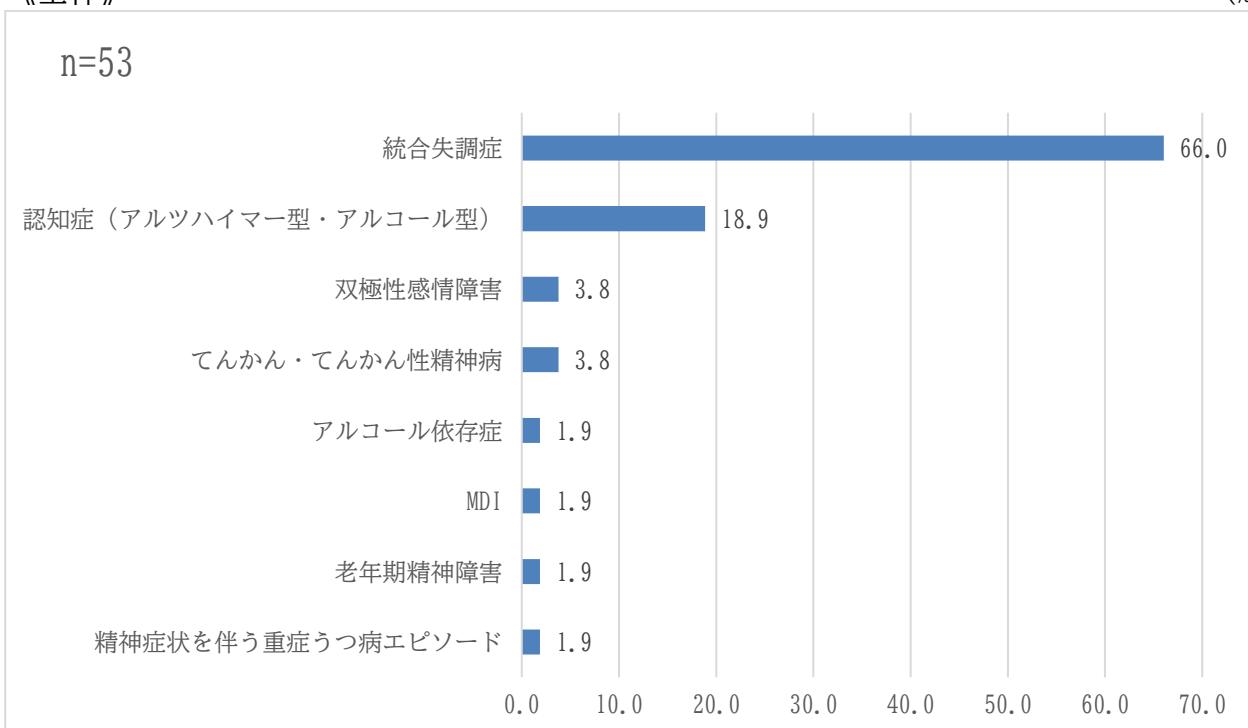


年代については、「70歳以上」(49.1%)が全体の5割近くを占めており、次いで「60代」が28.3%、「50代」が17.0%となっています。

(2) 病名（問3）

《全体》

(%)



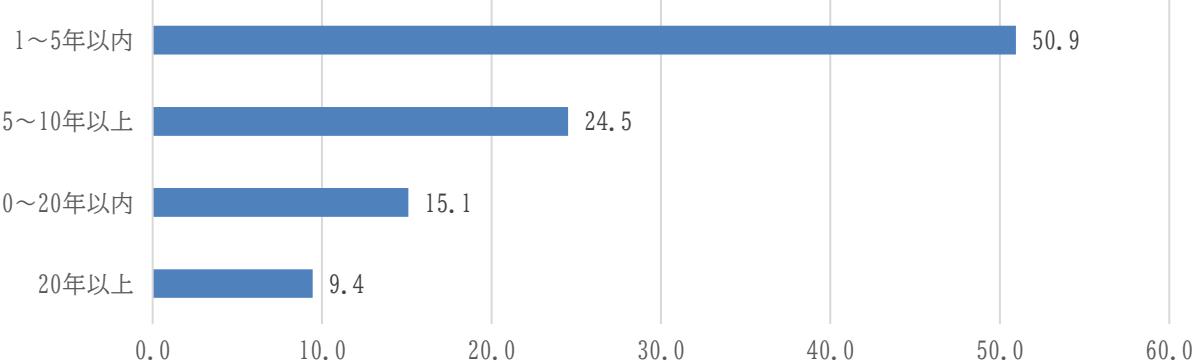
病名については、「統合失調症」(66.0%)が最も多くなっており、全体の6割以上を占めています。

(3) 在院期間（問6）

《全体》

(%)

n=53



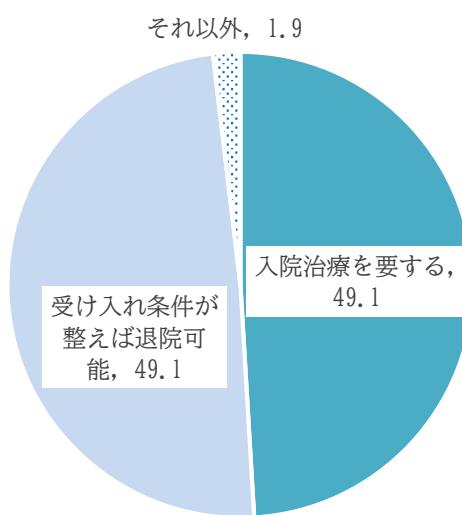
在院期間については、「1～5年以内」が50.9%と全体の5割を占めています。
また、「20年以上」については、全体の9.4%となっています。

(4) 入院状況（問7）

《全体》

(%)

n=53



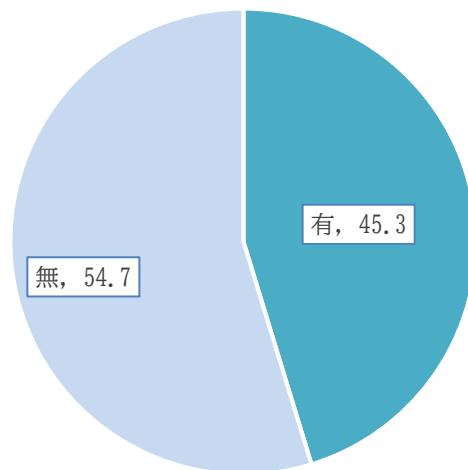
入院状況については、「入院治療を要する」が49.1%、「受け入れ条件が整えば退院可能」が49.1%となっています。

(5) 病院から見た退院の見通し（問8）

《全体》

(%)

n=53



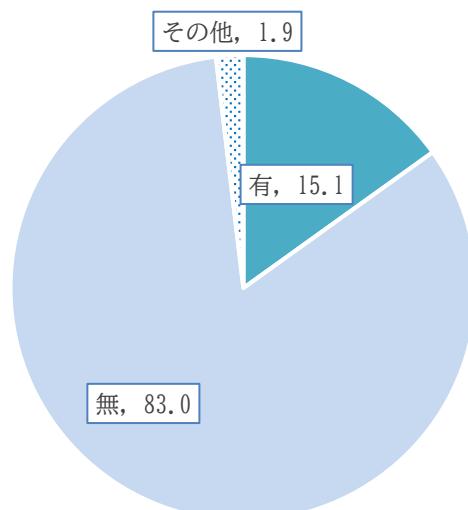
「病院から見た退院の見通し」については、見通し無し 54.7%、見通し有りが 45.3%となっています。

(6) 退院を想定した場合の帰宅先（問9）

《全体》

(%)

n=53



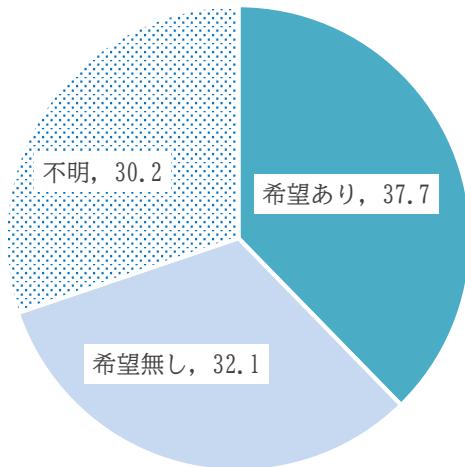
「退院を想定した場合の帰宅先」については、帰宅先無しが 83.0%と多く、帰宅先有りが 15.1%となっています。

(7) 退院に向けた本人の意思（問10）

《全体》

(%)

n=53



「退院に向けた本人の意思」については、「希望有り」が37.7%と最も高く、「希望無し」は32.1%となっています。また、「不明」が30.2%となっています。

8 質的調査（インタビュー調査）

1 質的調査の概要

量的調査（アンケート調査）だけでは汲み取りづらい障害者の思いやニーズを可視化する試みとして、質的調査（インタビュー調査）は、区内通所施設やグループホームを利用している知的障害者・精神障害者及び都外の入所施設の入所者を対象にインタビュー調査を実施しました。また今回の調査より、区内の障害児が利用する施設についても2施設、インタビュー調査を実施しました。

インタビューについては、障害福祉を学ぶ東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科の3、4年生が、同学科の高山直樹教授、志村健一教授の指導の下に調査を行い、障害者の現状や実態を把握するとともに、対応策等を検討したものです。

2 調査対象

- (1)区内の通所施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者
- (2)区内の通所施設を利用する18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- (3)区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する18歳以上の愛の手帳所持者
- (4)区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- (5)区内の放課後等デイサービスを利用する児童
- (6)都外の入所施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者

合計73名

対象施設18か所

【主に知的障害者が利用する施設 11か所】

	施設名	サービス種別		施設名	サービス種類
1	大塚福祉作業所	就労継続支援B型	6	陽だまりの郷	共同生活援助
2	本郷福祉センター (若駒の里)	生活介護	7	ワークショップ やまどり	就労継続支援B型
3	エルムンド小石川	共同生活援助	8	工房わかぎり	就労継続支援B型
4	エルムンド千石	共同生活援助	9	ドリームハウス Ⅲ・Ⅳ	共同生活援助
5	は～と・ピア2	生活介護	10	ワークプレイス ぶんぶん	就労継続支援B型
			11	こぱん	生活介護

【主に精神障害者が利用する施設 5か所】

	施設名	サービス種別		施設名	サービス種類
1	銀杏企画Ⅱ	就労継続支援B型	4	文京ホームアンダ ンテ	共同生活援助
2	ホームいちらう	共同生活援助	5	abeam (アビーム)	就労継続支援B型
3	エナジーハウス	地域活動支援センター			

【障害児が利用する施設 2か所】

施設名	サービス種別
1 放課後等デイサービス JOY	放課後等デイサービス
2 放課後等デイサービスロード	放課後等デイサービス

【主に知的障害者が入所する都外入所施設 4か所】

※施設名については、個人情報保護の観点から明らかにしていません。

3 調査方法

面接法（グループ・インタビュー）

4 調査内容

属性、日中及び施設での活動、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、地域との交流、将来の希望等

5 調査時期

令和7年8月～12月

6 現状・課題と対応策（一部抜粋）

(1) 主に知的障害者が利用する就労継続支援B型事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
交友関係の範囲が狭く、社会的なつながりが限定されている	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の趣味を介した施設同士の交流を促進する ・地域交流の活動で利用者が主体性を高められる機会を増やす
災害対策が不十分で不安を抱えている	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の内容を充実させる ・個別避難計画を拡充させる ・地域との交流を促進し、助け合える関係性を構築する
金銭面における不安を抱えている	<ul style="list-style-type: none"> ・得意分野を踏まえた就労支援 ・スキルアップのための研修や資格取得の機会を設ける ・地域との協働によるイベントの実施

(2) 主に精神障害者が利用する通所施設(就労継続支援 B型事業所及び地域活動支援センター)のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
新たな人間関係の構築の機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの伴走型の参加支援 ・大学のイベントへ学生と参加 ・地域内の交流の場を拡大 ・他施設との交流
災害発生時の対応を自分事として考えられていない	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち運びに便利な防災パンフレットの作成 ・各利用者用のサービス等利用計画に災害時の対応について記載し、関係者間で共有
必要な支援を適切に受けるための環境不足	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の公共交通不便地域への対応策の導入、実施 ・交通機関の職員への障害者理解の促進 ・ヘルプマークの代替アイテム創出

(3) 主に知的障害者が利用する生活介護事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
(地域) <ul style="list-style-type: none"> ・地域に活動の場が少ない ・本人の持つ選択肢が限定的 ・生活が施設の中で完結している 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を中心として地域に活動の場を広げる（利用者の選択で参加の有無を決める） ・利用者のニーズで活動を組み、地域の声も反映していく
(家族) <ul style="list-style-type: none"> ・家族が本人の生活や考えに与える影響が大きい ・家族のいない利用者が抱える孤独感 ・将来的な家族支援への懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との時間の代替となるような居場所や思い出の提供 ・家族以外に頼ることのできる存在や多様な考え方につれられる環境整備 ・長期的な支援計画の実践
(災害) <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と職員間における防災意識の差 ・災害に対する関心が実際の防災へと結びついていない ・避難所での支援に対する不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者も理解しやすい防災の実施 ・利用者の声を取り入れた防災計画の実践

(4) 主に知的障害者が入居する共同生活援助(グループホーム)事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
将来の夢と現状の大きなギャップ	<ul style="list-style-type: none"> ・将来まで満足できる支援の提供 ・非日常的な支援（バーチャル体験での夢の実現等）の提供
災害避難時の居場所がない	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所の活用 ・職員と利用者の日ごろからの災害意識の共有
コミュニケーション不足により、情報を得られる体制が整えられていない	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内でのコミュニティの形成 ・地域との交流 ・障害福祉サービス間での情報共有

(4) 主に精神障害者が入居する共同生活援助(グループホーム)事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
人間関係の固定化	グループホーム内のイベントの増加
施設退所後の不安	退所後も切れ目ない支援を続ける
災害時の薬関係の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師との連携 ・災害カードの作成

(5) 障害児が利用する放課後等デイサービス事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
バス停から施設までの距離が遠くて不便	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停から施設までのシャトルバスをだす ・誰か1人バス停から施設まで迎えに行く職員をつける
災害時の防災意識が低い	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に被災時のシミュレーションをする機会を設ける ・防災マップを自分たちで作る機会を設ける ・起震車など災害を体験できる機会を設ける
人との交流が家族や施設内の友人に限定	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で障害についての啓発活動 ・施設と学校の連携をより強いものとする

(5) 主に知的障害者が利用する都外入所施設のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
文京区への思いに関するアセスメントの必要性	施設周辺の相談支援事業所や入所施設のサービス管理責任者、支援者では、難しいアセスメントになるため、文京区行政が支援チームの中に入り、意思決定支援に主体的に関わっていく必要がある
文京区への地域移行の意向を把握する必要性	地域移行の社会資源である、グループホーム等の居住の確保が求められる
一時的な里帰りの体験の必要性	文京区内で生活体験を行うことができる資源をつくる必要がある。